

生シタルモノト檢定シタルトキハ其賠償金額ニ就キ供給者ト商議ス可シ若シ調和セサルトキハ評價委員ニ付ス可シ

兵長若シ毀損ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ檢査シ其調査書ヲ作り 供給者ノ請求金額アルモノハ之ヲ添 其關係ノ陸海軍官憲ニ差出ス可シ但調査書ニハ毀損ノ事由實況并ニ請求金額ニ係ル自己ノ意見ヲ記ス可シ

第四十八條 徵發令第三十三條ニ掲クル期日ヲ超エタル届出ハ之ヲ受理ス可カラス但變災厄難ニ罹リタルノ確証アルモノハ其變災厄難ヲ免レタル時ヨリ期日ヲ算ス可シ

第四十九條 徵發令第三十四條ニ從ヒ府知事縣令ハ其管下市場三ヶ所以上ノ前三年間ノ平均價表ヲ第七號雛形ニ依リ調製シ毎年三月三十一日限リ陸軍省ニ差出スヘシ

第五十條 徵發令第三十五條中平常ノ賃價トアルハ戰時若クハ事變ニ際シテハ勿論演習又ハ行軍ノ際ニ於テモ之カ爲メ臨時ニ騰貴セサル以前ノ賃價ヲ言フ

徵發令中平常ノ賃價トアルモノハ皆此例ニ依ル

第五十一條 徵發令第三十五條及ヒ第三十八條ニ掲クル平常ノ賃價雇賃賃賃ハ郡區長確認ノ上供給ヲ受クル所ノ陸海軍官憲ニ申出可シ

其他徵發令中ニ掲クル平常ノ賃價損料及ヒ代價ハ兵長ヨリ陸海軍官憲ニ申出可シ

第五十二條 徵發令第三十九條ニ從ヒ陸海軍省ニ於テ定ム可キ所ノ賠償金ハ兩省同額タル可シト雖モ本條例第三十二條ニ從ヒ臨時ニ食飼ノ定鼠ヲ變換若クハ減少スルニ於テハ其現量ニ從ヒ賠償ス可シ

第五十三條 徵發令第四十二條中航舶賃費トハ石炭油脂其他日用消耗品ノ航舶中現ニ消耗シタルモノ、代價ニシテ其物品ヲ船舶ニ積入レタルトキノ現價ニ依リ計算ス可キモノトス

第五十四條 徵發物件ノ毀損其使用ノ爲メニ非サルモノ及ヒ操業者ノ過失ニ出ルモノハ賠償セス但船舶ヲ借切トシテ徵用シタルトキ並ニ物件ヲ操業者ト分別シテ徵用シタルトキノ毀損ハ總テ之ヲ賠償ス

第五十五條 評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名徵發區ニ從ヒ府縣郡區吏員若クハ兵長一名及ヒ其町村評價場所ノ住民ニシテ其事件ニ熟達シタルモノ若シ熟達シタルモノナキトキハ他町村ノ住民ヲ用ユルモ 二名若クハ四名ヲ以テ編制シ其評價ハ多數ニ依テ決ス

鐵道會社船舶會社ニ屬スルモノ及ヒ大演習ノ爲メニ生シタル地所ノ損害ニ係ル評價委員ハ陸軍若クハ海軍官憲二名府縣吏員一名及ヒ其事件ニ熟達シタル人民二名若クハ四名ヲ以テ編制ス

第五十六條 評價委員ニ撰用ス可キ人民ハ其事件ニ關係ナキモノニシテ地方吏員若クハ兵長ニ於テ撰擧スヘキモノトス

其撰擧セラレタルモノハ正當ノ事由ナクシテ之ヲ辭スルヲ得ス

第五十七條 其撰擧セラレタルモノニハ陸軍若クハ海軍ヨリ該府縣會議員ト同一ノ旅費日當ヲ給ス可シ

第五十八條 評價ノ爲メ府縣郡區吏員若クハ兵長ノ派出ヲ要スルトキハ其事件ニ關係ノ

陸海軍官憲ヨリ之ヲ府知事縣令郡區長若クハ戸長ニ通達ス可シ

第五十九條

評價ノ方法ハ評價スヘキモノノ種類ニ從ヒ精密ニ調査シ其價額ヲ評定スルヲ要トス左ニ地所損害ニ關スル評價ノ一例ヲ掲ク

演習ノ爲メ地所ノ損害ヲ届出タルトキハ評價委員ニ於テ實況ヲ查覈シ其請求スル所ノ賠償金額ノ當否ヲ審ニシ相當ナルトキハ直ニ之ヲ認可シ若シ其請求ノ金額定マラス或ハ過當ナリト認ムルトキハ實測スヘシ

評價委員評價畢ルノ後左ニ掲クル要目ニ准シ所有主等ニ評價明細書ヲ製ス可シ

一 評價ノ事項及ヒ事由

二 委員ノ氏名

三 地面ノ廣袤ハ何ヲ以テ定メタルヤ何圖面何書類ニ依リタル歟又ハ實測シタル歟金額ノ算出ハ如何ナル

方法ニ依リタルヤ其季ノ收穫皆無タル歟又ハ實測シタル歟依リ其植物ノ前何年平均ヲ以テ賠償金額

ヲ全部收穫ノ前何年平均額ヨリ算出シタルカ植物生熟ノ度ニ從ヒ其平均收穫量

ニ應シ賠償スヘキ金額中ヨリ幾分ノ手間賃及ヒ肥料ヲ扣除シタル歟又永存ノ草

木ニシテ毎年收穫アルモノノ損害ヲ受ケタルトキハ其損害ノ收實ニ止マルト枝幹

ニ係ル者トニ從ヒ一年若クハ幾年分ノ收穫ヲ見込ミ賠償金額ヲ定メタルカノ類

第六十條

評價委員ハ評價明細書ヲ製シ府知事縣令郡區長若クハ戸長ニ交付ス可シ府知事縣令郡區長若クハ戸長ハ其明細書ニ依リ賠償金計算書ヲ作り陸海軍官憲ノ指示スル場所ニ就テ賠償金額ヲ請求ス可シ

(別紙附錄諸様式略之)

第十九令
十月九日
第九號
以テ
第二十號
第四形
增加ス

●學事

●小學校令 明治十九年四月 勅令第十四號

- 第一條 小學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス
- 第二條 小學校ノ設置區域及位置ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル
- 第三條 兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トシ父母後見人等ハ其學齡兒童ヲシテ普通教育ヲ得セシムルノ義務アルモノトス
- 第四條 父母後見人等ハ其學齡兒童ノ尋常小學校ヲ卒ラサル間ハ就學セシムヘシ其就學ニ關スル規則ハ文部大臣ノ認可ヲ經テ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル
- 第五條 疾病家計困窮其他止ムヲ得ザル事故ニ由リ兒童ヲ就學セシムルコト能ハスト認定スルモノニハ府知事縣令其期限ヲ定メテ就學猶豫ヲ許スコトヲ得
- 第六條 父母後見人等ハ小學校ノ經費ニ充ツル爲メ其兒童ノ授業料ヲ支辨スヘキモノトス其金額ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル
- 第七條 寄附金及其他ノ收入金アリテ小學校ノ經費ニ供スルトキハ其收入及支出ノ方法ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル
- 第八條 授業料及寄附金等ヲ以テ小學校ノ經費ヲ辨シ能ハサル場合ニ於テハ區町村會ノ議決ニ依リ區町村費ヨリ其不足ヲ補フコトヲ得
- 第九條 小學校教員ノ俸給旅費ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル

學事

第十條 小學校資金ノ收入及支出ハ其管理者ヨリ毎三箇月府知事縣令ニ報告スヘシ

第十一條 小學校ニ屬スル資産ノ管理ニ關スル規程ハ府知事縣令ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 小學校ノ學科及其程度ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十三條 小學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ限ルヘシ

第十四條 私立學校ニ於テ小學校ト均シキ普通教育ヲ兒童ニ施サントスルモノハ豫メ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十五條 土地ノ情況ニ依リテハ小學校簡易科ヲ設ケテ尋常小學校ニ代用スルコトヲ得但
其經費ハ區町村費ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

第十六條 小學校簡易科教員ノ俸給ハ地方稅ヲ以テ之ヲ補助スルコトヲ得

○小學校學科及其程度定方 明治十九年六月 文部省訓令第五號 北海道廳府縣

○小學校簡易科要領 明治十九年五月 文部省訓令第一號 北海道廳府縣

小學校簡易科ハ左ノ要領ニ依リ土地ノ情況ヲ考ヘ其教則ヲ定ムヘシ

小學校簡易科要領

- 一 修業年限 三箇年以内タルヘシ
- 一 學科 讀書作文習字算術
- 一 學級 兒童六十人以下ノ場合ニ於テハ學級ヲ分ツコトヲ得ス其他ハ尋常小學校ニ準ス
- 一 授業時間 毎日二時ヨリ少カラス三時ヨリ多カラス

但算術ノ授業時間總數ノ半以上タルヘシ

○學齡未滿兒童教育方 明治十七年二月 文部省第三號達

學齡未滿ノ幼兒ヲ學校ニ入レ學齡兒童ト同一ノ教育ヲ受ケシムルハ其害不勘候條右幼兒ハ幼稚園ノ方法ニ因リ保育候樣取計フヘシ此旨相達候事

○小學教員免許規則 明治十九年六月 文部省令第十二號

第一條 小學教員免許狀ハ師範學校卒業生及丁年以上ニシテ小學教員學力檢定試驗ニ及第シタルモノニ之ヲ授與スルモノトス

第二條 小學教員免許狀普通免許狀地方免許狀ノ三種トス

第三條 普通免許狀ハ文部大臣ヨリ授與シ全國ニ通シテ有效ノモノトス

第四條 地方免許狀ハ府知事縣令ヨリ授與シ其管轄地方ニ限り有效ノモノトス

第五條 普通免許狀ハ無期有効ノモノトス

第六條 地方免許狀ハ有期若クハ無期有効ノモノトス

第七條 有期ノ地方免許ハ五箇年ヲ以テ一期トス期滿ル毎ニ勤務ノ經歷ニ依リ適任ノモノト認ムルトキハ更ニ免許狀ヲ授與スルモノトス

第八條 有期ノ地方免許狀ヲ有シ五箇年以上勤務ノモノニハ其經歷ニ依リ適任ノモノニ限リ無期ノ地方免許狀ヲ授與スルモノトス

第九條 普通免許狀ハ高等師範學校卒業生若クハ地方免許狀ヲ有シテ五箇年以上勤務シ學術授業トモ超衆ノモノニ之ヲ授與スルモノトス

第十條 有期ノ地方免許狀ハ尋常師範學科卒業生若シクハ小學校教員學力檢定試験ニ及第シタルモノニ之ヲ授與スルモノトス

第十一條 小學校教員學力檢定試験ハ尋常師範學科及其程度ニ據リテ之ヲ施行スヘシ但一科若クハ數科ニ限リタル教員學力檢定試験モ本文ニ準スヘシ

第十二條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノニハ免許狀ヲ授與セス又既ニ授與シタルモノト雖比之ヲ沒收スヘシ

但本文免許狀ヲ沒收シタルモノアルトキハ府知事縣令ヨリ其族籍姓名並ニ事由ヲ具シテ文部大臣ニ開申スヘシ

一 新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレタルモノ

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルコト能ハスニ輕禁錮ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

一 賭博犯處分規則ニ依リ懲罪ニ處セラレタルモノ

一 身代限ノ處分ヲ受ケ未タ辨賞ノ義務ヲ終ヘサルモノ

一 荒酷暴激總テ教員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ

一 舊法ニ依リ懲役若クハ禁錮若クハ鎖錮ノ刑ニ處セラレタルモノ

但贖金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

一 前項ノ刑ニ處セラレ存留養親老小廢疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ聽サレタルモノ

第十三條 前條ノ一項若シクハ數項ニ觸ル、モノト雖モ府知事縣令ニ於テ特ニ小學校教員ヲシメントスルトキハ其族籍姓名並ニ事由ヲ具シテ文部大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第十四條 小學簡易科教員及小學校授業生免許規則ハ府知事縣令之ヲ定ムヘシ

第十五條 小學校教員學力檢定試験ヲ受クル者及小學校教員免許狀ヲ受ルモノハ其手数料ヲ納ムヘシ

但師範學科卒業ノ際免狀ヲ受クル者ハ手数料ヲ納ムルコトヲ要セス
二十年七月省令第五號追加
學力檢定試験手数料ハ願書ト共ニ地方廳ニ差出スヘシ又該手数料ハ願下ヲナシ若クハ試験ニ應セサルトキト雖モ之ヲ還付セザルモノトス
二十年十月省令第十一號追加

第十六條 小學校教員學力檢定試験ニ係ル細則ハ府知事縣令之ヲ定ムヘシ

第十七條 小學校教員免許狀ノ書式左ノ如シ (書式略ス)

○小學校教員假免許狀授與方
明治二十年八月文部省令第七號

地方ノ情況ニ依リテハ當分北海道廳長官府縣知事ハ小學校教員ヲラント欲スル者ノ資格ヲ明治十九年(六月)文部省令第十二號小學校教員免許規則ニ依ラス便宜檢定シテ相當ノ小學校教員假免許狀ヲ授與スルコトヲ得但本文假免許狀ノ有効年限ハ四箇年以内ニ於テ之ヲ定ムヘシ

○小學校教員免許規則發布前ニ授與シタル教員免許有効期限
明治十九年六月文部省令第十三號

文部省令第十二號小學校教員免許規則發布前ニ於テ授與シタル小學校教員免許狀ハ從前

ノ通有効ノモノトス

但小學初等課免許狀ヲ有スルモノハ小學簡易科小學中等科免許狀ヲ有スルモノハ尋常小學科以下小學高等科免許狀ヲ有スルモノハ高等小學科以下ノ教員タルヲ得

○明治十九年十二月文部省令第二十三號

文部省令第十二號小學校教員免許規則發令前東京師範學校及府縣立師範學校ニ於テ授與シタル小學師範學科卒業證書ハ其有効年限間小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトス初等師範學科卒業證書ヲ有スルモノハ尋常小學科以下中等及高等師範學科卒業證書ヲ有スルモノハ高等小學科以下ノ教員タルコトヲ得

○明治二十年八月文部省令第六號

明治十九年(六月)文部省令第十三號ヲ以テ從前ノ通有効ノモノトナシタル小學校教員免許狀ヲ有スル者及明治十九年(十二月)文部省令第二十三號ヲ以テ小學校教員免許狀ト同一ノ効ヲ有スルモノトナシタル小學師範學科卒業證書ヲ有スル者ニシテ該免許狀若クハ卒業證書ノ有効期滿ニ至リ猶教員タラント欲スル者ハ北海道廳長官府縣知事ニ於テ其勤務ノ經歷ヲ調査シ適任ト認メタル者ニ限り更ニ該免許狀若クハ卒業證書ノ有効年限ヲ五箇年以内延期スルコトヲ得

○小學教員地方免許狀手数料取扱方 明治十九年十一月

文部省令第十二號第四條ニ據リ授與スル小學校教員地方免許狀手数料並該免許狀書換手数料取扱方ハ文部省訓令第三號ニ準據スヘシ

○小學教員普通免許狀手数料及書換手数料金額 明治二十年二月

文部省令第十二號第九條ニ據リ授與スル小學校教員普通免許狀ノ手数料ハ金壹圓ト定メ該免許狀書換ノ手数料ハ金五十錢ト定ム

○同手数料取扱方 明治十九年十一月

北海道廳府縣

文部省告示第一號小學校教員普通免許狀手数料並該免許狀書換手数料取扱方ハ文部省訓令第三號ニ準據スヘシ

○師範學校令 明治十九年四月

第一條 師範學校ハ教員トナルヘキモノヲ養成スル所トス

假生徒ヲシテ順良信愛威重ノ氣質ヲ備ヘシムルコトニ注目スヘキモノトス

第二條 師範學校ヲ分テテ高等尋常ノ二等トス高等師範學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス

第三條 高等師範學校ハ東京ニ一箇所尋常師範學校ハ府縣ニ各一箇所ヲ設置スヘシ

第四條 高等師範學校ノ經費ハ國庫ヨリ尋常師範學校ノ經費ハ地方稅ヨリ支辨スヘシ

但師範學校附屬小學校ノ經費ハ簡易科ニ係ルハ授業料ヲ以テ支辨スヘシ授業料ノミヲ以テ支辨シ能ハサル場合ニ於テハ其不足額ハ訓導俸給ヲ除クノ外尋常師範學校經費ヨリ支辨スヘシ

第五條 尋常師範學校ノ經費ニ要スル地方稅ノ額ハ府知事縣令其豫算ヲ調整シ文部大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 師範學校長及教員ノ任期ハ五箇年トス滿期ノ後猶ホ繼續スルコトアルヘシ

學事

第七條 尋常師範學校長ハ其府縣ノ學務課長ヲ兼ヌルコトヲ得

第八條 師範學校生徒ノ募集及卒業後ノ服務ニ關スル規則ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第九條 師範學校生徒ノ學資ハ其學校ヨリ之ヲ支給スヘシ

第十條 高等師範學校ノ卒業生ハ尋常師範學校長及教員ニ任スヘキモノトス但時宜ニ依リ各種ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得

第十一條 尋常師範學校ノ卒業生ハ公立小學校長及教員ニ任スヘキモノトス但時宜ニ依リ各種ノ學校長及教員ニ任スルコトヲ得

第十二條 師範學校ノ學科及其程度并教科書ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

●尋常師範學校官制 明治十九年十月 勅令第六十五號

第一條 尋常師範學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

教頭

教諭

助教諭

幹事

舍監

訓導

書記

第二條 學校長ハ府縣知事ノ命ヲ承ケ校務ヲ整理シ教頭以下ノ教員ヲ統督ス但學校長ヲ置カサルトキハ學校長補ヲ置キ學校長ノ職務ヲ掌ラシム

第三條 教頭ハ教諭中ヨリ之ニ兼任シ學校長ノ監督ニ屬シ教務ヲ整理シ教室ノ秩序ヲ保持スルコトヲ掌ル

第四條 教諭ハ學校長及教頭ノ監督ニ屬シ教授ノ事ヲ掌ル

第五條 助教諭ハ學校長及教頭ノ監督ニ屬シ教諭ノ職掌ヲ助ク

第六條 幹事ハ學校長ノ指揮ヲ受ケ庶務ヲ管理ス

第七條 舍監ハ學校長及幹事ノ指揮ヲ受ケ寄宿舍ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 訓導ハ學校長及教頭ノ監督ニ屬シ附屬小學校生徒教授ノ事ヲ掌リ兼テ師範生徒實地練習ノ事ヲ助ク

第九條 書記ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條 教諭助教諭訓導ノ員數ハ學科ノ輕重及生徒ノ員數ニ應シテ之ヲ定ム

第十一條 學校長及ヒ教頭ハ委任ノ待遇ヲ受ケ學校長補以下ハ判任ノ待遇ヲ受ク但尋常師範學校職員ハ勅令第六號高等官官等俸給例勅令第三十六號判任官官等俸給令及明治十七年太政官達恩給令ノ限ニアラス

○尋常師範學校職員俸額表 明治十九年十月 文部省訓令第八號

學校長年俸 千貳百圓以下六百圓以上

學校長補月俸 五十圓以下四十圓以上

教頭年俸 千圓以下五百圓以上
教諭月俸 七拾五圓以下三拾圓以上
助教諭月俸 三拾圓以下拾五圓以上
幹事月俸 五拾圓以下三拾圓以上
舍監月俸 三拾圓以下拾五圓以上
訓導月俸 三拾圓以下拾圓以上
書記月俸 貳拾圓以下拾圓以上
明治十九年五月 文部省令第十號
第一條 尋常師範學校生徒募集規則 尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ資格ヲ有スルモノヨリ募集スヘシ
 一 身體強健ニシテ師範學校令第一條但書ノ目的ヲ達シ得ヘキト認ムルモノ
 一 高等小學校卒業以上ノ學力ヲ有スルモノ
 一 齡十七年以上二十年以下ノモノ
 但第二條第一種ノモノハ此限リニアラス
 一 其府縣下在籍ノモノ
第二條 尋常師範學校ノ生徒ハ左ノ二種ヨリ募集スヘシ
第一種 郡區長ノ薦舉ニ係ルモノ
第二種 直ニ師範學校ニ願出タルモノ
第三條 尋常師範學校ニ於テハ入學志願者ノ身體學力等ヲ檢定シテ之ヲ選フヘシ

身體ノ檢定ハ府縣立病院或ハ他ノ適當ノ醫員ヲシテ施行セシメ學力ノ檢定ハ高等小學
 校ノ學科程度ニ依テ之ヲ施行スヘシ
第四條 生徒ノ募集ハ毎年一度學期ノ始メニ於テシ其期日及員數ハ其都度前以テ廣告ス
 ヘシ
第五條 入學ヲ許可セントスルトキハ初メ試驗生トシテ一箇月以上三ヶ月以内假ニ入學
 セシメ其資性品行等ヲ審察シ適當ト認ムルモノニ限リ本入學ヲ許スヘシ
第六條 入學志願者ノ願書薦舉書及履歷書ハ左式ニ依テ之ヲ出スヘシ
 第一種志願者願書式
 志願者 某ノ名 儀小學校教員志願ニ付御校へ入學ノ許可ヲ得度何郡區長薦舉書相添へ此段相
 願候也
 何府縣何國何郡區何町村何番地居住誰方同居
 何府縣華士族平民
 戶主誰長男女弟妹等
 年月日 入學志願者 姓 名 印 當年何年何月幾年幾月
 何師範學校長某殿 薦舉書式
 族籍

右ノ者儀像テ當郡區内小學校教員志願ニ付今般御校生徒ノ募集ニ應シ入學志願ノ旨申出候尤モ同人儀ハ別紙履歷書ノ通何年何月當郡區ノ何小學校卒業生ニシテ爾來何職ニ從事シ若クハ何郡區何學校ニ於テ何科ヲ修メ云々其資性品行ニ付テハ師範學校令第一條但書ノ目的ヲ達スルニ適スル者ト認メ候ニ付薦舉候也

年月日

何郡區長

姓

名

何師範學校長某殿

第二種志願者願書式

志願者 儀小學校教員志願ニ付御校へ入學ノ許可ヲ得度尤モ某ノ身上ニ關スル事件ハ某ノ名 保證人ニ於テ一切引受ケヘク候間別紙履歷書相添此段相願候也

何府縣何國何郡區何町村何番地居住誰方同居

何府縣華士族平民

戶主誰長男女弟妹等

年月日

入學志願者

姓

名

印

當何年何月幾年幾月

何府縣何國何郡區何町村何番地居住

何府縣華士族平民

保證人

姓

名

印

何師範學校長某殿

前書保證人ハ保證ノ責ニ任シ得ルモノト認ム

年月日

何府縣何國何郡區長

姓

名

印

履歷書式

履歷書

何府縣何國何郡區何町村何番地居住誰方同居

何府縣華士族平民

戶主誰長男女弟妹等

生所

何府縣何國何郡區何町村

姓

名

印

一何年何月ヨリ何年何月マテ何所何學校ニ於テ何科修業

一何年何月何所何學校ニ於テ何科卒業證書ヲ受領ス

卒業證書ノ寫

何々

一何年何月ヨリ何年何月マテ何所何誰ニ就キ何學修業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何職ニ從事ス

一何年何月ヨリ何年何月マテ何學校補助員ニ雇ハル

一何年何月何所ニ於テ何廉ニ付何賞ヲ受ケ或ハ何罰ヲ受ク

學事

一何々

年月日

第七條 保証人ハ其府縣下ニ本籍ヲ定メ現ニ入學志願者居住ノ郡區内ニ居住スル戸主タルヘシ

第八條 但師範學校長ニ於テ保証人ヲ不充分ト認ムルトキハ之ヲ易ヘシムルコトアルヘシ
保証人ノ住所師範學校ノ所在地ヨリ一里以外ニアルキハ別ニ其以内ニ居住者クハ寄留スルモノヲ以テ保証人代理者トナシ豫メ其學校ニ届置不時急劇ノ用ニ應スヘシ

第九條 尋常師範學校生徒ノ員數ハ左ノ表ノ如シ

尋常師範學生徒員數表

府縣名	生徒數	府縣名	生徒數
東京	一〇〇	青森	一二〇
京都	一五〇	山形	一五〇
大阪	二四〇	秋田	一五〇
神奈川	一二〇	福井	一四〇
兵庫	二〇〇	石川	一五〇
長崎	一二〇	富山	一四〇
新潟	二四〇	鳥取	一〇〇

學事

第十條 北海道及沖繩縣ハ追テ之ヲ定ムヘシ

郡區長ノ薦舉ニ係ル生徒ノ員數ハ郡區長ノ所轄區域毎ニ府知事縣令之ヲ定ムヘシ

埼玉	一五〇	嶋根	一四〇
群馬	一四〇	岡山	一八〇
千葉	一五〇	廣島	一八〇
茨城	一四〇	山口	一五〇
椛木	一〇〇	和歌山	一四〇
三重	一五〇	徳島	一四〇
愛知	二〇〇	愛媛	二〇〇
静岡	一五〇	高知	一五〇
山梨	一〇〇	福岡	一五〇
滋賀	一二〇	大分	一四〇
岐阜	二〇〇	佐賀	一〇〇
長野	二〇〇	熊本	一五〇
宮城	一二〇	宮崎	一〇〇
福島	一八〇	鹿兒島	一五〇
岩手	一五〇		

第十一條 郡區長ノ薦舉ニ依ル方法ハ府知事縣令之ヲ定ムヘシ

○尋常師範學校卒業生服務規則 明治十九年五月

第一條 尋常師範學校卒業生服務年限ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五年トシ其間教職ニ從事スルノ義務ヲ有スルモノトス

第二條 尋常師範學校卒業生ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五年間其府知事縣令指定ノ學校ニ奉職スルノ義務ヲ有スルモノトス

但郡區長ノ薦舉ニ係ル生徒ハ卒業證書受得ノ日ヨリ五年間其郡區長指定ノ小學校ニ奉職スルノ義務ヲ有スルモノトス

第三條 第一條第二條ノ義務ヲ盡スアタハサルノ事故アルモノハ其事由ヲ具シテ府知事縣令ノ指揮ヲ請フヘシ

第四條 第一條第二條ノ義務ヲ終ヘタルモノハ其經歷書ヲ具シテ其府縣廳ニ届出ツヘシ

第五條 謂ハレナク第一條第二條ノ義務ヲ盡サ、ルモノ或ハ服務年限内ニ於テ品行不正ニシテ其職務ヲ免シタルモノアルトキハ其郡區府知事縣令之ヲ文部大臣ニ具申スヘシ

第六條 府知事縣令ハ服務規則ニ關スル細則ヲ定ムルコトヲ得

○師範學校生徒學資支辨種目 明治十九年六月

第一項 生徒ノ學資ハ左ノ五種目ヲ支辨スルモノトス

一食物

一被服

一日用品

一修理及湯浴

一週間手當

第二項 食物ハ主ハラ衛生上ニ注意シテ之ヲ賄フヘシ

第三項 被服ハ左ノ九種トス一定ノ時期ニ於テ之ヲ給シ若シ所定ノ期限内ニ於テ之ヲ損傷シ更ニ交付スルヲ要スルトキハ其費用ハ本人ヨリ徵收スヘシ

一冬衣袴

一夏衣袴

一冬シヤツ袴下

一夏シヤツ袴下

以上四種ハ入學ノ初年各二組ヲ給シ次年ヨリ各一組ヲ給ス

一外套

在學中一枚ヲ給ス

一靴

以上二種ハ一ヶ年各二足ヲ給ス

一帽子師ノ字ノ徽章ヲ付ス

學事

在學中二箇ヲ給ス

一靴下

一ヶ月二足ヲ給ス

第四項 日用品ハ左ノ六種トシ時ノ需要ニ應シテ適宜之ヲ給スヘシ

一墨汁

一紙半紙洋紙書

一紙學用紙等

一筆ペンペン軸石筆

一鉛筆常用書

一石油

一炭

第五項 修理ハ被服ノ洗濯及靴ノ修履トス湯浴ハ寄宿舎構内ニ其場ヲ設クヘシ

第六項 一週間手當ハ毎土曜日ニ於テ其日在學ノ生徒一人ニ付金拾錢ヲ給スヘシ

第七項 給與シタル被服及日用品ハ卒業シテ退學スルモノニ在テハ之ヲ返納セシムルヲ要セスト雖モ半途退學ヲ命シタルモノハ其時ノ現存品ヲ悉皆返納セシムヘシ

第八項 夏季休業中ハ生徒ニ食費及一週間手當ヲ給シ歸郷セシムヘシ

第九項 發病ノ生徒ニ療養ヲ命シタルトキハ其費用ヲ給スヘシ

第一條 尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則 明治十九年十二月
文部省令第廿一號
尋常師範學校及高等女學校教員免許狀ハ高等師範學校卒業生及丁年

以上ニシテ文部省ノ檢定ヲ經タルモノニ之ヲ授與スルモノトス

第二條 高等師範學校ノ男子師範學科卒業生ニハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校ノ教員免許狀ヲ授與シ女子師範學科卒業生ニハ尋常師範學校女子部及高等女學校ノ教員免許狀ヲ授與シ體操專修科卒業生ニハ體操ノ教員免許狀ヲ授與ス

第三條 高等師範學校ノ卒業生ニアラシテ某學科ノ教員免許狀ヲ得ント欲スルモノハ文部省ノ檢定ヲ受クヘシ

第四條 檢定ハ毎年一回文部大臣檢定委員ヲシテ之ヲ施行セシム

第五條 檢定ノ要目左ノ如シ

一學力

一品行

一身體

第六條 學力ノ檢定ハ試驗ニ依ル

但内外國高等學校卒業生等ハ檢定委員ニ於テ教員タルニ適スヘキ學力アリト認ムルモノニ限リ特ニ本文ノ例ニ依ラサルコトアルヘシ

第七條 試驗ハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校ノ學科中受檢者志願ノ學科ニ就テ之ヲ施行シ該學科教員タルニ適スルヤ否ヲ判ス

第八條 身體ノ檢定ハ檢査ニ依ル

第九條 檢定ヲ受ケント欲スルモノハ族籍姓名宿所生年月及志願ノ學科ヲ記シタル願書

ニ左ノ書面ヲ添ヘ文部省宛地方廳ニ差出スヘシ北海道廳長官府縣知事ハ本人ノ品行ニ付意見ヲ付記シテ文部大臣ニ差出スヘシ

一學業義務賞罰等ノ履歷ニ係ル書面

一學業証書免狀ノ寫

第十條 檢定ヲ受ケント欲スルモノハ檢定料金貳圓ヲ納ムヘシ

但檢定料ハ願書ト共ニ地方廳ニ差出スヘシ

第十一條 免許狀ハ分チテ一等二等三等トシ初メテ授與スル免許狀ハ三等トス又第六條但書ニ依リ授與スル免許狀ハ無等トス其既ニ得タル免許狀ヨリ高等ノ者ヲ得ント欲スルモノ及無等免許狀ヲ有スルモノニシテ相當ノ有等免許狀ヲ得ント欲スルモノハ更ニ檢定ヲ受クヘシ

但一等免許狀ハ二等免許狀ヲ有シ五箇年以上二等免許狀ハ三等免許狀ヲ有シ二箇年以上上級職ニ從事シ其性格能幹超衆ノ者ニ限リ授與スル者トス其既ニ差出シタル檢定料ハ願下チナシ若クハ試験ニ應セサルキト雖之ヲ還付セサル者トス

第十二條 免許狀ヲ受ルモノハ高等師範學校卒業生ヲ除クノ外免許料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十三條 免許狀ヲ毀損亡失シ若クハ姓名ヲ變更シタルカ爲メ其書換ヲ請フモノハ書換料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十四條 左ノ一項若クハ數項ニ觸ル、モノニハ免許狀ヲ授與セス又既ニ授與シタルモノト雖モ之ヲ沒收ス

但特別ノ事情アルモノハ本文ノ例ニ依ラサルコトアルヘシ

一新法ニ依リ輕重禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ信用又ハ風俗ヲ害スル罪ヲ犯シテ罰金ノ刑ニ處セラレ若クハ監視ニ付セラレタルモノ

但信用又ハ風俗ヲ害スル罪ニアラサルモノヲ犯シ罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ輕禁錮ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限リニアラス

一賭博犯處分規則ニ依リ懲罰ニ處セラレタルモノ

一身代限ノ處分ヲ受ケ未ダ辨償ノ義務ヲ終ヘサルモノ

一荒酷暴激等總テ教員タルノ面目ニ關スル所行アルモノ

一舊法ニ依リ懲役若クハ禁錮若クハ鎖錮ノ刑ニ處セラレタルモノ

但贖金罰金ヲ納ムルコト能ハスシテ本文ノ刑ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス

一前項ノ刑ニ處セラレ存留養親老小癡疾婦女等ノ故ヲ以テ收贖ヲ聽サレタルモノ

第十五條 前條ノ處分ヲ要スルモノアルトキハ北海道廳長官府縣知事ヨリ文部大臣ニ具申スヘシ

免許狀樣式

何等免許狀 (第六條但書ニ依リ授與スルモノハ等ヲ付セス)

族籍

姓名

生年月

學事

右何學校何科教員タルコトヲ免許ス

文部
年月日
省印

文部大臣位勳爵姓名印

割印

番號

輪廓ハ高等師範學校卒業生ニ授與スルモノハ紅色トシ第六條ニ依リ授與スルモノハ綠色トシ第六條但書ニ依リ授與スルモノハ藍色トズ

○同規則發布前ニ授與シタル中學校師範學校免許狀師範學科卒業証
有効期限 明治十九年十二月
文部省令第二十二號

文部省第二十一號尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則發令前文部省ニ於テ授與シタル中學校師範學校教員免許狀及東京師範學校ニ於テ授與シタル中學校師範學科卒業證書ハ尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許狀ト同一ノ効チ有スル者トス

○尋常師範學校附屬小學校授業料ノ取支豫算議定方 明治二十年十一月
內務省訓令第四十九號
府縣(沖繩縣ヲ除ク)

尋常師範學校附屬小學校授業料ハ本年勅令第五十六號ノ規定ニ據リ地方稅一般ノ雜收入ト混淆スヘカラサル者ニ付右授業料收ノ支豫算ハ別議案ヲ以テ府縣會ノ議定ニ付スヘシ

●中學校令 明治十九年四月
勅令第十五號

第一條 中學校ハ實業ニ就カント欲シ又ハ高等ノ學校ニ入ラント欲スルモノニ須要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 中學校ヲ分チテ高等尋常ノ二等トス高等中學校ハ文部大臣ノ管理ニ屬ス

第三條 高等中學校ハ法科醫科工科文科理科農業商業等ノ分科ヲ設クルコトヲ得

第四條 高等中學校ハ全國北海道沖繩ヲ五區ニ分畫シ每區ニ一箇所ヲ設置ス其區域ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第五條 高等中學校ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支辨シ又ハ國庫ト該學校設置區域内ニ在ル府縣ノ地方稅トニ依リ之ヲ支辨スルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ其管理及經費負擔ノ方法等ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六條 尋常中學校ハ各府縣ニ於テ便宜之ヲ設置スルコトヲ得但其地方稅ノ支辨又ハ補助ニ係ルモノハ各府縣一箇所ニ限ルヘシ

第七條 中學校ノ學科及其程度ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依ル

第八條 中學校ノ教科書ハ文部大臣ノ檢定シタルモノニ限ルヘシ

第九條 尋常中學校ハ區町村費ヲ以テ設置スルコトヲ得ス

●高等中學校設置區域内府縣委員會規則 明治二十年九月
勅令第四十六號
第一條 委員會ハ九月若クハ十月ニ於テ高等中學校所在ノ府縣廳下ニ之ヲ開ク其開閉ハ該學校設置區域内各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事ヨリ之ヲ命ス會期ハ七日以内トス

但各府縣知事協議ノ上内務大臣ノ認可ヲ得テ開會ノ場所ヲ變更スルコトヲ得

第二條 委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會ニ於テ議定シタル事件ノ要領ヲ報告スヘシ

第三條 委員ノ任期ハ一會期限リノモノトス

但前任ノ者ヲ再選スルコトヲ得

第四條 委員會ノ書記ハ開會地ノ府縣知事其應ノ屬官若クハ雇員中ヨリ之ヲ選任スヘシ

第五條 委員會ノ諸費ハ之ヲ各府縣ニ平分シ其府縣會議諸費ヨリ支辨スヘシ

第六條 府縣會議規則第三條第四條第五條第九條第十一條第二十五條第二十六條第二十七

條第二十八條第二十九條第三十條第三十二條第三十三條ハ此委員會ニ適用シ其條項中

府縣知事ノ職權ニ屬スルモノハ各府縣知事協議ノ上開會地ノ府縣知事之ヲ施行スヘシ

●高等中學校經費支辨方 明治二十年八月 勅令第四十號

中學校令第五條ニ依リ高等中學校ノ經費ヲ國庫金ト地方稅トヲ以テ支辨スル場合ニ於テ

ハ該學校設置區域内ニ在ル府縣地方稅ノ負擔總額ハ當分ノ内文部大臣之ヲ定メ各府縣分

擔額ハ府縣知事協議ノ上之ヲ査定シ府縣常置委員ノ互撰ヲ以テ各委員三名ヲ出シテ之ヲ

議定シ其徵收方法ハ各府縣會ニ於テ議定スヘシ

但地方稅ノ負擔額ハ該學校經費總額ノ二分一ヲ超過スルコトヲ得ス

●諸學校通則 明治十九年四月 勅令第十六號

第一條 師範學校ヲ除クノ各種ノ學校又ハ書籍館ヲ設置維持スルニ足ルヘキ金額ヲ寄附

シ其管理ヲ文部大臣又ハ府知事縣令ニ願出ルモノナルトキハ之ヲ許可シ官立又ハ府縣

立ト同一ニ之ヲ認ムルコトヲ得但寄附人ノ望ニ依リ其名稱ヲ附スルコトヲ得

第二條 寄附金ハ其寄附人ヨリ指定セシ用途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス

第三條 學校幼稚園書籍館等ノ設置變更廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部大臣ノ認可ヲ經

ヘク其區町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ其私立ニ係ルモノハ設置變更

ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘク廢止ハ府知事縣令ニ上申スヘシ

第四條 凡教員ハ文部大臣若クハ府知事縣令ノ免許狀ヲ得タルモノナルヘシ

第五條 公立學校ノ用地ハ免稅タルヘシ

●公立學校職員名稱及待遇 明治十九年十二月 閣令第三十五號

公立學校職員ノ名稱ハ尋常中學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ於テハ學校長教諭助教諭

書記トシ小學校及等位ノ之ニ準スヘキ學校ニ於テハ學校長訓導トシ總ヲ判任ヲ以テ待遇

スヘシ

○某學校教員免許狀ヲ有スル者其等位ニ準スヘキ學校教員タルコトヲ得

明治十九年十二月

某學校ノ教員免許狀ヲ有スルモノハ等位ノ該學校ニ準スヘキ諸學校以下ノ教員タルコト

ヲ得

○學校生徒卒業ノトキ學力人物證明書授與方 明治二十年八月 文部省訓令第十一號

凡ソ學校ニ於テハ畜ニ其生徒ノ學力ノミナラス兼テ人物ノ如何ニ注目シテ學力ト人物ト

ヲ査定シ各尋常優等ノ二等トシ卒業ノトキニ至リ之ヲ證明スル証書ヲ授與セシムヘシ就
中尋常師範學校生徒卒業ノ上高等小學校長ニ任シ若クハ高等師範學校生徒ニ選舉スルモ
ノ、如キハ先ツ其人物ノ優等ナルモノヨリ之ヲ撰拔スヘシ

●**公立小學校教科用圖書採定方法** 明治二十年三月文部省訓令
第三號 北海道廳 府縣

第一條 北海道廳長官府縣知事ハ公立小學校ノ教科用圖書ヲ新定又ハ更定セントスル
トキハ其都度小學校教科用圖書審査委員ヲ設ケテ其事由ノ當否實施ノ時期等ヲ審議セ
シメ併セテ圖書ヲ採擇セシムヘシ

第二條 審査委員ハ左ノ諸員ヲ以テ組織スヘシ

一 尋常師範學校長若クハ長補

二 學務課員一名

三 尋常師範學校教頭及附屬小學校上席訓導

四 小學校教員三名

五 該地方經濟上ノ情況ニ通スル者二名

第三條 北海道廳長官府縣知事ハ審査ニ係ル圖書ニ掲載スル所ノ事物ニ通スル教員等ヲ
シテ該圖書ノ採擇上ニ限り審査委員ト同一ノ資格ヲ以テ便宜之ニ參與セシムヘシ但一
種類ノ圖書ニ付一名ニ限ルヘシ

第四條 審査委員ニ於テ審査上ニ關スル事項ヲ決定スルハ會議ニ依ルヘキモノトス

第五條 北海道廳長官府縣知事ハ審査委員中ニ就キ審査委員會議ノ議長ヲ命スヘシ

第六條 審査委員ハ自己及其親屬並其地方廳學務課員ノ著撰譯述編纂校閱及出版等ニ係

ル圖書ヲ採擇スルコトヲ得サルモノトス但已ムヲ得サル場合ニ於テハ北海道廳長官府
縣知事ニ其事情ヲ詳具シ認可ヲ經テ本文ノ例ニ依ラサルコトヲ得

第七條 審査委員ハ未ダ文部大臣ノ檢定ヲ經サル圖書ト雖モ又ハ更定ノ圖書ニ充ントス
ルトキハ豫メ文部大臣ノ檢定ヲ經ヘシ

第八條 審査委員ニ於テ審査ヲ終ルトキハ其意見及會議ノ顛末ヲ具シ北海道廳長官府縣
知事ニ申報スヘシ

第九條 北海道廳長官府縣知事ニ於テ教科用圖書ヲ新定又ハ更定スルニハ一學科ニ就キ
數種ノ圖書ヲ取ルモ若クハ一種ノ圖書ニ限ルモ妨ケナシ

第十條 北海道廳長官府縣知事ハ教科用圖書ノ新定又ハ更定ヲ公布スル二箇月前ニ於テ
其事由實施ノ時期圖書ノ目錄及第八條審査委員ノ申報又第六條但書ノ場合ニ屬スル處
分アルトキハ其事情ヲ具シ文部大臣ニ報告スヘシ

○採定方法ニ依リ定タル圖書採用期限 明治二十年九月十二日
文部省訓令第十二號

北海道廳 府 縣

本年(三月)文部省訓令第三號公立小學校教科用圖書採定方法ニ依リ新定若クハ更定シ
タル圖書ハ四箇年ヲ經ルニアラサレハ之ヲ變換スヘカラス又該圖書ハ之ヲ課スヘキ最下
ノ學級ヨリ用ヒシメ其他ノ學級ニハ從來ノ教科用圖書ヲ襲用セシメ漸次各學級ヲシテ新
舊交換セシムヘシ
但本文ニ依リ難キ特別ノ事情アルニ於テハ文部大臣ニ稟申スヘシ

○中學校師範學校教員免許狀及教科用書檢定手数料徵收方

明治十九年五月文部省訓令第三號

中學校師範學校教員免許狀授與手数料及教科用圖書檢定手数料共地方廳ニ於テ徵收ノ分ハ十九年度以降大藏省令第四號歲入取扱順序第十六條ニ據リ委託候條同順序及閣令第三號歲入歳出納規則ニ準據取扱フヘシ且教科用圖書檢定手数料ハ歳入科目第二部第五款第二項九目書籍發賣檢査手数料ノ目ヲ設ケ勘定整理スヘシ但徵收額調査ハ別段送付セス又本文教員免許人名并圖書名檢定出願人名等仕譯書調製歳入報告書ニ添付スヘシ

●衛生

●地方衛生會規則明治二十年四月閣令第十號

地方衛生會規則ヲ定ムルコト左ノ如シ但明治十二年十二月太政官第五十五號達地方衛生會規則明治十三年太政官達東京地方衛生會規則ヲ廢ス

地方衛生會規則

第一條 地方衛生會ハ府縣知事ノ監督ニ屬シ警視總監府縣知事ノ諮詢ニ應シテ其府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ヲ審議ス

第二條 地方衛生會ハ府縣内公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項ニ就テハ警視總監府縣知事ニ建議スルコトヲ得

第三條 地方衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

第四條 地方衛生會ニ職員ヲ設クルコト左ノ如シ
會長 府縣知事ヲ以テ之ニ充ツ
委員

府縣第二部長

警部長東京ハ警視廳第一局長府縣廳所在地ノ郡長又ハ區長一人

府縣會常置委員

醫師

獸醫師

三人
三人乃至五人
一人

衛生

化學家

臨時委員

一人

書記 府縣屬ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ其議定セシモノヲ醫視總監府縣知事ニ具申ス

第六條 會長事故アルキハ開會當日上席人ヲ以テ其事務ヲ代理セシム

第七條 委員中東京府京都府大坂府ノ區長及醫師獸醫化學家臨時委員ハ府縣知事之ヲ命ス但獸醫及化學家ハ其人ヲ得サルトキハ缺員トナスコトヲ得

常置委員ハ常置委員改選毎ニ該員中ニ於テ互撰シ府縣知事之ヲ命ス

第八條 委員中官職ナキ者ニハ手當並旅費ヲ給スルコトヲ得

第九條 書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ議事ヲ筆記シ及文章計算ニ從事ス

醫師免許規則

明治十六年十月二十五號布告

醫師免許規則別冊ノ通製定シ明治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十五年二月第四號布達同年八月第三十九號布告ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

醫師免許規則

第一條 醫師ハ醫術開業試驗ヲ受ケ内務卿ヨリ開業免狀ヲ得タルモノトス

但此規則施行以前ニ於テ受ケタル醫術開業ノ証ハ仍ホ其効アリトス

第二條 開業免狀ヲ得ントスル者ハ試驗及第證書ヲ以テ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出

ツヘシ

第三條 官立及府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ得タル者其證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第四條 外國ノ大學醫學部若クハ醫學校ニ於テ卒業シタル者或ハ外國ニ於テ醫術開業免許ヲ得タル者其卒業證書又ハ開業證書ヲ以テ開業免狀ヲ得ンコトヲ願出ツルトキハ内務卿ハ其證書ヲ審査シ試驗ヲ要セスシテ免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 醫師ニ乏キ地ニ於テハ府知事縣令ノ具狀ヨリ内務卿ハ醫術開業試驗ヲ經サル者ト雖モ其履歷ニヨリ假開業免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第六條 開業免狀ヲ得ル者ハ免狀下付ノ節手数料金三圓ヲ納ムヘシ

第七條 開業免狀ヲ得タル者ノ氏名本籍ハ内務省ノ醫籍ニ登錄シ時々之ヲ公告スヘシ

第八條 開業免狀ヲ毀損亡失シ又ハ氏名本籍ノ變換ニ由リ免狀ノ書換ヲ願フ者ハ其事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ内務省ニ願出ツヘシ

第九條 開業免狀ノ書換ヲ願フ者ハ免狀下付ノ節手数料金壹圓ヲ納ムヘシ

第十條 醫師廢業又ハ死亡シタルトキハ地方廳ヲ經由シテ其開業免狀ヲ内務省ニ返納スヘシ

第十一條 醫師其業ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アルトキハ中央衛生會ノ審議ヲ經内務卿ニ於テ其業ヲ停止若クハ禁止スルコトアルヘシ

但其事開業免狀ヲ得ルノ前ニ在リト雖トモ本條ニ準シ處分スルコトアルヘシ

衛生

第十二條 前條ニ據リ醫業禁止ノ處分ヲ受ケタルモノアルトキハ地方廳ニ於テ直チニ其開業免狀ヲ取上ケ之ヲ内務省ニ返納スヘシ其停止ノ處分ニ係ルモノハ幾年月日間停業シタル旨ヲ開業免狀ニ裏書シ廳印ヲ捺シテ之ヲ本人ニ下付スヘシ

第十三條 内務卿ハ醫業禁止ノ處分ヲ爲シタル後ト雖トモ本人ノ行狀ヲ勘査シ中央衛生會ノ審議ヲ經特ニ其禁止ヲ解クコトアルヘシ

○醫術開業試験規則 明治十六年十月太政官

今般第三十五號ヲ以テ醫師免許規則第三十四號布達
治十七年一月一日ヨリ施行ス

但明治十二年二月内務省甲第三號布達ハ同日ヨリ廢止ス

醫術開業試験規則

第一條 醫術ヲ開業セントスルモノハ此規則ニ據リ試験ヲ受クヘシ

第二條 内務卿ハ毎年二回醫術開業試験ヲ舉行スヘシ但試験ヲ舉行スヘキ地方及ヒ試験期日ハ六ヶ月前之ヲ内務卿ヨリ告示スヘシ

第三條 内務卿ハ醫術開業試験ヲ舉行スル毎ニ官立及府縣立學校病院ニ從事スル者又ハ地方ニ於テ學術名望アル醫師理化學者等ヲ選ヒ試験委員ヲ命スヘシ

但齒科醫術開業試験ニ於テ齒科醫一名ヲ試験委員ニ加フルコトアルヘシ

第四條 内務卿ハ主事者ヲ派遣シ試験一切ノ事ヲ監督整理セシムヘシ

第五條 醫術開業試験ハ之ヲ二期ニ分チ前期試験後期試験トス前後二期ノ試験ヲ同時ニ

受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試験ハ全科一時ニ受クルモノトス

第六條 試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

前期試験科目

第一 物理學 第二 化學 第三 解剖學 第四 生理學

後期試験科目

第一 外科學 第二 內科學 第三 藥物學 第四 眼科學 第五 產科學

第六 臨床實驗

第七條 齒科試験科目ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 齒科解剖及生理 第二 齒科病理及治療 第三 齒科用藥品 第四 齒科

用器械 第五 實地試驗

第八條 前期試験ハ一ヶ年半年以上後期試験ハ更ニ一ヶ年半年以上修學セシ者ニ非ラサレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

但齒科醫術開業試験ハ二ヶ年以上修學セシ者ニ非レハ之ヲ受クルコトヲ得ス 十七年
公達ヲ以テ 但書追加 第二號

第九條 前期試験ヲ受ケントスルモノハ其願書ニ修學ノ履歷書ヲ副ヘ後期試験ヲ受ケン

トスル者ハ其願書ニ履歷書及前期試験及第ノ證書ヲ副ヘ毎年六月十二月中地方廳ニ差
出スヘシ地方廳ハ翌月五日迄ニ其書類ヲ取纏メ内務卿ニ進達スルモノトス

但履歷書ニハ其師若クハ他ノ開業醫師二名以上ノ保証アルヲ要ス

衛生

第十條 地方廳ニ於テ試驗出願者中醫事ニ關シ犯罪若クハ不正ノ行爲アリト認ムル者アルトキハ之ヲ内務省ニ具狀スヘシ内務省ニ於テハ中央衛生會ノ審議ヲ經其情狀ニ因リ期限ヲ定メ試驗ヲ許サハルコトアルヘシ

第十一條 試驗問題ハ試驗主事者試驗委員協議ノ上之ヲ撰定シ試驗場ニ臨ミ受験人ヲシテ筆答セシムヘシ

但時宜ニヨリ口答セシムルコトアルヘシ

第十二條 試驗主事者ハ試驗終ルノ後試驗委員ト與ニ其成績ヲ評定シ及第シタル者ニハ直ニ及第證書ヲ與フヘシ

但及第證書ニハ試驗主事者試驗委員連署スヘシ

第十三條 試驗ニ落第シタル者ハ半年ヲ終ルニ非レハ再試験ヲ請フコトヲ得ス

第十四條 醫術開業試驗ヲ受クル者ハ試驗開場ノ前日迄ニ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

前期試験手数料 金三圓

後期試験手数料 金五圓

齒科試験手数料 金五圓

第十五條 受験中疾病及ヒ其他ノ事故アリテ試験ヲ中止シ又ハ落第シタル者ト雖モ前條ノ手数料ヲ返付セス

○醫術開業試驗受験人心得 明治十六年十二月内務省告示甲第二十六號
今般太政官第三十四號ヲ以テ醫術開業試験規則布達相成候ニ付右受験人心得左ノ通相定

候條此旨告示候事

受験人心得

第一條 醫術開業試験ハ當省ヨリ告示シタル試驗舉行地ノ中各自便宜ノ地ニ於テ之ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第二條 醫術開業試験ヲ受ケント欲スル者ハ本年第三十四號布達醫術開業試験規則第九條ニ準據シ其願書ヲ居住ノ地方廳ヘ差出スヘシ

第三條 前條許可ノ指令ヲ受ケタル者ハ當省ヨリ告示シタル期限迄ニ試験舉行ノ地ニ着シ宿所氏名ヲ其地方廳ヘ届出ツヘシ

第四條 試験手数料ハ試験舉行ノ前日迄ニ醫術開業試験場ヘ相納ムヘシ

第五條 試験場ノ取締上不都合ト認ムヘキ所爲アル者ハ主事者ヨリ退場セシムルコトアルヘシ

第六條 試験中一科以上欠席スル者ハ其期ノ試験ヲ終フルコトヲ得ス 十七年甲第三十五號改正
(願書式畧之)

○入齒齒抜口中療治接骨等從來營業ノ者鑑札付與方 明治十八年三月 府務省甲第七號 府縣ヘ達

入齒齒抜口中療治接骨等營業之者ハ明治十六年十月第三十四號布達ニ據リ醫術開業試験ヲ經ルニ非サレハ新規開業不相成候條從來之營業者ハ此際各地方廳ニ於テ鑑札ヲ付與シ相當之取締法相立可申此旨相達候事

但既ニ取締法相設居候向ハ更ニ本分ノ手續ヲ爲スニ及ハス

○鍼灸術營業ノ者允許方 明治十八年三月内 府縣へ達

務省甲第十五號

府縣へ達

鍼灸術營業者之儀ハ從來開業之者並ニ新規開業セントスル者ハ自今出願セシメ其修業履

歴ヲ檢シ相當ト認ムルトキハ差許不苦其取締方之儀ハ便宜相設可申此旨相達候事

但既ニ營業差許タルモノハ更ニ出願セシムルニ及ハス

●賣藥規則 明治十年一月 第七號布告

第一章

第一條 此規則ニ稱スル處ノ賣藥トハ丸藥膏藥煉藥水藥浴劑散藥煎藥等ヲ調製シ功能書

ヲ附シ販賣スルモノヲ云フ 十年第八十

第二條 此賣藥營業者ハ藥味分量用法服用量功能ヲ詳記シタル書ニ族籍氏名ヲ記シ其管轄

廳ニ願出免許鑑札ヲ受クヘシ

但免許ヲ受ケタル者ニ於テ之ヲ調製スル時ハ其箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ク

ヘシ 十五年第五十二號 布告但書追加

第三條 管轄廳ニ於テハ願書ヲ檢査シ其製藥配伍ノ藥品劇毒微毒ニ拘ハフス取扱上失誤

ヲ生シ易キモノ及ヒ毒藥劇藥取締ニ關係スルモノハ之ヲ許サ、ルヘシ 十一年第二十

第四條 第八條ニ記シタル期限中藥味分量用法服用量能書ヲ改正セント欲スルモノ其由ヲ

届出舊鑑札ヲ返納シテ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第五條 賣藥ヲ請賣セント欲シ其營業者ノ許諾ヲ得タル者ハ族籍氏名ヲ記シタル願書ニ

十九年十一月
第七號令
賣藥規則
中免許期
限ヲ廢ス

營業者所持ノ免許鑑札寫及ヒ營業者ト取結タル約定書トヲ添へ其管轄廳へ願出免許鑑

札ヲ受クヘシ 十年第八十九號及十

第六條 賣藥營業者及請賣者共必ス免許ノ看板ヲ掲クヘシ

第七條 賣藥營業者及ヒ請賣者ニ於テ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ行商ヲ爲サシメン

ト欲スルハ其由ヲ管轄廳へ届出行商鑑札ヲ願受ケ行商スル時ハ必ス之ヲ所持スヘシ

第八條 營業鑑札請賣鑑札行商鑑札ハ其鑑札記載ノ月ヨリ滿五年ヲ以テ免許ノ期限トス

此期限ヲ過キ尙免許ヲ得ント欲スルモノハ舊鑑札ヲ返納シ更ニ新鑑札ヲ願受クヘシ

第九條 第八條ニ記シタル期限中第四條ノ改正發賣ヲ願出之ヲ免許スル時ハ新鑑札記載

ノ月ヲ以テ一期ノ初月トナスヘシ

第十條 免許期限内ト雖モ其製藥第三條ニ掲グル所ノ有害品ナルヲ更ニ發見スル時或ハ

營業者製藥ヲ粗惡ニスル等ノアアル時ハ直ニ鑑札ヲ取上ケ發賣ヲ禁止スルアアルヘシ

十一年第二十

第十一條 營業者廢業スルカ又ハ禁止セラレ、時ハ其請賣者及ヒ賣子共其販賣ヲ許サス

第十二條 諸鑑札ヲ遺失シ又ハ水火盜難ニ因テ毀失シタル時ハ其仔細ヲ詳記シテ管轄廳

へ届出再ヒ之ヲ願受クヘシ

第十三條 免許鑑札ヲ他人ニ讓渡サント欲スル者ハ双方連印ノ願書ヲ管轄廳ニ差出シ名

前書換ヲ請フヘシ

第十四條 賣藥營業者及ヒ請賣者免許期限内其相續人ニ於テ之ヲ相續スル時ハ其由ヲ記

衛生

管轄廳へ鑑札名前書換ヲ請フヘシ 十年第八十九號布告改正
第十五條 賣藥營業者廢業シ若クハ禁止セラレタル時營業者ハ勿論其請賣者ニ於テモ總テ諸鑑札ヲ返納スヘシ

第二章

第十六條 賣藥營業者ハ左ノ通税金并ニ鑑札料ヲ上納スヘシ 十四年第二十號布告改正
賣藥營業稅 藥劑一方ニ付一ケ年 金貳圓

右鑑札料 藥劑一方ニ付一枚 金貳拾錢

但第二條但書ニ依リ免許鑑札ヲ受クル者ハ其ケ所毎ニ本文ノ税金并ニ鑑札料ヲ納ムヘシ 十五年第五十二號布告追加

第十七條 水火盜難ニ因リ鑑札ヲ毀失シ更ニ新鑑札ヲ願受クル時ハ其鑑札料ノ半高ヲ納ムヘシ

第十八條 税金ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ七月三十一日限後半年分ハ翌年一月三十一日限鑑札料ハ其都度并ニ管轄廳ニ上納スヘシ

第十九條 税金ハ六月以前免許ノ者ハ全年分七月以後ハ半年分廢業ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分ヲ納ムヘシ

但第十條ノ有害品ナル者更ニ發見セシ時ニ限り月割ヲ以テ税金ヲ納メシムヘシ 十一年第二十七號布告有
害ノ二字改正
第三章

第二十條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ自カラ行商シ又ハ行商セシムル者及ヒ之レヲ貸ス者又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ自カラ行商シ又行商セシムル者ハ其鑑札ヲ取上ケ藥劑一方ニ付五圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十一條 無鑑札又ハ鑑札ヲ借受ケ又ハ期限過タル鑑札ヲ以テ請賣スル者及無鑑札ノ者ヲシテ請賣セシメ又ハ鑑札ヲ貸ス者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十二條 免許ヲ受ケスシテ私ニ藥味分量用法服量能書等ヲ改更シ又ハ許可ヲ經スシテ無稽ノ妄說ヲ記載シ世ハチ術惑スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥ヲ没入シ藥劑一方ニ付拾圓以上貳拾五圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十三條 無鑑札ニテ營業スル者又ハ營業者ニシテ私ニ請賣者ニ藥劑ヲ調製セシムル者又ハ請賣者自ラ之ヲ調製スル者ハ其製藥及賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付貳拾五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ 十四年第二十六號布告

第二十四條 諸鑑札ヲ偽造シ又ハ他人ノ賣藥ヲ贗造シテ發賣スル者ハ其製藥及ヒ其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付五拾圓以上百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十五條 私ニ有毒藥ヲ配伍スル者ハ其鑑札ヲ取上ケ製藥及其賣得金ヲ没入シ藥劑一方ニ付百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ科スヘシ

第二十六條 以上ノ犯則者ヲ見届ケ訴出ルモノアルトキハ事實取糺ノ上相違ナキニ於テハ其實トシテ罰金ノ半高ヲ與フヘシ

●傳染病豫防規則 明治十三年七月 第三十四號布告

明治十二年八月第三十二號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨 布告候事

傳染病豫防規則

總則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸室扶私、赤痢、霍布埤利亞、發疹室扶私及痘 瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルトキハ地方長官ハ內務省ニ具申シ豫防 法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遲クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村戸長ニ通 知スルヲ要ス戸長ハ速ニ之ヲ郡區長及ヒ最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳 (東京府下ハ府廳及警視本署)ニ届出ツヘシ

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直チニ警察署ニ届出警察署ヨリ戸長ニ通知スルモ妨ナ シ 地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及治愈及ヒ死亡ノ數ヲ內務省ニ申報スヘシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルトキハ其性狀ヲ記シテ速カニ之 ヲ內務省ニ申報シ且ツ其管内及隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其他碇泊ノ軍艦等 ニ報告スヘシ

十八年第二號布告
生委員ト
アルトキ
長ト改ム
十二年第十
二月第五
十四號布
告ヲ以テ
第二項増
加ス

同上布告
三條ノ但
書及第四
條ヲ削除
ス

十五年第
四十七號
名貼付當
分施行セ
サル旨ヲ
布告ス

第五條 諸官廳兵營軍艦監獄及ヒ官立ノ學校病院製作所等ニ於テ傳染病者アルトキ其 主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹室扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院 ヲ要スヘキト認ムルトキハ內務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルコトヲ得 但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フ可シ

第七條 醫師並ニ戸長ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難キシト 認ムル者ハ避病院ニ入ラシム可シ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書シテ門戸ニ貼付シ要用ノ外他人ト交 通ヲ絶タシムヘシ 但シ患者治愈死亡又ハ避病院ニ入りタル後チ相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本 條ヲ遵守セシムヘシ

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若ク ハ埋却セシム可シ 虎列刺病

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラス且他ニ改葬ス ルヲ許サス 但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシ其埋骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及病室船室等ハ消毒法ヲ行フニアラサレ

衛生

ハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ受授賣買スルヲ許サス

第十二條 虎列刺病流行ノ際ニハ井泉河流水道及廁園芥溜下水溝渠等總テ病毒萌生ノ因トナルヘキ場處ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルトキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル處ノ船舶ヲ検査シ患者若クハ死者アルトキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十四條 虎列刺流行ノ勢猛劇ナルトキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シテ其許可ヲ得テ醫師衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ検査委員ト爲シ豫防消毒ノ事務ヲ擔任セシムルコトヲ得

此場合ニ於テハ醫師タル者吐瀉ノ二症ヲ兼備スル病ヲ診斷スルトキハ總テ検査委員ニ届出ツヘシ
十五年第四十八號
但本項施行ノ終始ハ地方廳ヨリ之ヲ管内ニ告示シ内務省ニ申報スヘシ

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルコトヲ得

虎列刺已ニ市街村落ノ全部若クハ一部分ニ於テ蔓延ノ兆候ヲ顯ハシ其他ノ部分ニ及ホサルノ處分ヲ爲スコトヲ得
十四年第五十八號
但要用ノ者ハ掛官吏検査ノ上交通ヲ許スコトヲ得

腸室扶私病

第十六條 腸室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ

赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條第十一條及第十二條ヲ適用スヘシ

實布埤里亞病

第十八條 實布埤里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹室扶私病

第十九條 發疹室扶私病者アルトキハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ
十三年第五十四號布告ヲ以テ本條改正

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フコトヲサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 痘瘡病者アルトキハ第十條第十一條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス其流行ノ際ニハ第十二條ヲ適用スヘシ
十五年第四十八號布告改正

罰則

第二十二條 醫師戶長此規則ニ違背シタルトキハ五拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルトキハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルトキハ壹圓五拾錢以内ノ科料ニ處ス

●虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶検査規則
明治十五年六月三十一號布告

衛生

第一條 凡ソ虎列刺病流行地方ヨリ來ル船舶ハ檢疫官ノ検査ヲ受テ其記名セル許可ノ證書ヲ得タル後ニ非レハ他港ニ進港シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸並ニ積荷ノ陸揚ヲ爲ヌ可カラス

第二條 其船中該病患者又ハ該病死者ナキトキハ檢疫官直チニ其船舶ノ他港ニ進港シ陸地又ハ他船ト交通シ及ヒ乗組人船客ノ上陸并積荷ノ陸揚ヲ爲ヌノ許可ヲ與フヘシ但檢疫官ニ於テ必用ト認ムルトキハ其船舶ヲ四十八時間以内其指定スル場所ニ碇泊セシメ十分ノ消毒法ヲ施スコトヲ得

第三條 若シ其船中ニ該病患者又ハ該病死者アルトキハ檢疫官其船舶ヲ陸地及他船ニ傳染ノ虞ナシト認ムル距離ニ於テ其指定スル場所ニ碇泊セシム可シ

該病患者ハ之ヲ避病若クハ其住居若クハ其他檢疫官ノ適當ト認ムル場所ニ送致スヘシ其死者ハ若シ緣故入ノ望アル地方官所定ノ場所ニ火葬シ若クハ十分ノ消毒法ヲ施シタル後之ヲ埋葬スヘシ

前項ノ手續ヲ終リ檢疫官ハ其乗組人船客ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル後上陸ノ許可ヲ與ヘ其船舶及傳染ノ虞アリト認ムル積荷ニハ十分ナル消毒法ヲ施シタル其船舶ノ他港ニ進航シ陸地又ハ他船ト交通シ及積荷ヲ陸揚スルノ許可ヲ與フヘシ

第四條 此規則ニ違背シタル者若クハ此規則ノ執行ヲ妨害シタル者ハ刑法ニ依テ之ヲ處分スヘシ

第五條 此規則施行始終ノ期日並ニ場所ハ其都度内務卿ヨリ之ヲ指定スヘシ

○虎列刺病流行ノ際行旅船客ヲ抑留スル節取計方
明治十三年三月
内務省乙第九號
(東京警視本署)府縣へ達

虎列刺病流行ノ際内地ニ於テ海陸ノ檢疫所ヲ設ケ行旅船客ヲ抑留候儀ハ經伺ノ上可取計儀ト可心得此旨相達候事

○虎列刺病流行ノ際其流行地ヨリ健康地へ古着及ヒ襪履輸送ヲ禁ス
明治十八年九月内務省甲第三十一號

虎列刺病流行ノ際ニ於テハ其流行地方ヨリ古着及襪履ヲ他ノ健康地ニ輸送スルコトヲ禁止スヘシ此旨相達候事

○石炭酸消毒藥調製ノ分ニ限リ差許ニ付販賣出願方
明治十三年五月
第二十三號布告

石炭酸其他劇藥ハ本年一月第一號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其管轄廳ニ可願出此旨布告候事

○明治十八年一月内務省甲第二號
警視廳 府 縣

傳染病豫消毒法之儀ハ進々相達置候處明治十三年當省乙第三十六號ヲ以テ更ニ豫防心得書相達候ニ付テハ從前ノ豫防法ハ總テ消滅ニ屬シ候條右達ニ據リ調製シタル消毒藥ハ同年第三號布告ニ準據シ販賣セシムヘキ儀ト可心得此旨相達候事

●種痘規則
明治十八年十一月
第二十四號布告

種痘規則左ノ通制定シ明治十九年一月一日ヨリ施行ス

但明治九年內務省甲第八號及甲第十六號布達ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

種痘規則

- 第一條 種痘ハ小兒出生後滿一年以内ニ之ヲ行フヘシ若シ不善感ナルトキハ更ニ一週年内ニ再三種ヲ行フヘシ
- 第二條 種痘ハ善感後ト雖モ五年乃至七年ニ再種ヲ行ヒ再種後五年乃至七年ニ三種ヲ行フヘシ
- 第三條 天然痘流行ノ兆アルトキハ第一條第二條ノ期限ニ拘ハラズ掛官吏ノ指定シタル期日内ニ種痘ヲ行フヘシ
- 第四條 種痘ヲ受クヘキ者病氣或ハ事故アリテ第一條第二條第三條ノ時期ニ種痘ヲ行フコト能ハサルトキ病氣ハ醫師ノ診斷書事故ハ親戚又ハ隣保ノ證印ヲ爲シタル證書ヲ副ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第五條 種痘ヲ受ケシ者ハ醫師ノ指定シタル日ニ於テ檢診ヲ受ケ痘漿採取ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
- 第六條 種痘濟ノ者ハ醫師ヨリ種痘証ヲ受領シ戶長役場ニ届出ヘシ
- 第七條 但天然痘ニ罹リタル者ハ醫師ヨリ其証ヲ受領シ本條ニ準スヘシ
- 第八條 十六歳未滿ノ者ノ尊長後見人若クハ雇主等ニシテ現ニ其幼者ヲ監督スル者ハ前各條ノ責ニ任スヘシ
- 第九條 貧院育兒院等ハ入院ノ者ハ該主長ニ於テ前各條ノ責ニ任スヘシ

第八條 醫師ハ種痘ノ善感不善感ヲ檢診シ種痘証ヲ付與スヘシ

但天然痘ニ罹リタル者ヲ治療シタルトキハ本條ニ準シ其証ヲ付與スヘシ

第九條 第一條第二條第三條第四條第五條第六條及第八條ヲ犯シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第十條 府知事縣令ハ種痘明細表ヲ製シ毎年一月七月ノ兩度內務卿ニ報告スヘシ

第十一條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ內務卿ニ届出ヘシ

右奉 勅旨布告候事

明治十七年十月太政官第二十五號布達

墓地埋葬取締規則

- 第一條 墓地及火葬場ハ管轄廳ヨリ許可シタル區域ニ限ルモノトス
- 第二條 墓地及火葬場ハ總テ所轄警察署ノ取締ヲ受クヘキモノトス
- 第三條 死體ハ死後二十四時間ヲ經過スルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス
- 第四條 但別段ノ規則アルモノハ此限ニアラス
- 第五條 區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得ルニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスコトヲ得ス
- 第六條 但改葬ヲ爲サントスル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ
- 第七條 墓地及火葬場ノ管理者ハ區長若クハ戶長ノ認許證ヲ得タル者ニ非サレハ埋葬又ハ火葬ヲナスシムヘカラス又警察署ノ許可證ヲ得タル者ニ非アラサレハ改葬ヲナサシムヘカラス
- 第八條 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ火葬場ニ於テ行フヘシ

第七條 凡ソ碑表ヲ建設セント欲スル者ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クヘシ其許可ヲ得スシテ建設シタルモノハ之ヲ取除ケシムヘシ

但墓地外ニ建設スルモノ亦之ニ準ス

第八條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ警視總監府知事縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ヘシ

○墓地及埋葬取締規則違反者處分方 明治十七年十月太政官

今般第二十五號ヲ以テ墓地及埋葬取締規則布達候ニ付此規則ニ違背スルモノハ違背罪ノ刑ヲ以テ處分スヘシ此旨相達候事

○墓地及埋葬取締規則細則標準

明治十七年十一月

警視廳府縣へ達

本年第二十五號布達第八條ニ記載セル方法細目ハ左ノ條件ヲ標準トスヘシ此旨相達候事

第一條 墓地ハ從前許可セラレタル者ニ限ル

但己ムコトヲ得サル事情アリテ之ヲ取廢メ又ハ新設スル場合ニ於テハ地方廳ニ願出ヘシ

第二條 墓地ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ルコト凡ソ六十間以上ニシテ土地高燥飲料水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別ダス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アルモノハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 墓地ノ周圍墓地ト墓地ニ非サル地トノ境界ヲ云フニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塙ヲ存スヘカラサルモノトス

但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第五條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第六條 火葬場ハ人家及人民幅濶ノ地ヲ隔ル凡ソ百貳拾間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ撰ヒ火爐煙筒ヲ備ヘ臭烟ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍ニ塙牆ヲ設クヘシ

但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルトキハ格別ナリトス

第七條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第八條 塙穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第九條 墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ區役所又ハ戸長役場ニ届置クヘシ

第十條 死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ所轄警察署ノ許可ヲ受クルノ限ニ非ス

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタル者ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルトキハ醫師ノ檢案ヲ差出シ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ産婆ノ死産証ヲ差出シ區長又ハ戸長ノ認許證ヲ乞フヘシ

衛生

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢按書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒテ差出スヘシ
 囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡証書寫ニ司獄官ノ檢印
 ヲ乞ヒテ差出スヘシ
 第十二條 區戶長ハ前條ノ届証書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許証ヲ與フヘカラ
 ス
 第十三條 管理者ハ葬主ヨリ領收セタル區戶長ノ認許証ヲ編纂シ每三ヶ月所轄警察署ノ
 檢閱ヲ受ケテ之ヲ區役所又ハ戶長役場ヘ差出スヘシ
 第十四條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ
 第十五條 此標準ニ據リ難キモノハ其事情ヲ具シ伺出ヘシ

●會計

●諸貸付金整理順序 明治十九年四月六日 藏省訓令第五號

北海道廳 府縣

諸貸付金整理方之儀十九年度以後左之通心得ヘシ但書式ハ別ニ送付ス(書式略之)

諸貸付金整理順序

- 第一條 諸貸付金ノ徵收ハ明治十九年三月閣令第三號歲入歲出出納規則ニ準據スルモノトス
- 第二條 諸貸付金ヲ徵收スルニ付テハ明治十九年三月當省令第四號歲入取扱順序第十六條第十七條ニ據ル
- 第三條 諸貸付金ハ左ニ掲クル科目ニ分ツテ整理スヘシ
 - 一 舊藩貸 從前ノ舊藩貸ヲ云フ
 - 二 勸業貸 從前ノ勸業貸ヲ云フ
 - 三 繰替貸 豫備金、繰替金、舊島田組貸付金等ヲ云フ
 - 四 雜種貸 從前ノ救助貸、雜貸、宮方貸、外國債代償、石高貸、并ニ從來雜收入トシテ納入スヘキモノ、内諸過渡金諸拂下代諸貸下料其他訴訟入費償却金等ノ類ニシテ年月賦若クハ置据ノ後上納スヘキモノ及身代限ノ處分ヲ受ケ退テ身代持直次第上納スヘキモノヲ云フ
- 第四條 諸貸付金返納期限ニ際シ困難ノ事情等ニ依リ猶豫ヲ請フ場合ニ於テハ各廳限リ六箇月以内ノ延期ヲ與フルコトヲ得
- 第五條 左ニ掲クル諸件ハ處分ヲ了シタル後其事由ヲ詳記シ計算書ヲ付シ每一箇月取經

ノ翌月五日限當省へ報告スヘシ

- 一 年賦返納金ヲ繰上ケ又ハ返納年度未定ノ金額ヲ一時ニ上納ヲ願出タルトキ
- 二 舊藩貸付金ニ係ル年賦返納金利引ヲ以テ一時ニ返納ヲ願出タルトキ
但勸業貸繰替貸及雜種貸ト雖別段ノ伺定アルモノハ本項ニ據ル
- 三 負債主ノ移轉ニ因リ他ノ管廳へ引繼キ若シクハ之ヲ引受タルトキ
- 四 負債主失踪シタルトキ及失踪後三十六箇月經過シタルトキ
二十年二月訓令
第十三號改正
- 五 負債主身代限ノ處分ヲ受ケタルトキ
- 六 負債主死亡若シクハ退隱等ニテ相續人へ負債ノ義務移轉シタルトキ

第六條 左ニ掲クル諸件ハ事由ヲ詳悉シ處分ノ見込ヲ具シ經伺ノ上處理スヘシ

- 一 諸貸付金返納ノ年月賦ヲ變換シ若シクハ負債ノ義務他人へ移轉ヲ願出タルトキ
- 二 諸貸付金ニ對スル抵當品ノ増減交換ヲ願出タルトキ
- 三 諸貸付金ノ棄捐又ハ利子ノ減却或ハ免除ニ係ルモノ

第七條 諸貸付返納金ハ毎年四月一日ヨリ翌年三月三十一日迄ニ現収シタル額ヲ以テ一週年度ノ決算トス

第八條 第五條第二項ノ利引額第三項ノ引繼額又ハ引受額ハ報告ノ月ニ於テ加除スヘシ

第九條 第五條第四項ニ係ル未納金額ハ報告ノ月ニ於テ返納年度未定ノ部へ組替其三十分箇月經過ノ後尙徵收ノ途ナキトキハ雜種貸中還納未定ノ部へ組替ユヘシ

第十條 第五條第五項ニ係ル分配金相當ノ科目へ收納シ未納金額ハ報告ノ月ニ於テ雜種

貸中還納未定ノ部へ組替ユヘシ

第十一條 第六條第一項返納金ノ年月賦ヲ變換シ又ハ第三項ノ棄捐等ニ係ルモノハ指令日附ノ月ニ於テ加除スヘシ

第十二條 左ニ掲クル諸件ハ其期限後十五日以内ニ該廳ヲ發シ當省へ送付スヘシ

- 一 毎年四月一日ノ現狀ニ依リ諸貸付未納金報告書(書式第一號)及ヒ返納年度未定内譯表(書式第二號)ヲ調製スルコト
- 二 前項報告書ニ對シ其増減ヲ毎年八月一日十二月一日及四月一日ノ現狀ニ依リ増減報告表(書式第三號)ヲ調製スルコト
二十年二月訓令
第十三號改正
- 三 毎月納済ノ金額ハ歳入取扱順序第二十五條ニ準シ歳入報告書ヲ調製スルコト
- 四 前項ノ報告書ト同時ニ勸業貸及繰替貸ノ收入濟仕譯書(書式第四號)ヲ調製スルコト
- 五 第四條ニ依リ諸貸付金ノ返納期限ヲ六箇月以内延期シタルトキハ毎月之レカ報告書(書式第五號)ヲ調製スルコト

第十三條 此整理順序ニ對シ從前ノ當省達中矛盾スル廉ハ廢止ス

●貸下金其他諸上納金未納者他負債ノ爲メ身代限處分ヲ請タルルル處分方
明治十五年二月
太政官第十二號
官省院使廳府縣へ達

貸下金其他上納金未納ノ者他負債ノ爲メ裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ請タルルルハ自今左ノ通處分スヘシ此旨相違候事

一 貸下金其他諸上納金未納ノ者裁判所ニ於テ身代限ノ處分ヲ請クルハ其徵收ヲ取扱フ官廳ニ於テ通常公文用紙ニ未納ノ金額ヲ記載シ証書ノ金ヲ添ヘ之ヲ其裁判所ニ請求スヘシ

一 裁判所ニ於テハ該上納ノ金額ニ就テ負債者異論ナキハ身代限ノ配當金ヲ(不足アルハ定例ノ通り証書裏書ノ上)其裁判所所在ノ郡區長ニ交付シ郡區長ハ之ヲ其官廳ニ送達スヘシ

警察

行政警察規則 明治八年三月太 警官第二十九號

府縣(東京府ヲ除ク)ニ達

第一章 警察職務之事

- 第一條 行政警察ノ趣意タル人民ノ凶害ヲ豫防シ安寧ヲ保全スルニアリ
- 第二條 各府^{東京府}縣長官其事務ヲ提掌シ警部ヲシテ之ヲ分掌セシメ便宜各所ニ出張シ巡查ヲシテ各部ニ分派シ巡邏巡察セシム 八年第二百六號公達改正
- 第三條 其職務ヲ大別シテ四件トス
 - 第一 人民ノ妨害ヲ防護スル事
 - 第二 健康ヲ看護スル事
 - 第三 放蕩淫逸ヲ制止スル事
 - 第四 國法ヲ犯サントスル者ヲ隱密中ニ探索豫防スル事
- 第四條 行政警察豫防ノ力及ハスシテ法律ニ背ク者アルハ其犯人ヲ探索逮捕スルハ司法警察ノ職務トス之ヲ行政警察ノ官ニ於テ行フトキハ檢事章程並司法警察規則ニ照スヘシ
- 第五條 警察官吏ハ公同一般ノ裨益ヲ計リ一家隱微ノ小惡ヲ發ス可ラズ且一己ノ功ヲ貪リ警察一般ノ目的ヲ愆ルヘカラス 八年第二百六號公達第五條第六條第七條ヲ刪除シ第八條ヲ第五條トス
- 第二章 警部勤務ノ事 同上本章
- 第一條 各出張所ニ派出セル警部ハ時々本廳ニ參會シ事務ヲ商議シ處分異同ナキヲ要ス

第二條 凡ソ布告布達ハ其旨趣ヲ巡查ニ教示シ誤解スルモノナキヲ要スヘシ

第三條 時々區内ヲ巡視シ其景況並ニ巡查ノ勤怠正否ヲ察スヘシ區内ノ人員戶數職業等ハ成丈ク詳知スルヲ要スヘシ

第四條 區内ノ事故ハ月報ヲ以テ長官ニ報告スヘシ若シ非常急緊ノ事件アレハ速ニ報知スヘシ時宜ニ因リ直ニ警保頭ニ報告スルヲ得ヘシ

第五條 凡ソ警察ノ事ニ付テハ直ニ他府縣ノ警察官ニ報知若シハ照會スルコトヲ得ヘシ

第六條 達又ハ訊問等ノコトアルコト付テハ勅奏官及華族並有位ノ者ハ家令家扶執事ヲ呼出スヘシ判任官以下士族平民ハ直ニ本人ヲ呼出スヲ得ヘシ

第七條 違警犯人ハ其犯狀ヲ按シ違警條目ニヨリ所斷シテ後長官ニ具申シ其疑按アルモノハ長官ノ指揮ヲ受ケテ處分スヘシ

第三章 巡查勤方之事 同上第二章

第一條 第一章第三條ヲ以テ職務ノ大目的トナスヘキ事

第二條 持區内ノ居民並道路行人ヨリ困難出來シテ救護ヲ乞フトキハ何時ニテモ乞ヘシ或ハ救護ヲ乞ハサルモ見聞次第力ヲ盡シテ防護スヘシ

但街路其外ニテ人命ニ係ル危難有之節ハ瞬速救護シ最寄ノ醫ヲ頼ミ治療ノ手續懇切ニ取計ラヘシ

第三條 老幼癡疾婦人等ハ就中注意シテ保護スヘシ

第四條 持區内ノ大小往來筋及市街村落ノ位置區長戶長ノ宅等盡ク詳知スヘシ

第五條 持區内ノ戶口男女老幼及其職業平生ノ人トナリニ至迄ヲ注意シ若シ無產體ノ者集合スルカ又ハ怪シキ者ト認ルトキハ常ニ注意シテ其舉動ヲ察スヘシ

第六條 持區内ヘ他ヨリ移リ來ル者アラハ前條ニ隨テ速ニ之ヲ探知スヘシ

但右等ノ事ニ付權威ヲ以テ其人ヲ呼出ス等ノ儀ハ決シテ有之間敷勉メテ當人ノ覺知セサル様隱密ニ探偵スルヲ以テ警察ノ本意トス若己ムヲ得サルコトアルトキハ自ラ行テ尋問スヘシ

第七條 布告布達等總テ新令ノ出ルニ付人心ノ信否ヲ考察シテ警部ニ報知スヘシ 同上掛ルヲ警部ト改ム以下皆同シ

第八條 巡邏中職務ニ關スル大小ノ事故ハ逐一手帖ニ記シ警部ニ報知スヘシ

第九條 非番マリ正合圖アルカ又ハ臨時呼出チ受レハ早速其場ニ駆付ヘク平常其心掛アルヲ要ス

第十條 往來筋ノ妨害トナルヘキ物ヲ見ルトキハ速ニ之ヲ取除カシムヘシ

第十一條 道路ノ荒蕪溝渠ノ淤塞及不潔物アレハ之ヲ戶長ニ告ケ掃除ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 官舎橋梁道路其他公有之建造物破損スルトキハ警部ニ報知スヘシ

第十三條 行人ニ道路或ハ其他ノ事ヲ尋問セラルトキハ丁寧ニ教示スヘシ

第十四條 稚兒道ニ迷フアラハ之ヲ保護シ其居所不分明ナル者ハ之ヲ其地ノ戶長ニ預ケ之ヲ警部ヘ報知スヘシ若シ其居所分明ニシテ其持區内ナラハ直ニ之ヲ送致シ他ノ區ナ

ラハ其地ノ區戸長ニ掛合送致ノ手續ヲナスヘシ
 第十五條 芝居其他群集ノ所ニハ出張シテ乱雜ヲ防制スヘシ
 第十六條 放レ牛馬アレハ之ヲ便宜ノ所ニ留メ置キ其主分明ナル者ハ之ヲ附與ス然ラサ
 レハ掛官員ノ指圖ヲ受ヘシ
 第十七條 路上酒ニ酔ヒ失心ヌル者ハ之ヲ注意シ又ハ最寄人民ニ介抱セシメ其暴動スル
 者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡スヘシ
 第十八條 路上狂癡人アレハ穩ニ之ヲ介抱シ其暴動スル者ハ取押ヘ其地ノ戸長ニ引渡ス
 ヘシ
 第十九條 路上ニ狂犬アレハ之ヲ打殺シ戸長ニ告ケ之ヲ取棄ル手續ヲナスヘシ
 第二十條 道路河渠ニ死屍アルキハ其摸樣ヲ檢シ警部ニ報知シ指揮ヲ受クヘシ
 第二十一條 獸畜ノ死骸アルトキハ速ニ之ヲ戸長ニ告ケ之ヲ取除ク手續ヲナスヘシ
 第二十二條 鳥獸魚類其他飲食物ヲ販賣スル店ニ賸造腐敗ノ品之アルヤヲ常ニ檢査スヘ
 シ
 第二十三條 人家夜間戸締油斷ノ者アレハ速ニ之ヲ其主ニ知ラヌヘシ
 第二十四條 怪キ者ヲ認ルキハ取糺シテ様子ニ依リ持區内出張所ニ連行或ハ警部ニ密報
 シ差圖ヲ受クヘシ倉卒ノ取計アル可ラス
 第二十五條 失火ノ節ハ巡查失火ノ合圖ヲナシ一般ニ知ラシム且燒失ニ罹ル家ハ其家人
 ヲ助ケ消防ノ事モ勤ムヘシ消防人巳ニ集ルニ到レハ勉テ乱雜及竊盜ヲ防ク事ニ注意ス

第二十六條 同斷ノ節第一ニ其人ヲ救ヒ出シ次ニ書類金貨等ヲ出スヘシ又官廳其他區戸
 長等ノ宅ハ文書第一ニ取出スヘシ
 ○第四章 巡查心得之事 同上第三章ヲ
 第一條 專テ行儀作法ヲ正クシ威權ケ間敷儀之ヲクシテ區民ノ侮慢ヲ受ケサル様可心掛
 事
 第二條 法度規則ヲ確守シ上官ノ命令ヲ遵奉スヘシ決シテ職外ノ事ヲ議スヘカヲサル事
 第三條 同勤中ハ一心全體ト心得常ニ謙和温順ヲ旨トシ忠實ヲ以テ交誼ヲ盡シ職務ニ怠
 ラサル様互ニ獎勵スヘキ事
 第四條 節儉ヲ守リ分限不相應ノ儀致間敷事
 第五條 職務上ニ付上官ニ申立ノ事ハ總テ實直ヲ旨トシ愛憎偏倚ノ儀決シテ有之間敷尤
 後日ニ至リ前言ヲ翻改スル儀無之様可心掛事
 第六條 巡邏中道路行人並營業ノ者ノ妨ニ不相成様可心掛事
 第七條 往來ノ者ヲ取扱ニハ柔和ヲ旨トシ辨ヘナキ者ハ殊更穩ニ取扱ヒ決シテ凌辱ヲ加
 ヘ手荒キ處置致間敷事 八年第四十七號公達(往來)
 第八條 取調ノ爲メ人家ニ至ル節ハ接對筋總テ懇篤ニ可致但シ公私ノ分ヲ守リ狎レ々々
 敷儀決テ有之間敷事
 第九條 巡邏中私ニ人家ニ立寄候儀ハ勿論徒ラニ市店ヲ詠メ職務ヲ怠ル間敷事

第十條 持区内ニテ金諱等頼入レ或ハ物ヲ買ヒ其價ヲ借ル等ノ儀決シテ有之問敷事

第十一條 出勤中醉態ヲ露ヘシ又ハ婦女ヘ對シ穢ケ間敷儀決シテ有之問敷事

第十二條 機密ノ筋ハ勿論職務ニ係リタル事ハ總テ他言致問敷事

第十三條 公事出入等ニハ一切關係致問敷若シ強テ相頼候者アラハ掛官吏ハ具申スヘキ事

第十四條 官ヨリ相渡サレタル得物ノ外兵器ヲ携ル儀ハ不相成且相渡サレタル品ハ大切ニ取扱フヘキ事

第十五條 得物ハ自身ヲ擁護スル具ト心得猥ニ人ヲ打擲致問敷候勿論兇暴人アリテ手ニ餘リ不得止節ハ格別ノ事

第十六條 巡邏中傍人ノ嘲哂スルコトアリト雖モ必ズ耻辱ト思フヘカラス能ク忍耐シテ相當ノ處置ヲナシ決シテ憤怒ノ色ヲ顯シ争鬭ケ問敷儀致問敷事

第十七條 何様ノ事アリトモ職務上ニ付人民ヨリ謝物トシテ金銀物品ヲ受ルコト有可ラサル事

第十八條 巡邏中ハ必ズ役服ヲ着用シ能ク容姿ヲ正フシ他人ト同行シテ雜譚スヘカラスル事

第十九條 每朝衣服冠物其他器械ヲ檢査シ常ニ見苦シカラサル様注意スヘキ事

第二十條 屯所ハ每朝清潔ニ掃除スヘキ事

○請願巡査 明治十四年四月内務省乙第二十二號達

銀行又ハ諸會社又ハ町村ノ協議或ハ八民一已ヨリ其費用ヲ納メ巡査ノ配置ヲ請願スルモノハ自今聞届請願ノ場所ヘ配置不苦候條該費收支方ハ國庫下渡金地方稅等ニ連帶セズ別ニ其帳簿ヲ調製シ毎年地方稅收出精算書ト同時ニ報告スヘシ

但本文配置ノ巡査ハ一般ノ成規ニ從ヒ異同無之様取計フヘシ

○巡査(看守)俸給支給規則 明治十九年十月内務省第二十三號

第一條 巡査看守ノ月俸ハ毎月二十八日ヲ以テ支給ノ定日トス但休日ニ當ルトキハ操上トス

第二條 巡査教習中ハ認可ヲ經テ定額ノ俸給ヲ減少支給スルコトヲ得

第三條 免職ノトキハ當月分ノ俸給日割ヲ以テ支給スヘシ

第四條 願請休暇旅行ノ者及ヒ私事ノ故障(自己ノ病氣ヲ除ク)ニ由リ出署セサルモノ日數二十日後ハ日割ヲ以テ俸給ノ半額ヲ減スルモノトス

第五條 豫備及後備軍籍ニアル者召集ノ節其出發ノ日ヨリ歸署ノ前日迄ハ俸給ヲ支給セズ

第六條 右ニ掲グルモノ、外ハ判任官俸給支給細則ニ依ル

○巡査看守給助例 明治十五年七月第四十一號公達

巡査看守給助例別紙ノ通相定候條各地方ニ於テ給助金額ヲ定メ内務卿ノ認可ヲ經テ施行可致此旨相達候事

但實施ノ府縣ハ八年一月第三號並ニ九年八月第八十號達別表中免職歸國旅費ハ相廢候儀ト

警察

心得ヘシ

巡查看守給助例

- 第一條 給助ハ退職給助、傷痕給助、死亡給助、療治料、祭祀料ノ五種トス
- 第二條 給助ヲ與フル者ハ左ノ如シ
 - 一 退職給助 勤績(巡查ヨリ看守ニ看守ヨリ巡査ニ轉スルモ總テ勤績トス)滿五年以上ニシテ退職スル者ニハ修身之ヲ給ス
 - 二 傷痕給助 職務ノ爲メ負傷スル者ニ修身之ヲ給ス
 - 三 死亡給助 職務ノ爲メ重傷死ニ至ル者及ヒ負傷後其傷痕ニ原メ死亡スル者又ハ職務上傳染病ニ罹リ死亡スル者ノ遺族ニ之ヲ給ス
 - 四 療治料 職務ノ爲メ負傷シ若クハ傳染病ニ罹ル者ニ之ヲ給ス
 - 五 祭祀料 奉職中死亡スル者ニ之ヲ給ス
- 第三條 退職給助ノ額
 - 一 勤績滿五年ノ者ハ一時金貳拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿六年以上九年迄ハ一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス金五圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス
 - 二 勤績滿十年ノ者ハ年金拾五圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿十一年以上ハ一年毎ニ金五拾錢ヨリ少カラス壹圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 第四條 傷痕給助ノ額
 - 一 一等傷痕(修身不具トナリ自用ハ辨シル能ハサル者)ハ年金三拾圓ヨリ少カラス四拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

- 二 二等傷痕(修身不具トナリ自用ハ辨シ得ル者)ハ年金貳拾圓ヨリ少カラス三拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

第五條 死亡給助ノ額

- 一 寡婦又ハ相續ノ孤兒アル時ハ年金三拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス寡婦再嫁シ孤兒二十歳ニ至レハ廢止ス(但寡婦アレハ孤兒ニ給セス)
- 二 寡婦又ハ孤兒ノ給助ヲ受クル者ナク祖父母父母又ハ二十歳未滿ノ兄弟姉妹ニシテ死者ニ依リ從來生計ヲ爲セシ者アルトキハ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 三 相續者タル孤兒滿二十歳ニ至ルモ廢篤疾ナルトキハ年金ヲ廢止スルニ際シ一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 第六條 療治料ハ傷痕又ハ病症ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス
- 第七條 祭祀料
 - 一 奉職一年未滿ニシテ死亡スル者ハ一時金拾圓ヨリ少カラス拾五圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス滿一年以上一年毎ニ金三圓ヨリ少カラス五圓ヨリ多カラサル額ヲ増給ス
 - 二 職務ノ爲メ死亡スル者ハ前項ノ外一時金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
- 第八條 左ノ各項ニ該ル者ハ給助ヲ受クルヲ得ス

警察

一 公權ヲ剝奪セラレタル者

二 懲罰ニヨリ免職セラレタル者

第九條 左ノ各項ニ該ル者ハ其時間給助ヲ停止ス

一 俸給ヲ受ルノ官職ニ就キタル者

二 公權ヲ停止セラレタル者

三 失踪シタル者

四 許可ヲ得ヌシテ外國ニ出テ一年以上歸朝セサル者

○ 巡查監守給助金支給方 明治二十年四月内 務省訓令第廿三號

巡查監守給助例中年金ハ左ノ各項ニ據リ支給スヘシ 六ヶ月ニ滿タルモノハ 分ヲ支給ス

一年金ハ毎年三月及九月ニ於テ其月ニヨリ前六ヶ月 現月數ヲ以テ計算ス

一年金ハ退職又ハ死亡又ハ傷疾ノ翌月ヨリ支給スヘシ

一年金ヲ受ケタル者死亡又ハ本例第九條ニ該當スルトキハ日割ヲ以テ支給スヘシ

一年金ヲ受ケタル者死亡又ハ本例第五條第一項後段ニ該當スルトキハ其月分全額ヲ

支給ス

○ 巡查賞與規則 明治七年七月 第百號公達

一 拒捕ノ賊ヲ獲ル者

金拾圓以下ノ賞トス

一 賊ヲ獲ル者

金拾圓以下ノ賞トス

一 貨幣贗造ノ者ヲ獲ル者

一 放火或ハ人殺ノ者ヲ獲ル者

一 強盜ヲ獲ル者

金五圓以下ノ賞トス

一 危難ニ臨ンテ人命ヲ救援スル等 其他職務上ニ付功勞アル者

金五圓以下

一 強盜竊盜其他兇徒探索方及ヒ竊盜逮捕ニ格別盡力セシ者 八年第六十四 號公達追加

金五圓以下

右之金高ナ限リトシ實際ノ難易ニ依リ功勞ノ輕重ヲ實定シ等差ヲ分ケ遞減賞與スヘシ若シ本人死スル時ハ追賞トシテ其父母妻子或ハ親族ニ給ス但シ拔群ノ功勞アリテ此限ヲ越ル者ハ伺出ヘシ 八年第四號 公達改正

○ 吊祭扶助療治料 明治十五年十二月 第六十七號公達

一般人民ニシテ巡查同様ノ働キヲナシ死傷セシ者吊祭扶助療治料支給方左ノ通相定候條

此旨相達候事

吊祭扶助療治料

一 吊祭料

重傷死ニ至ル者へ金三拾圓ヲ給ス親族故舊ナキモノハ戸長役場ニ付シ便宜處分セシ

一 遺族扶助料

父母妻子若クハ死者ニ依リ從來生計ヲナセシモノヘ金五拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

一 傷痕扶助料

一等傷 修身不具トナリ自用ヘ金六拾圓ヨリ少カラス百圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス
二等傷 修身不具トナルモヘ金拾圓ヨリ少カラス五拾圓ヨリ多カラサル額ヲ給ス

一 療治料

傷痕ノ輕重ニ依リ其適度ヲ量リ之ヲ給ス

○警察及監獄備員ニシテ職務上死傷セシ者吊祭扶助料療治料支給方

明治二十年九月内務 廳 府 縣 集治監 假留監

省訓令第四十二號 警察及監獄備員ニシテ職務上死傷セシモノ吊祭扶助療治料ハ十五年第六十七號公達ニ照

準支給スヘシ

但警察備ハ警察費監獄備ハ監獄費ヨリ支辨スルモノトス

●質屋取締條例 明治十七年三月九號布告

第一條 質屋營業ヲ爲ス者ハ警廳 東京府ハ 警視廳 ノ免許ヲ受クヘシ

第二條 質屋ハ質物臺帳ヲ備ヘ其紙數ヲ記シ所轄警察署ノ檢印ヲ受クヘシ

第三條 質物臺帳ニハ警察官ニ於テ質物貸金質入主及質入受戻入換ノ年月日ヲ調査スルニ差支ナキ様記載スヘシ

但証人ヲ要スルトキハ質入主及証人ノ實印ヲ捺捺セシメ置クヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ質物ヲ取ルトヲ得ス

但身元詳ナル者証人タルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴癡癪者及雇人(雇主ノ家ニアル者)ヨリ質物ヲ取ルトヲ得

但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者証人タルトキハ此限ニアラス官廳、町村、學校、

病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ヘ其質入シ得ヘキヲ證明スル証人二名以上

ニ非サレハ之ヲ質物ニ取ルトヲ得ス

前二項ニ違背シタル者ハ警察官ノ命ニ依リ元利金ヲ償フニト無ク質戻サル、ルコト

アルヘシ

第六條 盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ

物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第七條 贓物ノ疑アル物品又ハ身柄不相應ト認メタル物品ヲ持來ル者アルトキハ直ニ所

轄警察署又ハ巡行ノ警察官巡査ニ密告スヘシ

第八條 流質物ヲ賣拂ハントスルトキハ五日以前ニ其物品目錄ヲ所轄警察署ニ差出スヘシ

第九條 流質物ヲ賣拂ヒタルトキハ警察官ニ於テ其物品代價及買主ヲ調査スルニ差支ナキ

様流質物賣拂帳ニ記載スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ記附スヘシ

警察

第十一條 品觸到達以後一年內ニ類似ノ物品ヲ質ニ取り又ハ寄藏シタルトキ若クハ其以前ノ質物及寄藏品中ニ類似ノ物品ヲ發見シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十二條 質屋臺帳流質物賣拂帳及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シクルキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時アリトモ質屋ノ店舗ニ臨ミ質物及帳簿ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其質物ヲ差押ヘ又ハ時々帳簿ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルヘシ質屋ハ之ヲ拒ムトテ得ス

第十四條 此條例ニ違背シ又ハ詐爲ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 此條例ヲ一年內ニ再犯シタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ或ハ停止スルコトヲ得

第十六條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十七條 營業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第十八條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事(東京府ヲ除ク)縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ニ届出ツヘシ

●古物商取締條例 明治十六年十二月第五十號布告

第一條 古物商トハ古道具古本古書畫古着古銅鐵漬金銀ヲ賣買スル營業者ヲ云フ
袋物屋、小間物屋、露中屋、時計屋、飾屋、箔打屋、煙管屋ニシテ其營業ニ屬スル古物ヲ賣

買交換スル者及ヒ刃鋸商ハ此條例ニ準據スヘシ

第二條 古物商ハ管轄廳東京府ハ警視廳ノ免許ヲ受クヘシ

第三條 古物商物品ヲ賣買シ又ハ交換シタルトキハ警察官ニ於テ其物品及ヒ賣主讓主ヲ調査スルニ差支ナキ様簿冊ニ記載シ且買主讓受主ヲ詳ニスルコトヲ得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

第四條 身元詳ナラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス但身元詳ナル者其證人タルトキ又ハ警察官若クハ巡查ノ認可ヲ受ケタルトキハ此限ニアラス

第五條 十五年未滿ノ者白痴癲癪者及ヒ雇人(雇主ノ家ニアル者)ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス但父母後見人雇主又ハ身元詳ナル者其証人タルトキハ此限ニアラス
官廳、町村、學校、病院、社寺、會社ノ印章記號アル物品ハ其賣却シ得ヘキコトヲ証明スル證人二名以上アルニ非ラサレハ之ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

第六條 古物商ハ營業者タルト否トチ問ハス盜罪詐欺取財ノ罪又ハ刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルトキハ警察官ノ許可ヲ受クヘシ違フ者ハ一月以上三年以下ノ重禁錮又ハ三拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 古物商ハ自宅又ハ許可ヲ受ケタル市場及ヒ賣主讓主ノ居宅ノ外ニ於テ物品ヲ買取リ又ハ交換スルコトヲ得ス

警察

第八條 刀劍又ハ之ヲ仕込ミタル器具ハ身元詳ナラサル者及ヒ盜罪賭博ノ處斷ヲ受ケタル者ニ賣渡讓渡シ又ハ露店及ヒ路傍ニ於テ賣渡讓渡スヲ得ス

第九條 古物商物品ヲ他府縣ニ運送セントスルトキ又ハ他府縣ヨリ受取リタルキハ其物品ノ目錄ヲ所轄警察署ニ届出ツヘシ

警察官ハ時宜ニ依リ荷作ヲ解キ物品ヲ檢査シ之ヲ差押フルコトアルヘシ但費用ハ届人之ヲ擔當スヘシ

第十條 贓物ノ品觸アルトキハ到達シタル年月日時ヲ其品觸寫書ニ附記スヘシ

第十一條 品觸到達以後一年内ニ類似ノ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏シタルトキ若クハ其以前ニ之ヲ得タルマ、所持シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ若シ届出テスレテ其理由ヲ辨解スルコト能ハサル者ハ第六條ノ刑ニ同シ

第十二條 物品ノ賣買交換ヲ記載シタル簿冊及品觸寫書ハ十年間保存スヘシ若シ亡失シタルトキハ直ニ所轄警察署ニ届出ツヘシ

第十三條 警察官ハ何時タリトモ古物商ノ店舗ニ臨ミ物品及ヒ簿冊ノ檢査ヲ爲シ時宜ニ依リ其物品ヲ差押ヘ又ハ時々簿冊ヲ差出サシメ之ヲ檢査スルコトアルヘシ古物商ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十四條 第二條第三條第四條第五條第七條第八條第九條第十條第十二條第十三條ニ違背シ又ハ詐偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第六條第十一條第十四條及刑法第三百九十九條第四百一條ノ處斷ヲ受ケタル

古物商ノ管轄廳 (東京府ハ)ニ於テ三月以上三年以下ノ特別取締ニ付スルコトヲ得

第十六條 特別取締ニ付セラレタル者ハ尙ホ左ノ項目ニ從フヘシ

一 物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其賣主讓主ノ住所氏名年齢及ヒ物品ノ形狀(徽章番號柄摸樣損所ノ類ヲ云フ)價額年月日時ヲ簿冊ニ記載スヘシ

二 日出前日没後ハ物品ヲ買取リ又ハ交換シ及ヒ寄藏スルコトヲ得ス

三 營業者ニアラサル者ヨリ物品ヲ買取リ又ハ交換シタルトキハ其物品ヲ原狀ノ儘五日間保存スヘシ

四 物品ヲ賣渡シ又ハ交換シタルトキハ其物品ノ形狀價額年月日時ヲ簿冊ニ記載シ且買主讓受主ノ住所氏名年齢ヲ知り得タルトキハ之ヲ記載スヘシ

五 毎月一度物品賣買交換ノ簿冊ヲ所轄警察署ニ差出シ其檢査ヲ受クヘシ

六 住所ヲ移轉シ又ハ施行シ又ハ他人ヲ宿泊同居セシメントスルトキハ所轄警察署ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條 前條ニ違背シタル者ハ三圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 特別取締ニ處セラレタル者第六條第十一條第十四條第十七條ニ依リ罰金ニ處セラレタルトキハ直ニ之ヲ納完セシム若シ納完セサル者ハ留置セラレ、コトアルヘシ

第十九條 古物商一年内ニ此條例ヲ再犯シタルトキハ行政ノ處分ヲ以テ其營業ヲ禁止シ又ハ停止スルコトヲ得

第二十條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 此條例ヲ犯シテ買取リ又ハ交換シタル物品贓物ニ係ルモノハ營業者ニ依ルト否トヲ問ハス警察署ニ於テ之ヲ追徴シテ被害者ニ還付スヘシ若シ被害者知レサルトキハ之ヲ領置シ一年ノ後官沒ス

第二十二條 商業上ニ付テハ家屬又ハ雇人ノ所爲ト雖モ營業者其責ニ任スヘシ

第二十三條 此條例ヲ施行スルノ方法細則ハ警視總監府知事(東京府)縣令ニ於テ便宜取設ケ内務卿ヘ届出ツヘシ

●違警罪即決例 明治十八年九月第三十一號布告

第一條 警察署長及ヒ分署長又ハ其代理タル官吏ハ其管轄地内ニ於テ犯シタル違警罪ヲ即決スヘシ但私訴ハ此限ニ在ラス

第二條 即決ハ裁判ノ正式ヲ用ヒス被告人ノ陳述ヲ聽キ證據ヲ取調ヘ直チニ其言渡ヲ爲スヘシ

又被告人ヲ呼出スコトナク若クハ呼出シタト雖モ出廷セサルトキハ直チニ其言渡書ヲ本人又ハ其住所ニ送達スルコトヲ得

第三條 即決ノ言渡ニ對シテハ違警罪裁判所ニ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得但正式ノ裁判ヲ經スシテ直チニ上訴ヲナスコトヲ得ス

第四條 即決ノ言渡書ニハ被告人ノ氏名年齢身分職業住所犯罪ノ場所年月日時罪名刑名及ヒ正式ノ裁判ヲ請求スルコトヲ得ヘキ期限並ニ其言渡ヲ爲シタル警察署年月日警察官ノ氏名ヲ記載スヘシ

第五條 正式ノ裁判ヲ請求スル者ハ即決ノ言渡ヲ爲シタル警察署ニ申立書ヲ差出スヘシ但其期限ハ第二條第一項ノ場合ニ於テハ言渡アリタルヨリ三日内第二項ノ場合ニ於テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ五日内トス

第六條 警察署ニ於テ前條ノ申立ヲ受ケタル時ハ二十四時内ニ訴訟ニ關スル一切ノ書類ヲ違警罪裁判所檢察官ニ送致スヘシ

第七條 第五條ニ定メタル期限内ニ正式ノ裁判ヲ請求セサル時ハ即決ノ言渡ヲ以テ確定ノモノトス

第八條 科料拘留ノ言渡ヲ爲シタル時必要ト認ムル場合ニ於テハ後ノ數條ニ定メタル處分ヲ爲スコトヲ得

第九條 科料ノ言渡ヲ爲シタル時ハ其金額ヲ假納セシムヘシ若シ納メサル者ハ一圓チ一日ニ折算シテ之ヲ留置ス其一圓ニ滿サル者ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

第十條 拘留ノ言渡ヲ爲シタル時ハ一日チ一圓ニ折算シ其刑期ニ相當ノ金額ヲ保証トシテ差出サシムヘシ若シ差出サ、ル者ハ第五條ニ定メタル期限内之ヲ留置ス但刑期五日内ナル時ハ其日數ニ過クルコトヲ得ス

第十一條 保証金ヲ差出シタル者ハ刑ノ言渡確定シタル後直チニ出廷シテ其執行ヲ受クヘシ若シ出廷セサル時ハ保証金ヲ没入シテ本刑ニ換フ

第十二條 留置シタル者正式ノ裁判ヲ請求シ因テ呼出狀ノ送達アリタル時ハ直チニ留置ヲ解クヘシ

第十三條 留置ノ日數ハ一日チ一圓ニ折算シテ科料ノ金額ニ算入シ又ハ拘留ノ刑期ニ算入スヘシ

●賭博犯處分規則 明治十七年一月 第一號布告

賭博犯ノ儀ハ明治刑法第二百六十條第二百六十一條ニ明文有之候ヘモ當分ノ内行政警察ノ處分ニ屬シ東京ハ警視廳其他ハ地方官ヲシテ別紙賭博犯處分規則ニ依リ取締懲罰ノ事ヲ行ハシム

右奉 勅旨布告候事

賭博犯處分規則

第一條 賭博ヲ爲シタル者ハ一月以上四年以下ノ懲罰及ヒ五圓以上二百圓以下ノ過料ニ處ス家屋ヲ貸與シ及ヒ見張ヲ爲シ其他總テ幫助ヲ爲シタル者亦同シ

博徒コシテ黨類ヲ招結シ又ハ賭場ヲ開設シ又ハ兇器ヲ携帯シ又ハ四隣ニ竊行スル者ハ一年以上十年以下ノ懲罰及五十圓以上五百圓以下ノ過料ニ處ス其招結ニ應シタル者ハ賭博ヲ爲サスト雖モ前項ニ依テ處分ス

第二條 賭具及ヒ賭場ニ現存スル財物ハ何人ノ所有ヲ問ハス之ヲ沒入ス

第三條 賭博犯ヲ取押フルニハ何人ノ家宅ヲ問ハス何時タリトモ之ニ立入コトヲ得但警察官巡查ハ其證票ヲ携帯スヘシ

第四條 此規則ヲ施行スルノ方法細則ハ警視廳監府知事(東京府)縣令ニ於テ便宜之ヲ定メ内務卿ノ許可ヲ得テ施行スルヲ得

密賣淫取締方 明治十四年十二月 第六十四號布告

密賣淫ノ儀ハ刑法第四百二十五條第十項ニ明文有之候ヘトモ當分ノ内其取締懲罰ハ從前ノ通東京ハ警視廳其他ハ地方官ハ委任ス 右奉 勅旨布告候事

新聞紙條例 明治二十年十二月 勅令第七十五號

第一條 新聞紙ヲ發行セントスル者ハ發行ノ日ヨリ二週日以前ニ發行地ノ管轄廳(東京ハ警視廳)ヲ經由シテ内務省ニ届出ヘシ

第二條 新聞紙發行ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 題號
- 二 記載ノ種類
- 三 發行ノ時期
- 四 發行所及印刷所
- 五 發行人編輯人及印刷人ノ氏名年齢編輯人ハ二人以上アルトキハ其主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者タルヘシ但紙面ニ部門ヲ分チ其各部門ニ主任編輯人ヲ設クルヲ得

第三條 届出ヲ爲シタル後、題號、記載ノ種類又ハ發行人ヲ變更セントスルトキハ二週日以前ニ第一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

發行ノ時期、發行所、印刷所、編輯人、印刷人ニ變更アリタルトキハ一週日以内ニ第一條

警察

ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ

第四條 發行人死去シ又ハ法律上其資格ヲ失ヒタルトキハ一週以内ニ發行人ヲ定メ第

一條ノ手續ニ從ヒ届出ヘシ其届出チナス迄ハ假發行人ノ名義ヲ以テ發行スルコトヲ得

第五條 發行ノ届出チナシタル日又ハ發行休止ノ日ヨリ五十日ヲ過キテ發行セザルトキ

ハ其届出ノ効ヲ失フモノトス

第六條 内國人ニシテ滿二十歳以上ノ男子ニ非サレハ發行人、編輯人、印刷人トナルコト

ヲ得ス

公權ヲ剝奪セラレタル者及公權ヲ停止セラレタル者其停止間發行人、編輯人、印刷人ト

ナルコトヲ得ス

第七條 編輯人、印刷人ハ互ニ相兼ヌルコトヲ得ス

第八條 發行人ハ保証トシテ左ノ金額ヲ届書ト共ニ管轄廳(東京府ハ警視廳)ニ納ムヘシ

一 東京ニ於テハ千圓

一 京都大坂横濱兵庫神戸長崎ニ於テハ七百圓

一 其他ノ地方ニ於テハ三百五十圓

一 一月三回以下發行スルモノハ各前記ノ半額保證金ハ時價ニ準ンタル公債證書又ハ

國立銀行ノ預手形ヲ以テ之ヲ納ムルコトヲ得

學藝、技術、統計、官令又ハ物價報告ニ關スル事實ノミヲ記載スルモノハ本條ノ限ニア

ラス

第九條 保證金ハ新聞紙ノ發行ヲ廢止シ又ハ其發行ヲ禁止セラレタルトキハ之ヲ還付ス

第十條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ保證金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保證金

ヲ納メスシテ發行スルモノハ正當ノ届出チナシ又ハ保證金ヲ納ムルマテ警視總監又ハ

地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第十一條 新聞紙ハ每號ニ發行人、編輯人、印刷人ノ氏名發行所ヲ記載スヘシ

發行人、印刷人ノ外何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ハラヌ新聞紙又ハ記載ノ條項ニ署名ス

ルモノハ總テ編輯人ト共ニ其責ニ當ラシム

第十二條 新聞紙ハ其發行毎ニ先ツ内務省ニ二部管轄廳(東京府ハ警視廳)及管轄始審裁

判所檢事局ニ各一部ツ、納ムヘシ

第十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ノ錯誤ニ付其事項ニ關スル當人又ハ關係アルモノヨ

リ正誤又ハ正誤書辨駁書ノ掲載ヲ求メタルトキハ其求テ受ケタル後其次回又ハ第三回

ノ發行ニ於テ正誤チナシ又ハ正誤書辨駁書ノ全文ヲ掲載スヘシ若シ正誤書辨駁書ノ字

數原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其超過ノ字數ニ付其新聞社ノ定メタル普通廣告料ト同

一ノ代價ヲ要求スルコトヲ得

正誤辨駁ハ原文ト同號ノ活字ヲ用ヒ同一欄内ノ首部ニ掲載スヘシ

正誤辨駁ノ文章若クハ趣旨法律ニ觸ル、片又ハ之ヲ求ムル者其氏名住所ヲ明記セサル

トキハ掲載スルヲ要セス

第十四條 官報又ハ他ノ新聞紙ヨリ抄録セシ事項ニシテ其官報又ハ新聞紙ニ於テ正誤又

警察

ハ正誤書辨駁書ヲ掲載シタルトキハ當人又ハ關係アル者ノ求ナシト雖モ其新聞紙ヲ得タル後其次回又ハ第三回ノ發行ニ於テ正誤スヘキコト前條ノ例ニ依ル但廣告料ヲ要求スルコトヲ得ス

第十五條 新聞紙ニ記シタル事項ニ付裁判ヲ受ケタルトキハ其新聞紙ノ次回發行ニ於テ宣告ノ全文ヲ掲載スヘシ

第十六條 重罪輕罪ノ豫審ニ關スル事項ハ公判ニ附セサル以前ニ於テ之ヲ記載スルコトヲ得ス

傍聽ヲ禁シタル訴訟ニ關スル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十七條 刑律ニ觸レタル罪犯ヲ曲庇スルノ論說ヲ記載スルコトヲ得ス

刑事ノ被告人又ハ刑律ニ觸レタル犯罪人ヲ救護シ又ハ賞恤スル爲ニスル文書ヲ掲載スルコトヲ得ス

第十八條 公ニセサル官ノ文書及上書建白請願書ハ當該官廳ノ許可ヲ得ルニ非レハ詳畧ニ拘ハラズ之ヲ記載スルコトヲ得ス

官廳ノ議事及法律ニ依リ傍聽ヲ禁シタル公會ノ議事ハ詳略ニ拘ハラズ之ヲ記載スルコトヲ得ス

第十九條 治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムル新聞紙ハ内務大臣ニ於テ其發行ヲ禁止シ若クハ停止スルコトヲ得

第二十條 新聞紙ノ發行ヲ禁止シ若クハ停止シタルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ發賣頒

布ヲ禁止シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十一條 外國ニ於テ發行シタル新聞紙ニシテ治安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スルモノト認ムルトキハ内務大臣ハ其新聞紙ノ内國ニ於ケル發賣頒布ヲ禁シ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

第二十二條 陸軍大臣海軍大臣ハ特ニ命令ヲ發シテ軍隊軍艦ノ進退又ハ軍械軍略ニ關スル事項ノ記載ヲ禁スルコトヲ得

第二十三條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付公訴ヲ起ストキハ檢察官ハ假ニ其新聞紙ヲ差押フルコトヲ得

裁判官ハ犯罪ノ情狀ニ依リ差押ヘタル新聞紙ヲ沒收スルコトヲ得

第二十四條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付キ訴訟ヲ起シタルトキ原告ニ於テ其新聞紙ニ署名シタル編輯人ハ實際主トシテ編輯事務ヲ擔當スル者ニアラスシテ他ニ主任編輯人アルコトヲ證明シタル場合ニ於テハ裁判官ハ其署名シタル編輯人及實際ノ主任編輯人ヲシテ共ニ其責ニ當ラシムヘシ

第二十五條 新聞紙ニ記載シタル事項ニ付誹毀ノ訴アル場合ニ於テ其私行ニ涉ルモノヲ除クノ外裁判所ニ於テ其人ヲ懲スルノ惡意ニ出テテ專ラ公益ノ爲ニスルモノト認ムトキハ被告人ニ事實ヲ證明スルコトヲ許スコトヲ得若シ其證明ノ確立ヲ得タルトキハ誹毀ノ罪ヲ免ス其損害賠償ノ訴ヲ受ケタルトキモ亦同シ

第二十六條 裁判確定ノ日ヨリ一週日以内ニ裁判費用及罰金ヲ完納セス又ハ損害ヲ賠償

セサルトキハ保証金ヲ以テ之ニ充ツヘシ仍ホ足ラサルトキハ刑法徴收處分ニ依ル
保証金ヲ以テ裁判費用賠償及罰金ニ充テタルトキハ發行人ハ管轄廳(東京府ハ警視廳)
ノ通知ヲ得タル日ヨリ一週日以内ニ其缺額ヲ完納スヘシ若シ完納セサルトキハ其之ヲ
完納スルニ至ルマテ警視廳又ハ地方長官ニ於テ其發行ヲ差止ヘシ

第二十七條 第一條第三條第四條ノ届出ヲ爲サス又ハ第六條第七條第十一條第一項第十
二條ヲ犯シ又ハ保証金ヲ納ムヘキ新聞紙ニシテ保証金ヲ納スシテ發行シタルトキハ發
行人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス但詐稱ノ罪ヲ犯スモノハ罰發行人ニ同シ第一條
第三條第四條ノ届出ヲ爲スモ實ヲ以テセサルトキハ發行人一月以上六月以下ノ輕禁錮
又ハ五圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス
第八條ノ末項ニ屬スル新聞紙ニシテ保証金ヲ納ムヘキ新聞紙ノ事項ヲ記載シタルトキ
ハ編輯人罰前項ニ同シ

第二十八條 第十三條第十四條第十五條ニ違フトキハ編輯人ヲ五圓以上百圓以下ノ罰金
ニ處ス

第二十九條 第十六條第十七條第十八條ニ違フトキハ編輯人ヲ一月以上六月以下ノ輕禁
錮又ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條 第二十一條ニ違ヒ發賣頒布ヲ爲ス者ハ罰前條ニ同シ
第三十一條 第二十二條ニ違フトキハ發行人編輯人ヲ一月以上二年以下ノ輕禁錮又ハ二
十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條 政體ヲ變壞シ朝憲ヲ紊亂セントスルノ論說ヲ記載シタルトキハ發行人、編
輯人、印刷人ヲ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ヲ附加
ス

本條ヲ犯スモノハ其犯罪ノ用ニ供シタル器械ヲ沒收ス

第三十三條 猥褻ノ新聞紙ヲ發行スルトキハ發行人、編輯人ヲ一月以上六月以下ノ罰金
ニ處ス

第三十四條 第十三條ノ場合ニ於テ私事ニ係ルモノハ被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第三十五條 此條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ自首減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十六條 此條例ニ關スル公訴ノ期滿免除ハ六箇月トス

第三十七條 時々ニ發行スル雜誌ノ類ハ出版條例ニ依ルモノヲ除クノ外皆此條例ニ依ル

○官吏タル者ノ新聞紙又ハ雜誌雜報等ニ政務ヲ敘述スル儀相成ラス

明治八年七月太 院省使廳府縣へ達

政官第百九號

凡ソ官吏タル者官報公告ヲ除クノ外新聞紙又ハ雜誌雜報等ニ於テ私ニ一切ノ政務ヲ敘述
スル事不相成候條此旨相達候事

但百般學科ニ係ル敘述ハ此限ニアラス

●收税

●歳入歳出出納規則 明治十九年三月
閣令第三號

各 官 廳

歳入歳出出納規則左ノ通制定シ來ル十九年度ヨリ施行ス

第一章 總則

第一條 此規則ニ掲クル歳入トハ毎年裁定セラレタル豫算ニ據リ國庫常用部ヘ收入スル所ノモノニシテ分テ二部トス但特別ノ收入ニシテ整理上部門ヲ分ツテ必用トスルトキハ之ヲ加フルコトアルヘシ

第一部 租税

第二部 手数料ノ性質ヲ以テ徵收スル諸收入、官有ノ財産物品ヨリ生スル諸收入、官業益金、罰金科料沒收金ノ類、諸貸付若クハ過渡ノ返納金、特別ノ事務ニ宛ル諸寄付金等總テ租税外ノ收入

第二條 此規則ニ掲クル歳出トハ毎年裁定セラレタル豫算ニ據リ國庫常用部ヨリ支出スル所ノモノニシテ分テ三部トス但特別ノ經費ニシテ整理上部門ヲ分ツテ必用トスルトキハ之ヲ加フルコトアルヘシ

第一部 國債元利、年金、恩給、諸祿ノ類

第二部 帝室御用度、神社ノ諸費

第三部 各廳ノ經費

收税

二十年二月閣令第二
二月閣令第二
二月閣令第二
二月閣令第二
二月閣令第二
二月閣令第二
二月閣令第二
二月閣令第二
二月閣令第二
二月閣令第二

第三條 此規則ニ於テ納人ト稱スルハ戶長、各納稅者、其他政府ニ對シ仕拂ノ義務ヲ有スル者ヲ云

第四條 此規則ニ於テ受取人ト稱スルハ官吏、會社、一私人ノ別ナク總テ政府ヨリ仕拂ヲ受クヘキ權利ヲ有スル者ヲ云

第五條 此規則ニ掲クル金庫トハ大藏省金庫局其出張所及國庫金取扱所若クハ現金仕拂所ヲ云

第六條 金庫ノ出納ハ臨時急施ヲ要スルモノヲ除クノ外總テ大藏大臣ノ指定スル開庫時間ニ限ル

第七條 此規則ニ稱スル收支命令官トハ明治十四年第三十六號達及特別ノ制規ニ據リ定メタル金錢物品收支命令ノ權ヲ有スル當該官ヲ云

第八條 帝室御用度ハ内藏頭ノ請求ニ依リ現金ヲ内藏寮ヘ交付シ其出納ハ別段ノ規則ニ據ルモノトス

第二章 出納ノ開閉
第九條 一會計年度 每年四月一日ヨリ翌ニ屬スル歲入歲出ノ出納ハ第十條第十一條第十二條ノ場合ヲ除キ總テ毎年四月一日ヲ以テ開始ス

第十條 特別ノ制規ニ據リ俸給等ノ前渡ヲ要スルトキハ出納ノ開始前ニ於テ支出ヲ爲スコトヲ得

第十一條 在外各廳ノ經費、現金仕拂所ナキ地方各廳ノ經費、外國派出官吏及留學生等ノ經費送付ノ爲メ前年度十二月一日以降特ニ支出ヲ爲スコトヲ得

第十二條 前二條ノ外旅費手當ノ如キ支給ノ方法ニ由リ前年度内ニ支出スルノ必用ナルモノアルトキハ出納開始前ニ支出ヲ爲スコトヲ得

第十三條 各廳ニ於テ會計年度内ニ於テ歲出ノ仕拂ヲ結了セザルモノハ整理ノ爲メ翌年度八月三十一日マテ該會計年度ニ屬スル支出ヲ爲スコトヲ得

第十四條 在外各廳及現金ヲ出納スル各廳ハ三月三十一日以後ハ該會計年度ニ屬スル收支ヲ執行スルコトヲ得ス但概算支出ノ精算ノ爲メニ必要ナルトキハ翌年度五月三十一日マテ特ニ收支ヲ爲スコトヲ得

第十五條 金庫ニ於テハ每年度會計整理ノ爲メ翌年度十一月三十日マテ出納ヲ爲スコトヲ得

第三章 歲入
第十六條 歲入ニ係ル現金ノ收納ハ總テ大藏大臣之ヲ管理シ各廳ノ收支命令官ハ其徵收ヲ監理シ現金ハ直ニ金庫ニ收納スルモノトス但左ニ掲クル各項ノ收入ハ現金ヲ各廳ニ

收納スルコトヲ得
第一項 郵便收入
第二項 電信收入
第三項 公賣處分ニ依リ收入スル税金、過料、沒收金、手数料ノ類
第四項 在外各廳ノ收入金

取稅

第五項 諸寄附金ノ類

第十七條 前條但書ノ外臨時非常ノ場合若クハ特別避クヘカラサル場合ニ於テハ現金ヲ
答應ニ收納スルコトヲ得但其場合ニ於テハ即時其旨ヲ收支命令官ヨリ大藏大臣ニ報告
スヘシ

第十八條 歳入ハ徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シテ之ヲ徵収スルモノトス但第十六條
但書ノ收入ニシテ各廳ニ現金ヲ收納スルトキハ此限ニアラス

第十九條 第一部歳入中内國稅ヲ徵收スルトキハ北海道廳長官若クハ府知事縣令ノ命令
ニ據リ郡區長ヨリ戶長若クハ各納稅者ニ對シ徵稅令書ヲ發スルモノトス

第二十條 戶長ハ徵稅令書ヲ受タルトキハ其町村一人別納額元帳ニ據リ各納稅者ニ徵稅
傳令書ヲ發スルモノトス

第二十一條 第一部歳入中關稅及第二部歳入中稅關ノ諸收入ヲ徵収スルトキハ大藏大臣
ノ命令ニ據リ稅關長ヨリ各納人へ納額告知書ヲ發スルモノトス

第二十二條 第二部歳入 關稅ノ諸收 入ヲ除ク 徵收スルトキハ各廳ノ收支命令官ノ命令ニ據リ會
計主務官ヨリ各納人へ納額告知書ヲ發スルモノトス

第二十三條 第一部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納期ノ十五日以前 納期日ノ數日ニ涉
十五日以前 其隨時納期ヲ定ムルモノハ其都度徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發スヘシ
但納期ヲ豫定シタルモノト雖モ稅則ニ因リ十五日ノ猶豫ナキモノハ此限ニアラス

第二十四條 戶長ハ徵稅令書ヲ受領シタルトキハ納期日以前ニ各納稅者ニ徵稅傳令書ヲ

發シ稅金ヲ取纏ムヘシ

第二十五條 第二部歳入中納期ヲ豫定シタルモノハ納期ノ十日以前ニ其隨時納期ヲ定ム
ルモノハ其都度納額告知書ヲ發スルモノトス

第二十六條 關稅、稅關ノ諸收入及物品ヲ以テ徵收スルモノ又ハ第十六條但書ニ屬スル
モノヲ除キ其他ノ歳入ハ總テ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシムヘシ

第二十七條 第十六條但書ノ第一項第二項第三項第五項及第十七條ノ如キ各廳ニ現金ヲ
收納スルモノハ毎日之ヲ取纏メ歳入ノ各目ニ區別シタル納付書ヲ添ヘ翌日マテニ其取
扱主任官ヨリ金庫ヘ納付スヘシ但金庫ニ遠隔ナル地方ノ各廳ニ收納スル現金納付ノ方
法ハ大藏大臣特ニ之ヲ定ムヘシ

第二十八條 第二十六條ニ據リ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ納付セシムルニハ同時ニ徵稅令
書若クハ納額告知書ヲ持參セシムヘシ

第二十九條 金庫ニ於テ納人ヨリ歳入ヲ領收スルトキハ其持參シタル徵稅令書若クハ納
額告知書ニ領收ノ証ヲ記シ之ヲ納人ニ交付スヘシ但第二十七條ノ場合ニ於テハ納付書
ニ領收ノ証ヲ記シ還付スルモノトス

第三十條 戶長ニ於テ取纏メタル稅金ハ翌日マテニ之ヲ金庫ニ納付スヘシ但相當ノ保護
法ヲ設クルトキハ納期前ニ限リ一千圓以下五百圓マテハ五日間五百圓未滿ハ七日間之
ヲ其役場ニ留ムルコトヲ得

第三十一條 關稅及稅關ノ諸收入ハ納人ヲシテ現金ヲ金庫ニ預ケシメ其預リ證書ヲ以テ

收稅

税關へ納付セシムヘシ

第三十二條 税關長ハ其領收シタル關稅及税關ノ諸收入ヲ取纏メ毎月三四之ヲ金庫へ送納スヘシ

第三十三條 各廳ノ收支命令官ハ歳入ノ過納、誤納若シハ印紙類ノ返納ニ由リ既納ノ歳入下戻ヲ要スルトキハ其事由ヲ具シ其拂戻ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第三十四條 物品ヲ以テ歳入ヲ徵收スル方法ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 歳出

第三十五條 歳出ニ係ル現金ノ仕拂ハ総テ大藏大臣之ヲ管理シ其所管金庫ニ於テ仕拂ヲ執行スルモノトス但左ニ掲クル各項ノ經費ハ各廳ノ請求ニ依リ大藏大臣ハ現金ヲ各廳ニ交付スルコトヲ得

第一項 在外各廳ノ經費

第二項 陸軍ノ行軍費

第三項 海軍ノ航海費

第四項 外國ニ於テ使用スル各廳ノ經費

第五項 燈臺巡回船ノ航海費

第六項 機密費

第七項 運輸通信ノ便少ナキ島嶼其他金庫ノ設置ナキ地方ニ在ル各廳ノ經費
第三十六條 前條但書ノ外臨時非常ノ場合若クハ特別避クヘカラサル場合ニ於テハ大藏

大臣ハ現金ヲ各廳ニ交付スルコトヲ得

第三十七條 毎年豫算ノ裁定アルトキハ各廳ノ收支命令官ハ一過年度中ニ係ル經費ノ月額ヲ豫定シ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シ豫算裁定ノ達ヲ受タル後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣へ送付シ其承認ヲ受クヘシ但其支出期節ノ豫定シ難キモノ及第一部(第二部)歳出ハ此限ニアラス 二十年五月閣令第十五號ヲ以テ三字刪除

第三十八條 前條仕譯書ノ承認ヲ受タル後期節若クハ金額ノ變更ヲ要スルトキハ更ニ大藏大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第三十九條 第三十七條但書中支出期節ノ豫定シ難キモノハ其支出ヲ要スル毎ニ大藏大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第四十條 各廳ノ収支命令官ハ第三十七條第三十八條第三十九條ノ承認ヲ受タル後ニアラサレハ支出ヲ命令スルコトヲ得ス但毎會計年度ノ初メ一箇月分 毎年四 各目ノ豫算金額十二分ノ一ニ超エサレハ承認ヲ受ケサルモ支出ヲ命令スルコトヲ得

第四十一條 各廳ニ於テ支出スル所ノ經費ハ第三十五條但書第三十六條ノ場合ヲ除キ總テ仕拂切符ヲ以テ之ヲ仕拂フモノトス

第四十二條 前條ノ經費ヲ仕拂フトキハ収支命令官ノ命令ニ依リ會計主務官ハ各受取人ニ對シ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス

第四十三條 仕拂切符ノ仕拂期限ハ振出ノ日ヨリ滿九十日ヲ超ユヘカラス

第四十四條 仕拂切符ハ一目毎ニ之ヲ發シ數目ヲ合スルコトヲ得ス

收税

第四十五條 仕拂切符ヲ發付シタル會計主務官ハ其切符ヲ發スルト同時ニ該仕拂切符ニ指名シタル金庫へ案内書ヲ發スヘシ

第四十六條 仕拂切符ニ指名セラレタル金庫ハ其切符持參人ニ對シテ即時ニ表面ノ金額ヲ仕拂フモノトス但仕拂切符ノ日付後九十日ヲ過キタルモノハ第四十七條第四十八條ニ據リ之ヲ處分スヘシ

第四十七條 金庫ニ於テ仕拂切符ノ日付後九十日ヲ過キタルモノヲ發見シタルトキハ該仕拂切符所有者ヲシテ其發行廳ニ仕拂切符ノ交換ヲ請求セシムヘシ

第四十八條 各廳ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ更ニ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス

第四十九條 金庫ハ仕拂ヲ請求セラレタル仕拂切符若シ成規ニ違フコトアルカ若クハ案内書ト符合セサルコトアリト認ムルトキハ其事由ヲ該仕拂切符持參人ニ告ケ預リ證書ヲ發シテ該切符ヲ留置キ即時ニ其旨ヲ該切符ニ記名ノ會計主務官ニ通牒スヘシ

第五十條 前條ノ場合ニ於テ金庫ハ會計主務官ニテ仕拂切符又ハ案内書ヲ訂正スルカ若クハ其切符ノ正當ナルヲ保証スルニアラサレハ之ヲ仕拂フコトヲ得ス

第五十一條 第三十五條ノ第一項第四項第七項ノ經費金遞送ヲ要スルトキハ各主管廳ノ收支命令官ヨリ請求書ヲ大藏大臣へ送付シテ送金ヲ請求スヘシ

第五十二條 前條ノ經費ハ一回ニ年額四分ノ一以内ヲ交付スルモノトス但臨時ノ費途ニシテ一時ニ支出ヲ要スルモノハ此限ニアラス

第五十三條 豫算ノ裁定前ニ於テ第五十一條ノ經費發送ヲ要スルトキハ前年度ノ豫算額ニ據リ送付ノ金額ヲ定ムルモノトス但臨時ノ費途ハ此限ニアラス

第五十四條 大藏大臣ハ第五十一條ノ請求ヲ受クルトキハ金庫ヲシテ一箇月以内ニ其指定セラレタル出納主任官へ現金ヲ發送セシムルモノトス

第五十五條 第三十五條ノ第二項第三項第五項第六項ノ經費金ヲ受取ントスルトキハ各主管廳ノ收支命令官ハ請求書ヲ大藏大臣へ送付シ其交付ヲ請求スヘシ

第五十六條 大藏大臣ハ前條ノ請求ヲ受クルトキハ金庫ヲシテ其指定セラレタル出納主任官へ現金ヲ交付セシムルモノトス

第五十七條 各廳ノ收支命令官ハ第十條第十二條ノ支出ヲ爲サントスルトキハ事由ヲ具シテ其仕拂ヲ大藏大臣ニ請求スヘシ

第五十八條 各廳ノ本廳外ノ地ニ在ル小支部局若クハ出張官吏等へ經費金ヲ遞送セントスルトキハ會計主務官ヨリ仕拂切符ヲ發シ金庫へ送付シ送金ヲ請求スヘシ

第五十九條 國庫常用部ヨリ會計ノ取扱ヲ異ニスルモノへ支出スル經費ハ主管廳ノ請求ニ據リ大藏大臣ハ直ニ金庫ヨリ現金ヲ仕拂ハシムルモノトス

第六十條 國債元利ノ仕拂ヲ爲ストキハ大藏大臣ハ其豫定金額ヲ北海道廳、府縣廳へ達シテ其仕拂ヲ執行セシムルモノトス但銀行ヲシテ取扱ハシムル國債元利ノ仕拂ハ其取扱銀行へ金額ヲ交付シテ之ヲ執行セシム

第六十一條 國庫常用部ヨリ國庫中他ノ部ノ準備部へ支出スルモノハ裁定ノ豫算ニ基キ大

收稅

藏大臣ノ命令ニ據リ直ニ之ヲ移スモノトス

第六十二條 各廳ノ收支命令官ハ會計年度經過後ニ於テ其會計年度ノ支出ニ屬スヘキ契約ヲ爲スコトヲ得ス

第六十三條 各廳ニ於テ既ニ仕拂タル金額ノ内返納ヲ要スルトキ若クハ第三十五條但書及第三十六條ニ據リ現金ヲ受取リ仕拂殘餘アラトキハ即日之ヲ金庫ヘ納付シ廳中ニ留ムルコトヲ得メ但第三十五條第一項第七項ノ場合ハ此限ニアラス

第六十四條 金庫ヘ大藏大臣ノ命令ヲ受クルニアラサレハ一切仕拂ヲ執行スル告ヲ得ス

第五章 報告

第六十五條 毎年豫算ノ裁定アルトキハ各廳ノ收支命令官ハ一過年度中ニ係ル歳入ノ月額豫算表ヲ製シ豫算裁定ノ達ヲ受タル後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ報告スヘシ但收入期節ノ豫定シ難キモノハ此限ニアラス

第六十六條 郡區長ハ第十九條ニ據リ徵稅令書ヲ發シタルトキハ之ヲ北海道廳長官若クハ府知事、縣令ヘ報告スヘシ

第六十七條 北海道廳長官、府知事、縣令ハ前條郡區長ノ報告ニ據リ其徵稅額表ヲ製シ納期ヲ豫定シタル租稅ハ徵稅令書發付後十五日以内ニ隨時納期ヲ定ムルモノハ毎月取纏メ翌月十五日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ報告スヘシ

第六十八條 金庫ハ各納ハヨリ收入金ヲ領収シタルトキハ毎日之ヲ其徵稅令書若クハ納額告知書ヲ發シタル廳ヘ報告スヘシ但官廳ヨリ收入金ヲ領収シタルトキハ此限ニアラ

ス

第六十九條 稅關長ハ第三十二條ニ據リ關稅及稅關ノ諸收入ヲ送付スルトキハ同時ニ之ヲ大藏大臣ヘ報告スヘシ

第七十條 各廳ノ收支命令官ハ毎月其徵稅セシメタル歳入ノ報告書ヲ製シ翌月十五日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ但關稅及稅關ノ諸收入ハ此限ニアラス

第七十一條 各廳ノ收支命令官ハ毎月其支出セシメタル歳出ノ報告書ヲ調製シ翌月七日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第七十二條 在外各廳ノ分任收支命令官ハ每會計年度初月ヨリ三箇月毎ニ歳出報告書ヲ主管廳長官ヘ送付スヘシ

第七十三條 本廳外ニ在ル支部局ノ分任收支命令官ハ第七十一條ノ期日マテニ毎月ノ歳出報告書ヲ主管廳長官ヘ送付スヘシ

第七十四條 前二條ニ據リ送付シタル歳出報告書ハ主管廳ノ收支命令官ヨリ其到達後三日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第七十五條 現金ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ現金ノ受拂ヲ大藏省主計局長ヘ報告スヘシ

第七十六條 前條ノ報告期節ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 在外各廳ノ收入及經費、機密費及現金仕拂所ナキ地方各廳ノ經費ノ報告ハ毎月分ヲ翌月十日マテニ發送ス

收稅

一 陸軍ノ行軍費ノ報告ハ行軍終ル後十五日以内ニ發送ス

一 海軍ノ航海費、燈臺巡回船ノ航海費ノ報告ハ航海終ル後十五日以内ニ發送ス

第七十七條 各廳ノ収支命令官ハ會計年度内ニ於テ歳入ノ徵収若クハ歳出ノ仕拂ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ年度後十五日以内ニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ但所在地ノ隔離スル郡區役所若クハ支部局ニ係ルモノハ年度後一箇月内ニ取纏メ之ヲ送付スヘシ

第七十八條 各廳ノ収支命令官ハ會計ノ整理期限 翌年度八月 内ニ於テ歳出ノ支出ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ翌年度十月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第七十九條 各廳ノ収支命令官ハ翌年度十一月三十日マテニ歳入ノ徵収ヲ完了セサルモノアルトキハ其報告書ヲ製シ十二月三十一日マテニ之ヲ大藏大臣ヘ送付スヘシ

第八十條 會計主務官ハ會計ノ整理期限マテニ概算支出ノ精算未済ノモノアルトキハ其報告書ヲ製シ翌年度九月三十日マテニ之ヲ大藏省及會計検査院ヘ送付スヘシ

第八十一條 郡區役所又ハ支部局ノ所在地遠隔ニシテ第六十七條第七十條及第七十七條但書ノ報告期節ニ其報告ヲ取纏メ難キ場合ニ於テハ其旨ヲ大藏大臣ニ開申シ遅表ヲ製シテ別ニ之ヲ報告スヘシ

第六章 雜則

第八十二條 此規則ニ掲グル仕譯書、請求書、月額豫算表、計算書、報告書、徵稅令書、納額

告知書、仕拂切符等ノ様式ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八十三條 此規則ニ關スル事務取扱ノ手續ハ大藏大臣之ヲ定ム

第八十四條 現行法規中此規則ニ抵触スル條項ハ廢止ス

○歳入取扱順序 明治十九年三月 大藏省令第四號

閣令第三號歳入歳出納規則第八十三條ニ據リ歳入取扱順序別冊ノ通之ヲ定ム

歳入取扱順序

第一章 主管廳及支部局 内國稅

第一條 北海道廳長官府知事縣令ハ毎年達セラレタル豫算額ニ據リ前々年度以前三ヶ年間該當月ニ收入シタル平均額ト其豫算額トヲ標準トシ一過年度中ニ係ル内國稅ノ月額豫算表ヲ第十七號甲書式ニ據リ調製シ規則第六十五條ニヨリ之ヲ大藏大臣ヘ送付ス

第二條 北海道廳長官府知事縣令ハ規則第十九條ニヨリ徵収命令ヲ郡區長ヘ下スニハ租稅ノ種類ニ依リ其廳ノ便宜ニ從ヒ或ハ豫算ニ基キ豫メ之ヲ發シ或ハ隨時ニ之ヲ發ス

第三條 北海道廳長官府知事縣令ハ郡區長ヨリ規則第六十六條ノ報告ヲ得タルトキハ之ヲ取纏メ第十八號書式ニ據リ徵稅額表ヲ製シ規則第六十七條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第四條 北海道廳長官府知事縣令ハ郡區長ヨリ順序第四十八條ノ徵收濟報告書ヲ得タルトキハ毎月分ヲ取纏メ第二十號甲書式ノ歳入報告書ヲ製シ規則第七十條ニヨリ大藏省

へ送付ス

- 第五條 北海道廳長官府知事縣令ハ郡區長ヨリ順序第五十條ノ既納歳入下戻ヲ請求スル
トキハ第六號書式ニヨリ計算書ヲ製シテ規則第三十三條ニヨリ其下戻ヲ大藏省ニ請求
ス
- 第六條 北海道廳長官府知事ハ大藏省ヨリ既納金拂戻ノ認可ヲ受クルトキハ會計主務
官ニ命シ仕拂切手ヲ郡區長ニ交付シ其支拂案内書ハ國庫金出納所へ送附セシメ其旨大
藏省へ報告スヘシ
二十年省令第二
號ヲ以テ改正
- 第七條 北海道廳長官府知事縣令ハ會計年度内ニ於テ内國稅ノ徵收ヲ完了セサルモノア
ルトキハ第二十三號甲書式ニヨリ會計年度内徵收未濟報告書ヲ製シ規則第七十七條ニ
ヨリ之ヲ大藏省へ送付ス
- 第八條 北海道廳長官府知事縣令ハ翌年度十一月三十日迄ニ内國稅ノ徵收ヲ完了セサル
モノアルトキハ第二十三號甲書式ニ據リ出納閉鎖前不納報告書ヲ製シ規則第七十九條
ニヨリ之ヲ大藏省へ送付ス
- 第九條 規則第八十一條ニヨリ成規ノ期限後ニ製スル所ノ報告書ハ各第十八號書式第二
十號甲書式第二十三號甲書式ニ準ス
第二部歳入 税關ノ諸取
入ヲ除ク
- 第十條 主管廳ノ収支命令官ハ毎年達セラレタル豫算額ニ基キ第十七號乙書式ニヨリ各
所管内ノ歳入月額豫算表ヲ調製シ規則第六十五條ニヨリ之ヲ大藏省へ送付ス

- 第十一條 収支命令官又ハ分任収支命令官ハ規則第二十二條ニ據リ會計主務官又ハ其代
理官ニ命令ヲ下スニハ歳入ノ性質ニ依リ其廳ノ便宜ニ從ヒ或ハ豫算ニ基キ豫メ之ヲ發
シ或ハ隨時ニ之ヲ發シテ其徵收ヲ取扱ハシム
- 第十二條 會計主務官又ハ其代理官ニ於テ規則第二十二條第二十五條ニ據リ納額告知書
ヲ發スルトキハ總テ納額告知書ニヨリ第四號書式ノ納額告知書ニ納人ノ姓名、金額、納期、
告知書番號、所屬年度、科目、所屬曆年、納期ノ數回アルモノハ其納期共納付先ヲ記載シ又其告知書ニ接
續シタル上納書ノ正副共右同一ノ記入ヲナシ納額告知書ニハ發付ノ年月日及發付者ノ
官姓名ヲ記シ之ニ官印ヲ捺シ第四號書式ニ印ノ處へ臺張ト割印シテ之ヲ納人へ交付ス
- 第十三條 規則第二十六條第二十八條ニ據リ納人ヲシテ現金ヲ納付セシムルトキハ納額
告知書ニ接續シタル上納書正副共ニ年月日ヲ記入シ記名捺印シ（見認印又ハ花押等ニ
テモ差支ナシ）納額告知書ト共ニ之ヲ現金ニ添テ金庫へ持參セシム
- 第十四條 規則第十六條但書及第十七條ニ據リ現金ヲ各廳へ收入スルトキハ其取扱主任
官ハ規則第二十七條ニヨリ第五號書式ノ納付書ヲ添へ現金ヲ金庫へ納付ス
- 第十五條 納人數多アリテ其組合代理ヲ撰ミ之ニ委託シテ納金ヲサントスルモノアル
トキハ代理納人ニ對シテ納額ヲ集計シタル納額告知書ヲ發ス
- 第十六條 納人ノ隔地ニ散在スルカ爲メ他廳ニ主管廳ヲ異ニ徵收ヲ委託スル場合ニ於テハ
収支命令官ヨリ受託廳ノ収支命令官ニ徵收額調書ヲ送リテ其徵收ヲ託ス
- 第十七條 前條ノ委託ヲ受ケタル収支命令官ハ分任収支命令官ノ地位ニアルト均シク徵

收稅

収支取扱フモノナレド處務ノ便宜上必要トスレハ更ニ部下ノ官吏ニ收支ノ命令ヲ分任ス

第十八條 納人ノ各地ニ散在スルカ爲メ部下ノ廳ヲテ徵收ヲ監督セシムル場合ニ於テハ收支命令官ハ會計主務官ヲシテ順序第十二條ニヨリ調製シタル納額告知書ヲ其廳ヘ送付セシメ其廳ニ於テ各納人ヘ配付セシム

第十九條 前條ニ據リ主管廳ヨリ納額告知書ノ配付ヲ命セラレタル部下ノ官ハ主管廳ノ定メタル帳簿式ニ據リ徵收監査簿ヲ備ヘ置キ之ニ登記シ其納額告知書ノ裏面ニ配付ノ年月日ヲ記入シ廳印ヲ捺シ上納正副書用紙ノ裏面ニハ廳印ノミヲ捺シ之ヲ納人ヘ交付ス

第二十條 納額告知書ノ配付ヲ命セラレタル廳ニ於テハ金庫ヨリ順序第八十三條ニ據リ送付シタル上納副書ヲ受クルトキハ之ヲ徵收監査簿ニ照合シ納濟ノ記入ヲナス

第二十一條 納額告知書ヲ配付シタル廳ハ金庫ヨリ送付シタル上納副書ヲ取纏メ主管廳ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳ヘ送付ス

第二十二條 會計主務官又ハ其代理官ハ金庫ヨリ順序第七十四條ニ據リ上納副書ヲ送付セラレ又ハ上納副書ヲ取纏メタル廳ヨリ前條ニ據リ上納副書ヲ送付セラレタルトキハ之ヲ納額臺帳ニ照合シ該臺帳ニ納濟ノ記入ヲナス

第二十三條 會計主務官又ハ其代理官ハ毎月納濟ノ金額ヲ取調ヘ歳入徵收濟調書ヲ製シ之ヲ收支命令官又ハ分任收支命令官ニ報告ス

第二十四條 收支命令官ハ前條ノ報告ニ據リ第二十號乙書式ノ歳入報告書ヲ製シテ規則第七十條ニ據リ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十五條 分任收支命令官ハ順序第二十三條ノ報告ニ據リ第二十號乙書式ニ準シ歳入報告書ヲ製シテ之ヲ主管廳ヘ送付ス

第二十六條 主管廳ノ收支命令官ハ前條ノ報告書ヲ受クルトキハ査閲ノ後之ニ記名捺印シテ大藏省ヘ送付ス

第二十七條 收支命令官ハ既納ノ歳入下戻ヲ要スルトキハ第六號書式ニ準シ計算書ヲ製シテ規則第三十三條ニ據リ其下戻ヲ大藏省ニ請求ス

第二十八條 分任收支命令官ハ既納ノ歳入下戻ヲ要スルトキハ事由ヲ具シテ主管廳ノ收支命令官ニ開申ス

第二十九條 收支命令官ハ大藏省ヨリ既納金拂戻ノ認可ヲ受クルトキハ第六條ノ順序ニ據リ執行ス
二十年省令第二號ヲ以テ改正

第三十條 會計主務官又ハ其代理官ハ金庫ヨリ上納副書若シハ領收ヲ証シタル納付書ヲ受タルトキ年度又ハ科目ノ誤記ヲ發見スルトキハ收支命令官又ハ分任收支命令官ニ具申シ其命令ニヨリ即時金庫ニ照會シテ之カ訂正ヲ請求ス

第三十一條 在外各廳ニ於テ現金ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ歳入歳出ノ現金ヲ合セテ取扱タルトキハ第二十二號甲書式ニ據リ歳入ノミ取扱タルトキハ第二十二號乙書式ニ據リ規則第七十五條第七十六條ニ據リ報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十二條 前條ノ出納主任官ハ其收入シタル現金ヲ蓋守シ大藏省ノ指揮ニ從テ之ヲ處分ス

第三十三條 收支命令官ハ會計年度内ニ於テ歳入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ第二十三號乙書式ニ據リ會計年度内徵收未濟報告書ヲ製シ規則第七十七條ニ據リ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十四條 收支命令官ヘ翌年度十一月三十日マテニ歳入ノ徵收ヲ完了セサルモノアルトキハ第二十三號乙書式ニ據リ出納閉鎖前不納報告書ヲ製シ規則第七十九條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第三十五條 規則第八十一條ニヨリ成規ノ期限後ニ製スル所ノ報告書ハ各第二十號乙書式第二十三號乙書式ニ準ス

第二章 郡區役所

第三十六條 郡區長ハ規則第十九條第二十三條ニヨリ戶長若クハ各納稅者ニ對シテ徵稅令書ヲ發スルキハ總テ徵稅臺帳ニヨリ徵稅令書ニ納人(納稅者若クハ戶長)ノ姓名、金額、納期、令書番號、所屬年度、科目、所屬曆年、納期ノ數回アルモノハ其納期共納付先ヲ記載シ又其令書ニ接續スル上納書ノ正副共同一ノ記入ヲナシ(金員ヲ除ク)徵稅令書ニハ發付ノ年月日及發付者ノ官姓名ヲ記シ之ニ官印ヲ捺シ第一號書式イ印ノ如ク臺帳ト割印シテ之ヲ納人ヘ交付ス規則第十七條ニヨリ現金ヲ徵收スルトキハ上納副書用紙ヲ交付セス

第三十七條 前條中各納稅者ニ對シテ發スル徵稅令書ハ第二號書式ニ據リ戶長ニ對シテ發スル徵稅令書ハ第一號書式ニ據ル

第三十八條 各納稅者ニ對シテ發スル徵稅令書ハ郡區役所ノ便宜ニ依リ戶長ニ交付シテ之ヲ配付セシメ又ハ直ニ之ヲ各納稅者ニ交付ス

第三十九條 戶長ニ徵稅令書ヲ交付シテ配付セシムル場合ニ於テハ戶長ヲシテ税金ヲ取纏メ之ヲ金庫ニ納付セシメ又ハ各納稅者ヲシテ直ニ税金ヲ金庫ニ納付セシムルハ徵稅令書ニ接續シタル上納書正副共ニ年月日ヲ記入シ記名捺印シ(見認印又ハ花押等ニテモ差支ナシ)徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添テ金庫ヘ持參セシム

第四十條 規則第二十六條第二十八條ニ據リ納人ヲシテ現金ヲ納付セシムルニハ徵稅令書ニ接續シタル上納書正副共ニ年月日ヲ記入シ記名捺印シ(見認印又ハ花押等ニテモ差支ナシ)徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添テ金庫ヘ持參セシム

第四十一條 郡區長ハ徵稅令書ヲ發シタルトキハ規則第六十六條ニ據リ其報告書ヲ製シテ北海廳長官府知事縣令ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳ヘ送付ス

第四十二條 公賣處分ヲ以テ徵收シタル税金ヲ規則第十六條但書ニヨリ郡區役所ニ收納シタルトキハ別ニ其領收證書ヲ製シ處分濟徵收ノ達書ト共ニ之ヲ納稅者ニ交付ス但戶長ニ對シテ徵稅令書ヲ發シタルモノニ係ルトキハ本文ノ領收證書及ヒ達書ヲ戶長ニ交付シテ之ヲ納稅者ニ傳ヘシム

第四十三條 規則第十七條ニヨリ税金ヲ郡區役所ニ納付セシメタルトキハ郡區役所ハ徵稅令書ニ領收ノ年月日ヲ記入シ役所印ヲ捺シ其傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ上納書ト接續ノ處ヘ割印ノ後之ヲ切斷シ該令書ハ之ヲ納人ヘ還付ス

取稅

第四十四條 戶長ニ對シテ徵稅令書ヲ發シ税金ヲ郡區役所ニ徵收スル場合ニ於テ税金ノ
 内納不納等ノトキ戶長ニ對スル處務ノ順序ハ總テ金庫ノ取扱ニ準ス
 第四十五條 規則第十六條但書及第十七條ニヨリ税金ヲ郡區役所ニ收入スルトキハ郡區
 長ハ税金取扱主任官ヲシテ規則第二十七條ニヨリ第五號書式ノ納付書ヲ添ヘ現金ヲ金
 庫ヘ納付セシム
 第四十六條 郡區長ハ金庫ヨリ順序第七十四條ニ據リ上納副書ヲ送付セラレタルトキハ
 之ヲ徵稅臺帳ニ照合シ該臺帳ニ納濟ノ記入ヲナス
 第四十七條 郡區役所ニ於テ税金ヲ徵收スル場合ニ於テハ現金ヲ收納シタル際即時ニ徵
 稅臺帳ニ領收濟ノ記入ヲナス
 第四十八條 郡區長ハ毎月徵收濟ノ金額ヲ一ヶ月毎ニ取調徵收濟報告書ヲ製シ北海道廳
 長官府知事縣令ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳ヘ送付ス
 第四十九條 郡區長ハ徵稅臺帳及金庫ヨリ送付シタル不納報告ニ據リ會計年度内徵收未
 濟報告書并ニ出納閉鎖前不納報告書ヲ製シ北海道廳長官府知事縣令ノ定メタル期節ニ
 之ヲ主管廳ヘ送付ス
 第五十條 郡區長ハ既納ノ税金下戻ヲ要スルトキハ之レカ計算書ヲ製シテ其下戻ヲ北海
 道廳長官府知事縣令ニ請求ス
 第五十一條 郡區長ハ主管廳ヨリ既納金拂戻證ヲ交付セラレタルトキハ其領收証ヲ主管
 廳ヘ發送シ其拂戻証ヘ受取人ニ交付シ其領收証ヲ徵ス

第五十二條 郡區長ハ税金徵收濟ノ後徵收不足ヲ發見スルトキハ更ニ徵稅令書ヲ發シ其
 理由ヲ裏面ニ記載シテ之ヲ納入ニ交付ス
 第五十三條 郡區長ハ金庫ヨリ上納副書分納副書若クハ領收ヲ證シタル納付書ヲ受ケタ
 ルトキ年度又ハ科目ノ誤記ヲ發見スルトキハ即時金庫ニ照會シテ之カ訂正ヲ請求ス
 第五十四條 郡區長ハ順序第十八條ニヨリ主管廳ヨリ納額告知書ノ配付ヲ命セラレタル
 トキハ北海道廳長官府知事縣令ノ定メタル帳簿式ニ據リ徵收監查簿ヲ備置キ之ニ登記
 シ其納額告知書ノ裏面ニ配付ノ年月日ヲ記入シ郡區役所ノ印ヲ捺シ上納正副書用紙ノ
 裏面ニハ郡區役所ノ印ノミヲ捺シテ之ヲ納入ヘ交付ス
 第五十五條 郡區長ハ前條ノ場合ニ於テ金庫ヨリ順序第八十三條ニ據リ送付シタル上納
 副書ヲ受ケルトキハ之ヲ徵收監查簿ニ照合シ納濟ノ記入ヲナス
 第五十六條 郡區長ハ順序第五十四條ノ場合ニ於テ税金ヲ領取シタル金庫ヨリ送付シタ
 ル上納副書ヲ取纏メ主管廳ノ定メタル期節ニ之ヲ主管廳ヘ送付ス
 第三章 戶長役場
 第五十七條 戶長ハ郡區長ヨリ徵稅令書ヲ以テ町村ノ税金取纏メヲ命セラレタルトキハ
 規則第二十條ニ據リ概テ附記ノ雛形ニ準シ徵稅傳令書ヲ製シ納稅者ニ配付シ納稅者ヲ
 シテ現金ニ徵稅傳令書ヲ添ヘ戶長役場ニ納付セシム
 第五十八條 戶長ハ各納稅者ヨリ税金ヲ領取スルトキハ徵稅傳令書ニ接續シタル税金領
 收証用紙ニ金員及領收ノ年月日ヲ記入シ姓名ノ下ニ捺印シ傳令書ト領收書ト接續ノ處

取稅

へ割印シテ之ヲ切斷シ傳令書ヲ役場ニ留メ領收書ヲ納稅者ニ交付ス

第五十九條 納期末日前ニ於テ税金ノ内納ヲサソコトヲ請フモノアルトキハ徵稅傳令書ニ内納ノ金額并ニ其領收年月日ヲ記入シ捺印シテ納稅者ニ交付シ完納ニ至リ前條ノ手續ヲナス但戸長ニ於テ内納金ヲ領收スル毎ニ別ニ領收証書ヲ發スルヲ便トスルハ別ニ假領收証書ヲ交付シ完納ノ際前條ノ手續ヲナシテ假領收證ト交換ス

第六十條 戸長ハ規則第二十四條ニ據リ取纏メタル税金ヲ納付スルトキハ郡區長ヨリ受タル徵稅令書ニ接續シタル上納書用紙ニ第一號書式第一例ノ如ク金員年月日ヲ記入シ記名捺印シテ徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ金庫ヘ納付ス

第六十一條 戸長ハ其取纏メタル税金未ダ徵稅令書ノ金額ニ滿サルカ爲メ内納ヲサソコトスルトキハ第三號書式ノ分納書ニ式ノ如ク所屬年度、科目、所屬曆年、納期ノ數回ナルヲ其受ケタル徵稅令書ニ記載シタル如ク記入シ之ニ内納ノ金額及納付年月日ヲ記入シ記名捺印シテ現金並ニ徵稅令書ニ此時徵稅令書ニ接續シタル上納書用紙ハ白文ノ儘ト共ニ之ヲ金庫ヘ納付ス

第六十二條 前條分納ノ場合ニハ徵稅令書ニ記載シタル納金ノ全額ニ滿ルマテハ前條ノ手續ニヨリ最後完納ノ時ニ至レハ分納書ヲ用ヒス第一號書式第二例ノ如ク徵稅令書ニ接續シタル上納書ニ其納金額年月日等ヲ記入シ記名捺印シテ徵稅令書ト共ニ之ヲ現金ニ添ヘ金庫ヘ納付ス

第六十三條 戸長ニ於テ税金ヲ分納シタル後納期末日ニ至リ徵稅令書ノ金額ヲ完納スル能ハサルハ徵稅令書ニ接續シタル上納書用紙ノ上納文ヲ朱書ヲ以テ第一號書式第三

例ノ如ク改記シ不納報告書トナシ不納金額及年月日ヲ記入シ記名捺印シテ之ヲ徵稅令書ニ接續シ金庫ニ送付ス

第六十四條 前條ノ不納報告ヲナシタル後不納處分中戸長ニ於テ税金ノ上納ヲ取扱フコトアルトキハ順序第六十一條ノ如ク第三號書式ノ分納書ヲ以テ彙ニ金庫ヨリ返付セラレタル徵稅令書ト共ニ現金ヲ金庫ニ納付ス

第六十五條 戸長ハ郡區長ヨリ各納稅者ニ對シテ發シタル徵稅令書ヲ交付セラレタルトキハ直ニ之ヲ各納稅者ニ配付ス

第六十六條 戸長ハ前條ノ場合ニ於テ順序第三十九條ニ據リ郡區長ヨリ税金ノ取纏メヲ命セラレタルトキハ納稅者ヨリ税金ヲ領收シ之ニ對シテ假領收証書ヲ發付シ其持參シタル徵稅令書并ニ之ニ接續シタル上納書ヲ預ル

第六十七條 戸長ハ前條領收シタル税金ヲ其預リタル徵稅令書上納書ト共ニ金庫ニ納付ス

第六十八條 戸長ハ金庫ヨリ領收シタル徵稅令書ノ還付ヲ受ルトキハ之ヲ各記名ノ納稅者ニ交付シ彙キニ發付シタル假領收證ト交換ス

第六十九條 成規又ハ納稅者ノ望ニ據リ徵稅令書發付ニ先ダテ税金ヲ納ムル場合ニ於テハ戸長ハ其預リ証書ヲ納稅者ニ交付シ郡區長ニ報告シテ徵稅令書ノ發付ヲ請求ス

第七十條 前條ノ場合ニ於テハ戸長ハ徵稅令書ヲ受ケタルトキ納稅者ヲシテ上納書用紙ニ年月日ヲ記入シ記名捺印セシメ彙ニ預リタル現金ト共ニ金庫ニ納付シ徵稅令書ニ領

取稅

收ノ證ヲ受ケ之ヲ納稅者ニ交付シテ預リ証書ト交換ス但戸長ニ對シテ發シタル徵稅令書ヲ受ルトキハ其傳令書ヲ發セス戸長ヨリ領收証書ヲ發シテ預リ証書ト交換ス

第七十一條 戸長ニ於テ既納ノ稅金下戻ヲ要スルト見認ルトキハ事由ヲ具シテ之ヲ郡區長ニ請求ス

第七十二條

戸長ハ郡區長ヨリ稅金ノ拂戻証ヲ交付セラレタルトキハ其領收証ヲ郡區役所へ發送シ金庫ニ於テ現金ヲ受取リ之ヲ配付ス

第四章 金庫

第七十三條 納人ヨリ現金ヲ上納書ニ添へ徵稅令書若クハ納額告知書ト共ニ納付スルトキハ金庫ハ其令書若クハ告知書ニ規則第二十九條ニ據リ書式ノ如ク領收ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ上納書ト接續ノ處へ割印ノ後之ヲ切斷シ其令書若クハ告知書ハ之ヲ納人へ還付ス

第七十四條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後正副上納書ニ書式ノ如ク納濟ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ正書ニハ納濟月日ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ正副書接續ノ處へ割印シテ之ヲ切斷シ正書ニ據リテ帳簿ニ記入シ副書ハ規則第六十八條ニ據リ即日前條ノ令書若クハ告知書ヲ發シタル處へ送付ス

第七十五條 戸長ヨリ稅金ノ内納ヲナス爲メニ分納書ヲ添テ現金ヲ納付スルトキハ金庫ハ徵稅令書ノ裏面ニ第一號書式第二例ノ如ク内納ノ金額年月日ヲ記入シ捺印シタル上之ヲ戸長ニ還付ス

第七十六條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後ハ分納書ニ書式ノ如ク納濟ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ正副接續ノ處ニ割印シテ之ヲ切斷シ副書ハ即日其徵稅令書ヲ發シタル郡區役所へ送付シ正書ニヨリテ帳簿ニ記入ス

第七十七條 戸長ヨリ稅金ノ分納ヲナシタル未完納ニ至ルトキハ金庫ハ第一號書式第二例ノ如ク徵稅令書裏面ニ記載シタル領收濟ノ金額ヲ合計シテ之ヲ表面ニ移記シ其次行ニ最後領收ノ金額年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ上納書ト接續ノ處へ割印シテ之ヲ切斷シ該徵稅令書ハ之ヲ戸長ニ還付ス

第七十八條 戸長ヨリ稅金ノ分納ヲナシタル未徵稅令書ノ金額ヲ完納シ難キトキ其旨ヲ報告シ來ルトキハ金庫第一號書式第三例ノ如ク徵稅令書裏面ニ記載シタル領收濟ノ金額ヲ合計シテ之ヲ表面ニ移記シ其次行ニ朱書ヲ以テ不納金額ヲ記載シ金庫ノ印ヲ捺シ不納報告書ト接續ノ處へ割印シテ之ヲ切斷シ該徵稅令書ハ之ヲ戸長ニ還付ス

第七十九條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後不納報告書正副書接續ノ處へ割印シテ之ヲ切斷シ副書ハ即日其徵稅令書ヲ發シタル郡區役所へ送付ス

第八十條 不納處分中上納ノ稅金ヲ戸長ヨリ納付シ來ルトキハ金庫ハ第一號書式第三例ノ末ニアル雛形ニ據リ領收證箋ヲ製シ領收ノ金額年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ徵稅令書ノ下端ニ書式ノ如ク貼付シ契印ヲ捺シテ之ヲ戸長ニ還付ス幾回ニモ右ノ如キ收納アルトキハ都テ領收證箋ヲ徵稅令書ノ下端ニ并貼シ餘地ナキニ至レハ徵稅令書裏面ノ餘白ニ貼付ス

取稅

第八十一條 前條ノ手續ヲ終ル後分納書取扱ノ手續キハ第七十六條ニ同シ
 第八十二條 金庫ハ現金取扱ノ主任官ヨリ現金ノ納付ヲ受ルトキ規則第二十九條但書ニ
 據リ第五號書式ノ如ク納付書ノ正書ニ領收ノ年月日ヲ記入シ副書ニハ納濟ノ年月日ヲ
 記入シ共ニ金庫ノ印ヲ捺シ正副書接續ノ處ヘ割印シテ之ヲ切斷シテ正書ハ之ヲ納付人
 へ還付シ副書ニハ金庫印ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ之ニ據リテ帳簿ニ記入ス
 第八十三條 順序第十九條若クハ第五十四條ノ納額告知書ト共ニ現金ヲ領收シタル場合
 ニ於テハ金庫ハ順序第七十三條第七十四條ノ手續キニ據リテ之ヲ取扱ヒ其上納副書ハ
 該告知書ヲ配付シタル廳へ送付ス

徵稅傳令書雛形

(寸法用紙適宜)

第 何 號	何 ノ 誰 納
一金何圓何錢	
明治何年第何期分地租	
右明治何年何月何日限リ上納	

取稅

年 月 日	戶 長 何 ノ 誰 印
第 何 號	
一金何圓何錢	
地 租	
右正ニ領收候也	
年 月 日	戶 長 何 ノ 誰 印
何 ノ 誰 殿	

○歳出取扱順序 明治十九年三月
 大藏省令第五號
 閣令第三號歳入歳出納規則第八十三條ニ據リ歳出取扱順序別冊ノ通之ヲ定ム
 歳出取扱順序

第一章 各廳普通ノ經費

- 第一條 主管廳ノ收支命令官ハ規則第三十七條ニ據リ毎年達セラレタル豫算額ニ基キ經費ノ支出月額ヲ定メ仕拂場所ヲ區別シ第八號書式ニ據リ仕拂書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第二條 大藏大臣ノ承認ヲ得タル支出仕譯書中ニ於テ規則第三十八條ニ據リ月額又ハ仕拂場所ヲ改訂セントスルトキハ第九號書式ニヨリ訂正仕譯書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第三條 支出期節ノ豫定シ難キモノニシテ其期節并ニ仕拂場所ノ定マルトキハ第十號書式ニ據リ追仕譯書ヲ製シテ規則第三十九條ニヨリ之ヲ大藏省ヘ送付ス
- 第四條 各廳ニ於テ經費ノ支出ヲ要スル毎ニ會計主務官又ハ其代理官ハ支出スヘキ金額事由ヲ具シテ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請フ
- 第五條 會計主務官又ハ其代理官ハ前條ノ裁可ヲ得タルトキハ第十一號書式ニヨリ仕拂切符元帳ニ金員事由ヲ記載シ仕拂切符ニ番號金員要用ナレハ貨幣ノ種類共仕拂場所受取人姓名切符發行ノ年月日等ヲ記入シ記名捺印シ案内書ニハ番號所屬年度科目金員要用ナレハ貨幣ノ種類共受取人姓名切符發行ノ年月日ヲ記入シ記名捺印シ元帳仕拂切符案内書ト接續ノ所ヘ割

- 印シ之ヲ切斷シテ案内書ハ金庫ヘ送付シ仕拂切符ハ受取人ニ交付シテ其領收證ヲ徴ス
- 第六條 會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地方ノ金庫ニ宛テ仕拂切符ヲ發行セントスルトキハ仕譯書ヲ以テ承認ヲ得タル地方ナレハ會計主務官又ハ其代理官ハ前條ノ手續ニヨリ其地ノ金庫ニ宛テ仕拂切符ヲ製シ同時ニ案内書ヲ該金庫ヘ送付シ仕拂切符ハ之ヲ受取人ヘ送付シテ其領收證ヲ徴ス
- 第七條 規則第五十八條ニ據リ會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地方ニ經費金ヲ送付セントスルトキハ仕譯書ヲ以テ豫メ承認ヲ得難キ場合ニ於テハ會計主務官又ハ其代理官ハ仕譯書ヲ以テ承認ヲ得タル地方ノ金庫ニ宛テ仕拂切符ヲ發行シ切符ノ裏面ニ受取人ノ住所姓名并ニ現金ノ遞送ヲ請求スル旨ヲ記載シテ該金庫ヘ送付ス
- 第八條 會計主務官又ハ其代理官ハ前條ノ請求ヲナシ金庫ヨリ送金ノ手形ヲ交付セラレタルトキハ之ヲ以テ受取人ヘ送付シ其領收證ヲ徴ス
- 第九條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第六條第七條第八條ノ手續キニ據リ仕拂切符ヲ發行スルトキハ仕拂切符元帳ニヨリ帳簿ニ登記ス
- 第十條 金庫ヨリ仕拂切符ノ書式等成規ノ如クナラサルカ又ハ案内書ト符合セサルコトアルカヲ通知スルトキハ該切符ヲ發シタル會計主務官又ハ其代理官ハ其理由ヲ審査シ該切符若シ証書ノ効力ヲ失ナフニ至ラサル場合ナルカ又ハ案内書ノ誤謬ナレハ其切符ノ正當ナル保證書ヲ金庫ヘ送付シテ仕拂ヲ請求シ該切符若シ証書ノ効力ヲ有シ難キ場合ニ於テハ其旨ヲ金庫ニ報シテ仕拂切符ヲ持參人ヘ返付セントテ請求シ其偽造變造

取稅

等ニ係ルトキハ法ニ據リテ取扱ハシム

第十一條 前條金庫ヨリ受取人ニ仕拂切符ヲ返付シタル場合ニ於テ其所有者ヨリ該仕拂切符ノ書換ヲ請求スルトキハ會計主務官又ハ其代理官ハ書換ヲナスヘキ正當ノ理由アリト見認ルトキハ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請ヒ更ニ仕拂切符ヲ製シテ舊仕拂切符ト交換ス

第十二條 仕拂期限ヲ經過シタル仕拂切符ノ書換ヲ請求セラルトキハ會計主務官又ハ其代理官ハ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請ヒ更ニ仕拂切符ヲ製シテ舊仕拂切符ト交換ス

第十三條 會計ノ整理期限内ニ於テ仕拂切符ノ書換ヲナストキハ仕拂切符簿(大藏省ヨリ交付シタル仕拂切符元帳仕拂切符及案内書ノ用紙)ニ於テ通常仕拂切符發行ノ手續キニヨリ仕拂切符并ニ案内書ヲ製シ元帳ニハ朱書ヲ以テ金額事由等ヲ記入シ割印シテ之ヲ切斷ス但金額ノ更正ヲ要スル場合ニ於テハ本文ノ手續ニ據ラス

第十四條 會計ノ整理期限ヲ經過シテ仕拂切符ノ書換ヲナストキハ過年度支出トシテ更ニ通常ノ手續ニヨリ仕拂切符ヲ發行ス

第十五條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第十二條第十三條ニヨリ仕拂切符ヲ再發シテ交換シタルトキハ舊仕拂切符ヲ消印シテ收支命令官又ハ分任收支命令官ニ之ヲ証明ス

第十六條 會計主務官又ハ其代理官ハ會計ノ整理期限前ニ於テ過渡金ノ追徴ヲナストキ

ハ第十六號書式ニヨリ返納告知書ニ番號金員事由納期日返納場所返納人ノ姓名年月日ヲ記入シ記名捺印シ返納元帳ニハ番號金員事由納期日返納人ノ姓名告知書發付ノ月日ヲ記入シ元帳ト告知書ト(接續ノ處)割印シテ切斷シテ返納人ヘ交付シ返納人チシテ返納告知書ニ現金ヲ添テ金庫ヘ納付セシム 二十年二月省令 第二號五字刪除

第十七條 會計主務官又ハ其代理官ハ會計ノ整理期限後ニ於テ過渡金ノ追徴ヲナストキハ歳入ヲ徵收スルト同一ノ手續ニヨリ納額告知書ヲ發シテ之レヲ返納人ヘ交付シ返納人チシテ通常ノ歳入ト同一ノ手續ニヨリ現金ヲ金庫ヘ納付セシム

第十八條 會計主務官又ハ其代理官ハ金庫ヨリ返納ノ通知ヲ得タルトキハ返納元帳ニ返納濟ノ記入ヲナス

第十九條 主管廳ノ收支命令官ハ規則第五十一條ニヨリ送金ヲ請求セントスルトキハ第十二號書式ニ據リ送金請求書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送附ス

第二十條 前條ノ請求ニヨリ經費金ノ送附ヲ受タル出納主任官ハ即時第十三號書式ニヨリ其領收證書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送附ス

第二十一條 前條ノ出納主任官ハ該經費金ノ支出ヲ要スルトキハ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請フテ之ヲ支出ス

第二十二條 主管廳ノ收支命令官ハ規則第五十五條ニヨリ經費金ヲ受取ントスルトキハ第十四號書式ニヨリ請求書ヲ製シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第二十三條 前條ノ請求ニ因リ經費金ノ交附ヲ受ケタル出納主任官ハ即時第十三號書式

取税

ニヨリ其領收證書ヲ製シテ之ヲ金庫へ送付ス

第二十四條 前條ノ出納主任官ハ其交附セラレタル現金ノ支出ヲ要スルトキハ該經費金ノ收支命令官又ハ分任收支命令官ノ裁可ヲ請テ之ヲ支出ス

第二十五條 規則第三十六條ニ據リ現金ヲ受取ントスルトキハ主管廳ノ收支命令官ハ第十四號書式ニ準シ請求書ヲ製シ事由ヲ具シテ之ヲ大藏省へ送付ス

第二十六條 前條ニ因リ現金ノ交附ヲ受クルトキハ出納主任官取扱ノ手續キハ總テ第二十三條第二十四條ニ準ス

第二十七條 規則第五十七條ニ據リ支拂ヲ請求セントスルトキハ主管廳ノ收支命令官ハ第十五號書式ニ據リ請求書ヲ製シテ之ヲ大藏省へ送付ス

第二十八條 前條請求ノ承認ヲ得タルトキハ収支命令官ハ通常支出ノ手續キニ據リ會計主務官ヲシテ仕拂ヲ執行セシム

第二十九條 現金ヲ出納スル所ノ出納主任官ハ歳入歳出ノ現金ヲ合セテ取扱ヒタルトキハ第二十二號甲書式ニ據リ歳出ノミ取扱タルトキハ第二十二號丙書式ニ據リ報告書ヲ製シ規則第七十五條ニ據リ之ヲ大藏省へ送付ス

第三十條 規則第三十五條第一項第七項ニ屬スル經費金ヲ取扱ヒタル出納主任官ハ毎年度支出ノ後殘金アルトキハ之ヲ監守シ大藏省ノ指揮ニ從テ之ヲ處分ス

第三十一條 收支命令官ハ毎月支出ヲ裁可シタル調査ニ基キ規則第七十一條ニ據リ第二十一號書式ノ歳出報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省へ送付ス

第三十二條 分任收支命令官ハ毎月支出ヲ裁可シタル調査ニ基キ規則第七十二條若クハ第七十三條ニ據リ第二十一號書式ノ歳出報告書ヲ製シテ之ヲ主管廳へ送付ス

第三十三條 主管廳ノ收支命令官ハ前條ノ報告書ヲ受クルトキハ査閱ノ後之レニ記名捺印シ規則第七十四條ニ據リ之ヲ大藏省へ送付ス

第三十四條 收支命令官ハ會計年度内ニ於テ其仕拂フヘキ歳出ノ支出ヲ完了セサルモノアルトキハ規則第七十七條ニ據リ第二十四號書式ノ會計年度内歳出未済報告書ヲ製シ之ヲ大藏省へ送付ス

第三十五條 收支命令官ハ會計ノ整理期限内ニ於テ其仕拂フヘキ歳出ノ支出ヲ完了セサルモノアルトキハ規則第七十八條ニ據リ第二十四號書式ノ會計整理期限内歳出未済報告書ヲ製シ之ヲ大藏省へ送付ス

第三十六條 會計主務官ハ會計ノ整理期限マテニ概算ヲ以テ支出シタル經費ノ精算未済ノモノアルトキハ規則第八十條ニ據リ第二十五號書式ノ精算未済報告書ヲ製シテ之ヲ大藏省及會計検査院へ送付ス

第三十七條 收支命令官ハ大藏省へ歳出ノ報告ヲ送付シタル後金額ヲ改メテ再度仕拂切符ヲ發行セシメタルトキ又ハ會計ノ整理期限ヲ過キ仕拂切符ヲ再發シ之ヲ交換セシメタルトキハ既ニ發送シタル歳出報告中其事項ノ取消書ヲ毎月ノ歳出報告書ト共ニ大藏省へ送付ス

第三十八條 收支命令官ハ出納閉鎖ノ期ヲ過キテ仕拂切符ノ仕拂請求ナキ報告ヲ金庫ヨ

リ受タルトキハ十五日以内ニ前年度ノ歳出報告中其事項ノ取消書ヲ大藏省ヘ送付ス

第二章 各省所管ノ府縣費

第三十九條 府知事縣令ハ經費所管廳ノ長官ヨリ費額ノ令達ヲ受クルトキハ順序第一條ノ手續ニ據リ仕譯書ヲ製シテ之ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス

第四十條 規則第三十八條第三十九條ノ場合ニ於テハ順序第二條又ハ第三條ノ手續ニ據リ訂正仕譯書又ハ追仕譯書ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス

第四十一條 經費所管廳ノ長官ハ前二條ノ仕譯書ヲ受ルトキハ査閲ノ後捺印シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第四十二條 府知事縣令ハ毎月支出ヲ裁可シタル調書ニ基キ規則第七十一條ニ據リ第二十一號書式ノ歳出報告書ヲ製シテ之ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス

第四十三條 府知事縣令ハ分任収支命令官ヨリ順序第三十二條ノ歳出報告ヲ受クルトキハ査閲ノ後之ニ記名捺印シテ經費所管ノ廳ヘ送付ス

第四十四條 經費所管廳ノ長官ハ前二條ノ報告書ヲ受クルトキハ査閲ノ後捺印シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第四十五條 順序第三十四條第三十五條ニ屬スル報告書及順序第三十七條第三十八條ノ取消書ハ府知事縣令ヨリ其經費所管廳ヘ送付ス

第四十六條 經費所管廳ノ長官ハ前條ノ報告書又ハ取消書ヲ受タルトキハ査閲ノ後捺印シテ之ヲ大藏省ヘ送付ス

第四十七條 府縣ノ會計主務官ハ順序第三十六條ノ手續ニヨリ精算未済報告書ヲ大藏省

及會計検査院ヘ送付スルトキハ同時ニ副書一通ヲ經費所管ノ廳ヘ送付ス

第四十八條 府知事縣令ハ規則第三十六條ニヨリ現金ヲ受取ントスルトキハ第十四號書式ニ準シ事由ヲ具シテ之ヲ經費所管ノ廳ニ請求ス

第四十九條 經費所管廳ノ長官ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ之ヲ査閲シ至當ノ請求ニシテ規則第三十六條ニ適合スルモノト見認ルトキハ請求書末ニ其旨ヲ副書シテ大藏省ニ請求ス

第五十條 府知事縣令ハ神社常務ノ經費ノ豫算定額ヲ十二分ノ毎月順序第五條ノ手續ニヨリ會計主務官ヲシテ仕拂切符ヲ發シテ之ヲ受取人ヘ交付セシム

第五十一條 前條ニヨリ仕拂ヲ執行シ難キモノアルトキハ府知事縣令ハ事由ヲ具シ該經費所管ノ廳ニ特別ノ處分ヲ請求ス

第五十二條 神社費所管ノ廳ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ其當否ヲ審査シ請求ノ至當ナルモノハ更ニ之ヲ大藏省ニ請求ス

第五十三條 本章各條ニ歴舉シタル手續キノ外ハ總テ第四條ヨリ第二十一條マテ第二十六條ヨリ第三十條マテノ手續キニヨル

第三章 國債

第五十四條 國債元金償還ノ當籤ヲ大藏省ヨリ公布スルトキハ北海道廳長官府知事縣令ハ第八號書式ニ準シ其管内ニ於テ仕拂フヘキ金額ヲ定メ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シテ之

取税

ヲ大藏省へ送付ス

第五十五條 國債利子及賦金ノ定期仕拂ニ係ルモノハ規則第六十條ニ據リ其支出額ヲ豫定シテ大藏省ヨリ北海道廳長官府知事縣令ニ達ス

第五十六條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條ノ令達ヲ受クルトキハ第八號書式ニ準シ仕拂場所ノ仕譯書ヲ製シテ之レヲ大藏省へ送付ス

第五十七條 北海道廳長官府知事縣令ハ大藏省ヨリ順序第五十四條第五十六條ノ仕譯書ニ據リ仕拂ノ令達ヲ受クルトキハ其仕拂ヲ會計主務官ニ命ス但支廳ニ於テ支出ヲ要スルモノアルトキハ其支出ヲナスヘキ旨ヲ支廳ノ分任收支命令官ニ達ス

第五十八條 支廳ノ分任收支命令官ハ北海道廳長官府知事縣令ヨリ前條ノ令達ヲ受ルトキハ其仕拂ヲ會計主務官又ハ其代理官ニ命ス

第五十九條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第五十七條若クハ第五十八條ノ命令ヲ受クルトキハ順序第五條ノ手續ニヨリ仕拂ヲ執行ス

第六十條 仕譯書ニ據リ大藏省ノ令達ヲ得タルヲ以テ會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地方ノ金庫ニ宛テ前條ノ仕拂切符ヲ發スルトキハ該地方ノ郡區役所ニ仕拂切符ヲ送付シテ之ヲ受取人ニ交付セシメ同時ニ案内書ヲ該金庫へ送付ス

第六十一條 國債元金ヲ償還スルトキハ公債證書ニ對シテ仕拂切符ヲ交付シ利子ノ仕拂ヲナストキハ利札ニ對シテ仕拂切符ヲ交付シ賦金ノ支拂ヲナストキハ賦札ニ對シテ仕拂切符ヲ交付ス但記名公債證書及利札賦札ノ亡失等ニ罹リ定期ヲ過キテ元金利子若ク

ハ賦金ヲ仕拂フトキハ其事由金額種類記號番號等ヲ詳記シタル領收證書ヲ徴シテ仕拂切符ヲ交付ス

第六十二條 國債元金利子若クハ賦金ノ仕拂額事故解融又ハ調査期限後轉入ノ爲メ大藏省ヨリ令達シタル金額ニ超過スルトキ及事故解融ノ爲メ會計ノ整理期限後ニ於テ元金利子若クハ賦金ノ仕拂ヲ請求スルモノアルトキハ北海道廳長官府知事縣令ハ其事由ヲ具シ支出ノ請求書從來ノ書式ニ據ルヲ製シテ之ヲ大藏省へ送付ス

第六十三條 大藏省ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ之ヲ審査シ其仕拂ヲ達ス

第六十四條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ第五十七條ヨリ第六十一條マテノ手續ニ據リ仕拂ヲ執行セシム

第六十五條 起業公債金札引換無記名公債中仙道鐵道公債外國公債ノ元利金ハ規則第六十條ニ據リ其支出額ヲ定メテ大藏省ヨリ各其取扱銀行へ現金ヲ交付シ其仕拂ヲ執行セシム

第六十六條 本章各條ニ歷舉スルモノ、外ハ總テ第十條ヨリ第十六條マテ第三十一條ヨリ第三十五條マテ及第三十七條第三十八條ノ手續キニ據ル

取稅

第六十七條 北海道廳長官府知事縣令ハ年金恩給一時賜金ヲ除ク若クハ諸祿ノ交付期節毎ニ其支出スヘキ金額及仕拂場所ヲ取調ヘ第八號書式ニ準シ其仕譯書ヲ製シ内譯明細書ヲ添付シ交付期月ノ三十日前ニ之ヲ大藏省へ發送ス

第六十八條 大藏省ハ前條仕譯書ニヨリ北海道廳長官府知事縣令ニ年金恩給若クハ諸職ヲ交付スヘキ令達ヲナス

第六十九條 北海道廳長官府知事縣令ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ其仕拂ヲ會計主務官ニ命ス但支應ニ於テ支出ヲ要スルモノアルトキハ其支出ヲナスヘキ旨ヲ支廳ノ分任收支命令官ニ達ス

第七十條 支應ノ分任收支命令官ハ北海道廳長官府知事縣令ヨリ前條ノ令達ヲ受クルトキキハ其仕拂ヲ會計主務官又ハ其代理官ニ命ス

第七十一條 會計主務官又ハ其代理官ハ第六十九條若クハ第七十條ノ命令ヲ受クルトキハ第五條ノ手續ニヨリ仕拂ヲ執行ス

第七十二條 仕譯書ニ據リ大藏省ノ令達ヲ得タルヲ以テ會計主務官又ハ其代理官ノ在勤セサル地方ノ金庫ニ宛テ前條ノ仕拂切符ヲ發スルトキハ案内書ヲ該金庫ヘ送付シ仕拂切符ヲ該地方ノ郡區役所ニ送付シテ之ヲ受取人ニ交付シ其領收証ヲ徴セシム

第七十三條 仕拂切符ヲ受取人ニ交付スルトキハ年金ノ仕拂切符ナレハ年金証ヲ檢閱シ恩給ノ仕拂切符ナレハ恩給証書及生存證書ヲ檢閱ス

第七十四條 恩給中一時賜金ハ其支出ヲ要スル毎ニ主管廳ノ收支命令官ヨリ第十五號書式ニ準シテ請求書ヲ製シ仕拂ノ場所ヲ記入シ本人ノ履歷書ヲ添付シ其支出ヲ大藏省ニ請求ス

第七十五條 大藏省ハ前條ノ請求ヲ受ルトキハ之ヲ審査シ其正當ナルトキハ即時承諾ノ

旨ヲ通知ス

第七十六條 主管廳ノ收支命令官ハ前條ノ通知ヲ受クルトキハ其仕拂ヲ會計主務官ニ命ス但支部局ニ於テ仕拂ヲ要スルモノハ其仕拂ヲナスヘキ旨ヲ分任收支命令官ニ達ス

第七十七條 分任收支命令官ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ其仕拂ヲ會計主務官又ハ其代理官ニ命ス

第七十八條 會計主務官又ハ其代理官ハ順序第七十六條若クハ第七十七條ノ命令ヲ受ルトキハ第七十一條ノ手續キヲナス

第七十九條 年金ノ交付主管廳ハ出願期限後ニ年金受領者ノ奉職地ヲ轉シタルカ爲メ主管廳轉換願ヲ聞届ケタルトキハ其姓名新任地并ニ交付スヘキ金額ヲ詳記シ之ヲ大藏省及新主管廳ヘ報告ス

第八十條 大藏省ハ前條ノ報告ニヨリ新主管廳ニ該年金交付ノ令達ヲナス

第八十一條 新主管廳ハ前條ノ令達ヲ受ルトキハ第六十九條第七十條第七十一條ノ手續キヲナス

第八十二條 本章各條ニ歷舉スルモノ、外ハ第十條ヨリ第十九條マテ第三十一條ヨリ第三十五條マテ及第三十七條第三十八條ノ手續ニ據ル

第五章 金庫 大藏省金庫局其出

第五節 張所現金仕拂所

第八十三條 金庫ハ仕拂切符ノ所有者ヨリ仕拂切符ヲ持參シテ現金ノ仕拂ヲ請求セテレタルトキハ即時之ヲ彙ニ其發行廳ヨリ送付ヲ受ケタル案内書ニ照合シ記帳ノ後直ニ仕

收税

拂切符表面ノ金額ヲ交付ス

第八十四條 金庫ハ前條ノ仕拂ヲ終ルトキハ即時引上タル仕拂切符及案内書ノ表面ニ仕拂濟ノ印ヲ捺ス

第八十五條 金庫ニ於テ仕拂金ノ記帳ヲナスハ仕拂切符ニヨリ其所屬年度及科目ハ案内書ニ據テ判別ス

第八十六條 金庫ハ會計主務官又ハ其代理官ヨリ仕拂ノ案内書ヲ受ルトキ豫テ大藏省ヨリ命介セラレタル金額ニ超過スルトキハ即時其案内書ヲ返付シテ仕拂難キ旨ヲ通知ス

第八十七條 金庫ハ仕拂期限ヲ經過シタル仕拂切符ヲ以テ現金ノ仕拂ヲ請求セラルトキハ其仕拂ヲ謝絶シ仕拂切符ノ交換ヲ請求スヘキ旨ヲ該切符持參人ニ告グ

第八十八條 金庫ニ於テ仕拂ノ請求ヲ受クルトキハ規則第四十九條ニヨリ仕拂ヲナシ難シト見認ルトキハ該切符持參人ニ事由ヲ告ケ其住所姓名ヲ尋問シ該切符ノ金員番號記名者ノ姓名及ヒ預リ日限ヲ記載シタル預リ證書ヲ交付シテ其仕拂切符ヲ留置ス

第八十九條 金庫ハ前條ノ手續キニヨリ仕拂切符ノ留置ヲナストキハ即時其事由ヲ詳記シタル照會書ヲ該仕拂切符ト記名ノ會計主務官又ハ其代理官ヘ發ス

第九十條 金庫ハ前條照會ニヨリ會計主務官又ハ其代理官ヨリ該切符ノ正當ナルヲ保證シ仕拂ヲ請求セラレタルトキハ直ニ之カ仕拂ヲナシ若シ該切符ヲ其持參人ニ返付センコトヲ請求セラレタルトキハ前日交付シタル預リ證書ニ引換ヘ之ヲ還付ス

第九十一條 仕拂切符ノ仕拂期限ヲ經過シテ尙仕拂ノ請求ナキトキハ金庫ハ豫テ受入レタル案内書ヲ一ヶ月三回ニ取纏メ其送付シタル應ヘ還付ス但會計主務官又ハ其代理官ノ請求アルトキハ其都度案内書ヲ還付ス

第九十二條 金庫ハ既ニ支拂フタル現金ノ返納ヲ受クルトキハ返納告知書ニ接續シタル返納書用紙ニ第十六號書式ノ如ク領收金額年月日等ヲ記入シ記名捺印シ返納告知書ト接續ノ處ヘ割印シ之ヲ切斷シテ返納告知書ハ返納人ヘ交付ス二十年二月省令

第九十三條 金庫ハ前條ノ手續ヲナシタル後正副返納書ニ書式ノ如ク納濟ノ年月日ヲ記入シ金庫ノ印ヲ捺シ正書ニハ納濟年月日ノ傍ニ取扱主任者ノ印ヲ捺シ正副書接續ノ所ヘ割印シテ之ヲ切斷シ正書ニ依リテ帳簿ニ記入シ副書ハ即日告知書ヲ發シタル應ヘ送付ス(同)

○支拂切符再發行手續明治十九年九月大藏省令第十四号
明治十九年閣令第三号歳入歳出納規則ニ依リ發行セル支拂切符ヲ失フタルトキ其再發行手續左之通定ス

第一條 支拂切符ヲ失フタルトキハ右切符所有者ヨリ直ニ其旨ヲ切符面ニ指定ノ金庫並ニ該切符ヲ振出シタル官廳ニ届出スヘシ

本條ノ届出入ハ其届出ニ對スル承諾証書ヲ金庫ヨリ受取ルヘシ
第二條 前條ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 支拂切符ノ番號

收稅

一切符面ノ金額
 一切符面ニ指定ノ金庫
 一 受取人ノ氏名
 一 振出シタル官廳ノ名稱及會計主務官氏名
 一 振出ノ日附
 一 切符ヲ失フタル場所並日附
 但シ明瞭ナラサルトキハ其旨ヲ記スヘシ

第三條 金庫ニ於テ第一條ノ届出ノ切符ニ對シ既ニ現金支拂濟ナルトキハ其旨ヲ届出人ニ告ケ届出書ヲ返付シ切符發行ノ當該廳ヘ通知スヘシ

第四條 金庫ニ於テ第一條ノ届出アリタル後チ該切符ヲ持參シ支拂ヲ請求スル者アルトキハ右切符ニ付テハ仕拂故障ノ届出フル旨ヲ持參人ニ告ケ該切符ヲ留置キ預リ証書ヲ持參人ニ交付スヘシ

右切符預リ証書面ニハ第一條ノ届出人ノ住所姓名ヲ記入スヘシ

金庫ニ於テハ切符持參人ノ族籍住所姓名年齢ヲ帳簿ニ記シ置キ同時ニ之ヲ第一條ノ届出人ニ通知スヘシ

第五條 第一條ノ届出アリタル切符ハ届出人若クハ其代理者自ラ切符ヲ持參シ第一條第二項ノ承諾証書ヲ返納スルニ非レハ金庫ニ於テ支拂ヲナスヘカラス

第四條ノ第一項ニヨリ留置キタル切符ハ該切符持參人ト第一條ノ届出人ト連署ノ支

拂請求書ヲ差出スニ非レハ金庫ニ於テ支拂ヲ爲スヘカラス

第六條 第四條ノ切符持參人失踪シタルトキ若クハ住所姓名ヲ詐稱シタルトキハ直ニ第一條ノ届出人ヨリ其事ヲ金庫ニ證明スヘシ然ルトキハ金庫ニ於テハ事實調査ノ上切符面ノ金額ハ右届出人ニ支拂フヘシ

第七條 金庫ニ於テ第一條第二項ノ承諾証書ヲ發シタル後チ第五條ニ反シテ切符ノ支拂ヲ爲シタルトキハ切符面ノ金額ハ金庫ヨリ第一條ノ届出人ニ辨償スヘシ

第八條 第一條ノ届出アリタル支拂切符振出シノ日付ヨリ起算シ九十日ヲ過ルモ尙失フタル切符ヲ發見セサルトキハ届出人ヨリ切符再發行ノ請求書ヲ振出シタル官廳ニ差出スヘシ然ルトキハ該官廳ハ歳入歳出出納規則第四十八條ニヨリ更ニ支拂切符ヲ發シテ之ヲ交付スルモノトス

第九條 第一條ノ届出ヲ爲ストキハ失フタル仕拂切符振出シノ日付ヨリ既ニ九十日ヲ經過シタルモノナレハ同時ニ前條ノ手續ヲ爲シ切符ノ再交付ヲ受クヘシ

第十條 支拂切符ノ再發行ヲ請求スル者ト最初該切符ノ拂出ヲ受ケタル本人ト別人ナルトキハ第八條ノ請求書ニハ右兩人連署スヘシ

第十一條 本令ノ手續ニ從ヒ支拂切符ヲ再發シタルトキハ最初ノ支拂切符ハ全ク無効ノモノトス

●地所名稱區別 明治七年十一月
 明治六年三月 第三百十四號布告地所名稱區別左ノ通改定候條此旨布告候事

收稅

官有地

- 第一種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス 十二年第三十
四號布告改正
- 一 皇宮地 皇居離宮等ヲ云
- 一 神地 伊勢神宮山陵官國幣社府縣社
及ヒ民有ニアラサル社地ヲ云
- 第二種 地券ヲ發シ地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス尤府縣所用ノ地ハ地券ヲ
發セス唯帳簿ニ記入ス 八年第三百十四號布告及十
二 年第三十四號布告改正
但此地ニ在ル官舎ヲ貸渡ス時ハ借地料ヲ賦スヘシ
- 一 皇族賜邸 官院省使府藩縣(本支)廳裁判所警視廳海陸軍
(本分)營其他政府ノ許可ヲ得タル所用地ヲ云
- 第三種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス 十二年第三十
四號布告改正
但人民ノ願ニヨリ右地所ヲ貸渡ス時ハ其間借地料ヲ納メシムヘシ
- 一 山岳丘陵林藪原野河海湖沼池澤溝渠堤塘道路田畑屋敷等其他民有地ニアラサル
者
- 一 鐵道線路敷地
- 一 電信架線柱敷地
- 一 燈明臺敷地
- 一 各所ノ舊跡名區及公園等民有ニアラサルモノ
- 一 人民所有ノ權理ヲ失セシ土地

民有地

- 一 民有地ニアラサル堂宇敷地及ヒ墳墓地
- 一 行刑場
- 第四種 地券ヲ發セス地租ヲ課セス地方稅ヲ賦セサルヲ法トス 十二年第三十
四號布告改正
- 一 寺院大中小學校説教場病院貧院等民有地ニアラサルモノ
- 第一種 地券ヲ發シ地租ヲ課シ地方稅ヲ賦スルヲ法トス
- 一 人民各自所有ノ確證アル耕宅地山林等ヲ云フ
但此地賣買ハ人民各自ノ自由ニ任スト雖トモ潰地開墾等ノ如キ大ニ地形ヲ變
換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス
- 一 人民數人或ハ一村或ハ數村所有ノ確證アル學校病院鄉倉牧場秣場社寺官有地ニ
アラサル土地ヲ云 九年第八十八
號布告改正
但此地賣買ハ其所有者一般ノ自由ニ任スト雖トモ潰地或ハ開墾等ノ如キ大ニ
地形ヲ變換スルハ官ノ許可ヲ乞フヲ法トス
- 第二種 地券ヲ發シテ地租地方稅ヲ賦セサルヲ法トス 九年第八十八
號布告改正
- 一 官有ニアラサル鄉村社地及墳墓地等ヲ云 八年第三百十四
號布告改正
- 一 民有ノ用惡水路溜池敷堤敷及井溝敷地 八年第五百五十
四號布告追加
- 一 公衆ノ用ニ供スル道路 十三年第四十
三號布告追加

收稅

但地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

●地租條例 明治十七年三月第七號布告

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年(七月)第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スルモノハ廢止ス(但東京府管轄伊豆七島小笠原嶼函館縣沖繩縣札幌縣根室縣當分從前ノ通ナルヘシ)

地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二箇半ヲ以テ一年ノ定率トス但本條例ニ地價ト稱スルハ地券ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豊凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ヲ區別シテ二類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地、

第二類 池沼、山林、原野、雜種地(第一類中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目

變換ト謂フ第二類地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地ト爲スモノヲ開墾ト謂フ第一類地又ハ第

二類地ノ山崩、川欠、押堀、石砂入、川成、海成、湖水成、等ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變

シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、堤塘、井溝、及公衆ノ用ニ供スル

道路ハ地租ヲ免ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方一間ヲ以テ歩ト爲シ三十歩ヲ畝ト爲

シ十畝ヲ段ト爲シ十段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ十分一ヲ合ト爲シ合ノ十分一ヲ勺ト爲ス

第六條 開墾墾下至期時荒地免租年期明ニテ地價ヲ定ムルキ又ハ地目變換スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ地目變換又ハ開墾ニ非サレハ修正セス

第八條 一般ニ地價ノ改正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ認定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定

第十條 地目ヲ變換スルキハ之ヲ地方廳ニ届出ツヘシ地價ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ修正

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地價ハ其地ノ現

況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ地券記名者ヨリ徴収ス但賃入ノ土地ハ其賃取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社寺、墳墓地ト爲スルキ其地租ハ許可ヲ得シ月分ヨリ

月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキ其地

租ハ其地工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス免租地ヲ有租地ト爲ストキ其地租ハ

許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徴収ス

第十四條 地目變換ハ其地價修正ノ年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徴収ス

收稅

但市街宅地租ノ儀ハ該年七月翌年一月兩期ニ共五歩宛チ收納スヘシ但舊十五年第二十四號布告改正

一期	該年七月一日ヨリ	畑方及宅地山林原野牧場	五分
二期	該年八月三十日限	同	五分
三期	該年九月三十日限	同	五分
四期	該年十月三十一日限	同	五分
五期	該年十一月一日ヨリ	田方	二分五厘
六期	該年十二月十五日限	田方	二分五厘
七期	該年十二月十六日ヨリ	田方	二分五厘
八期	該年一月二十五日限	田方	二分五厘
九期	該年一月廿六日ヨリ	同	二分五厘
十期	該年三月三十一日限	同	二分五厘
十一期	該年四月一日ヨリ	同	二分五厘
十二期	該年四月二十日限	同	二分五厘

●地租金ノ内田方代米納テ許ス 明治十年十一月

地租金ノ内田方ニ限リ當分人民ノ情願ニ任セ半額其府縣ノ地租改正ニ用ヒタル相場ヲ以テ代米納差許候條此旨布告候事

●地券下附書換手續及手数料徴收方 明治二十年一月
 法律第一號登記法第三十九條ニ基キ地券下附書換手續及ヒ手数料左ノ通相定ム

第一條 地券下附書換ニ係ル事務ハ郡區役所ニ於テ之ヲ取扱フヘシ

第二條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者ヨリ地券下附又ハ地券書換ヲ郡區役所ニ願出ツヘシ土地所有ノ移轉荒地免租年期明開墾鐵下年期明地自變換免租地ノ有租地成有租地ノ

免租地成荒地免租開墾合併分裂地券ノ水火盜難ニ罹リタルモノ

地券面ノ反別地價地租ニ異動ヲ生シタルモノ
 所有者姓名ノ變更シタルモノ
 郡區長ハ前項ノ願書ヲ受ケタルトキハ遅クモ五日以内ニ地券ノ下附又ハ書換ヲ爲スヘシ

第三條 地券ノ下附又ハ書換ヲ願フモノハ願書ニ戸長ノ與印ヲ受クヘシ
 但登記法ニ據リ登記ヲ經タルモノハ登記簿ノ證書ヲ戸長ニ示スヘシ

第四條 戸長役場ナキ地方ニ於テハ地券ノ下附又ハ書換願書ヲ直ニ區役所ニ差出スヘシ
 但登記簿ニ係ルモノハ其證書ヲ區長ニ示スヘシ

第五條 地券ノ下附又ハ書換ヲ願フモノハ手数料トシテ金三錢ヲ納ムヘシ

第六條 手数料ハ戸長役場ニ於テ願書ニ與印爲ストキ之ヲ徴收スヘシ
 但第四條ノ場合ニ於テハ區役所ニ於テ願書ヲ受クルトキ之ヲ徴收スヘシ

第七條 地券手数料徴收官(區役所會計主務書記若クハ戸長)ハ其徴收シタル手数料ヲ十日毎ニ取纏メ納付書ヲ添テ所在地ノ金庫(國庫金取扱所現金仕拂所)ヘ送付スヘシ
 但金庫ナキ地方ニ於テハ毎月一回取纏メ納付書ヲ添テ便宜ノ金庫ヘ送付スヘシ

第八條 前項納付書ハ歳入出納規則書式第五號ニ據ル

第九條 戸長ニ於テ第七條ノ手續ヲ爲シタルトキハ金庫ノ領收ヲ証シタル納付書ニ納入ノ明細内譯書ヲ添テ之ヲ郡區役所ニ送付スヘシ

收稅

第十條 第二條ノ場合ニ於テハ所有ノ移轉及ハ指令願屆濟ノ日ヨリ六十日以内ニ地券下
附又ハ地券書換テ願出ヘシ若シ其期限ヲ經過スルトキハ金一圓九十五錢以下ノ料料ニ
處ス

○地券下附書換手数料納付書取扱方 明治二十年二月大 藏省訓令第十號

本年省令第一號第九條ニ據リ郡區長ニ領収シタル地券下附書換手数料ノ納付書ハ歲入取
扱順序第五十六條ニ據リ取扱フヘシ

所得稅法 明治二十年三月 勅令第五號

第一條 凡ソ人民ノ資産又ハ營業其他ヨリ生スル所得金高一箇年三百圓以上アル者ハ此
稅法ニ依テ所得稅ヲ納ムヘシ

但全居ノ家族ニ屬スル者ハ總テ戶主ノ所得ニ合算スルモノトス

第二條 所得ハ左ノ定則ニ據テ算出スヘシ

第一 公債証書其他政府ヨリ發シ若クハ政府ノ特許ヲ得テ發スル證券ノ利子、營業ニ
アラサル貸金預金ノ利子株式ノ利益配當金官私ヨリ受クル俸給手當金年金恩給金及
制賦賞與金ハ直ニ其金額ヲ以テ所得トス

第二 第一項ヲ除クノ外資産又ハ營業其他ヨリ生スルモノハ其種類ニ應シ收入金高若
クハ收入物品代價中ヨリ國稅地方稅區町村費備荒儲蓄金製造品ノ原質物代價販賣品
ノ原價種代肥料營利事業ニ屬スル場所物件ノ借入料修繕料雇人給料負債ノ利子及雜
費ヲ除キタルモノヲ以テ所得トス

第三 第二項ノ所得ハ前三ケ年間所得平均高ヲ以テ算出スヘシ

但所得收入以來未三年ニ滿タサルモノハ月額平均其平均ヲ得難キモノハ他ニ比準テ
取リテ算出スヘシ

第三條 左ニ掲グルモノハ所得稅ヲ課セズ

第一 軍人從軍中ニ係ル俸給

第二 官私ヨリ受クル旅費傷痍疾病者ノ恩給及孤兒寡婦ノ扶助料

第三 營利ノ事業ニ關セサル一時ノ所得

第四條 所得稅ノ等級及稅率左ノ如シ

等級

- 第一等 所得金高三萬圓以上 百分ノ三
- 第二等 所得金高貳萬圓以上 百分ノ貳半
- 第三等 所得金高壹萬圓以上 百分ノ二
- 第四等 所得金高千圓以上 百分ノ壹半
- 第五等 所得金高三百圓以上 百分ノ一

但所得金高ハ圓位未滿ノ端數ヲ算出ス

第五條 所得稅ハ前半年分ヲ其年九月ニ後半年分ヲ翌年三月ニ納ムヘシ

第六條 此稅法ニ依リ稅金ヲ納ムヘキ所得アルモノハ其年所得ノ豫算金高及種類ヲ記シ
毎年四月三十日以前住居地長ヲ經テ郡區長ニ届出シ

第七條 各郡區役所管轄内ニ七名以下ノ所得稅調查委員ヲ置キ毎年調查委員會ヲ開キ所得稅ニ關スル調査ヲナシム

調査委員定數ノ外五名以下ノ補欠員ヲ置キ欠員ノ補充ニ備フヘシ

第八條 調査委員ハ其郡區内ノ選舉ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 調査委員ノ選舉人ハ二十五歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ現住シ所得稅ヲ納ムル者ニ限ル

但府縣會規則第十三條第一款第二款第三款第四款ニ觸ル、者ハ被選舉人タルコトヲ得ス同條第一款第二款第三款ニ觸ル、者ハ選舉人タル事ヲ得ス

第十條 郡區長ハ各町村内ニ五名ヨリ多カラサル町村選舉人ノ員數ヲ定メ其町村人民中

第九條ノ資格ヲ有スル者ヲシテ互撰セシム

但便宜ニヨリ數町村ヲ合シテ五名ヨリ多カラサル選舉人ヲ定ムルコトヲ得

第十一條 調査委員ノ任期ハ滿四ヶ年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改選ス

但一回ノ改撰ハ抽籤ヲ以テ其退任者ヲ定ム

第十二條 調査委員ノ手當旅費其他調査ニ關スル費用ハ國庫ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 郡區長ハ第六條ノ屆書ニ據リ所得金高下調査ヲ製シ其屆書ト共ニ調査委員會ニ付スヘシ

第十四條 郡區長ハ納稅者ト認ムルモノニシテ第六條ノ期限ヲ過キテ其届出ヲナサ、ル者アルトキハ所得金高ノ見積ヲ立テ、之ヲ調査委員會ニ付スヘシ

第十五條 調査委員會ハ郡區長ノ招集ニ由リ之ヲ開ク調査委員會ノ會長ハ郡區長ヲ以テ之ニ充ツ郡區長欠席スルトキハ會員ノ互選ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 調査委員會ハ會員過半數出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス會議ハ出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ可否スル所ニ依ル

但自己ノ所得ニ關スルトキハ其會議ニ與カルコトヲ得ス

第十七條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ據リ各納稅者ノ所得稅等級金額ヲ定メ之ヲ納稅者ニ達スヘシ

第十八條 郡區長ハ調査委員會ノ決議ニ關シ意見アルトキハ府縣知事ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 納稅者ニ於テ所得稅ノ等級金額ヲ不當トスルトキハ其違ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ所得金高明細書及其證據トナルヘキモノヲ添ヘ府縣知事ニ申出ツルコトヲ得

但此場合ニ於ケルモ其税金ハ達ヲ受ケタル金額ニ從テ之ヲ納ムヘシ

第二十條 府縣知事ハ第十八條第十九條ノ場合ニ於テハ府縣常置委員會ニ付シテ調査セシメ其決議ニ據リテ之ヲ處分スヘシ

但其處分納稅後ニ涉ルトキハ稅額ノ不足アルモノハ之ヲ追徴シ過剩アルモノハ之ヲ

收稅

八三七

還付スヘシ

第二十一條 調査委員會又ハ常置委員會ハ此税法ニ關シ調査上必要ト認ムルトキハ納稅者ニ尋問スルコトヲ得

第二十二條 調査委員其他所得稅ノ調査ニ關スル者ハ納稅者ノ資産及ヒ所得ニ係ル事件ヲ他ニ漏洩スヘカラス

第二十三條 納稅者其納期前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シタルトキハ郡區長ニ申出ツルコトヲ得郡區長ハ事實ヲ審査シテ其稅額ヲ減シ所得金高一箇年三百圓ヲ下ルモノハ之ヲ免稅スヘシ

但既納ノ税金ハ之ヲ還付セス

第二十四條 所得金高ヲ隱蔽シテ逃稅シタル者ハ其逃稅金高三倍ノ罰金ニ處ス

但自首スル者ハ其税金ヲ追徵シ其罪ヲ問ハス

第二十五條 第二十二條ヲ犯シタルモノハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 第六條ノ届出チ爲サ、ルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十七條 此税法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒ

第二十八條 此税法施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十九條 此税法ハ明治二十年七月一日ヨリ施行ス

但北海道沖繩縣及東京府管轄小笠原島伊豆七嶋ニ於テハ官府ヨリ受クル俸給手當金

及恩給金ノ外ハ當分ノ内之ヲ施行セス

○所得税法施行細則 明治二十年五月 大藏省令第八號

第一條 戶主ニ所得ナクシテ同居ノ家族ノミニ所得アル場合ニ於テモ一家内ニ屬スルモノハ總テ合算ノ上其戶主ノ名ヲ以テ届出納稅スヘキモノトス

第二條 税法第二條第三項ニ據リ所得ヲ算出スルモノハ其年所得ヲ生スヘキ現在ノ資産又ハ現在ノ業務ニ應シ前三年平均若クハ月額平均ノ歩合ニ依リ又ハ他ノ比準ニ依ルヘキモノトス

第三條 物品ニテ收入スル所得ハ其相當價格ヲ以テ代金ヲ算出スヘシ

第四條 税法第六條ノ届書ハ別紙第一號書式ニ依ルヘシ

第五條 左ニ掲クルモノハ一定ノ地ニ其納稅管理人ヲ定メ戶長ヲ經テ郡區長ニ届出此税法施行ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシムヘシ

一 此法ヲ施行セサル地ニ住居シ本法施行ノ地ニ於テ生スル所得金一箇年三百圓以上ヲ收入スル者

一 内外國ニ旅行シ又ハ外國若クハ此税法ヲ施行セサル地ニ寄留スル納稅者

第六條 一人ニシテ數箇所ニ於テ所得ヲ收入スルモノハ其居住地ノ郡區長ニ届出チ爲ス

ト同時ニ別紙第二號書式ニ依リ其所得ヲ收入スル各地ノ郡區長ニ届出ヘシ

收稅

第八條 納稅者他ノ郡區役所轄内ニ轉居セントスルトキ及轉居シタルトキハ各其地ノ戸長ヲ經テ郡區長ニ届出ヘシ

第九條 郡區長第八條ノ他ニ轉居セントスル者ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ轉居者ノ所得稅ニ係ル一切ノ事項ヲ其轉居先ノ郡區長ニ通報スヘシ

第十條 郡區長ハ所轄内ニ於テ納稅者ト認ムルモノ、所得ニ關シ調査上必要ナル場合ニ於テハ各地方ノ會社若クハ一箇人ニ對シ其事項ノ問合ヲ爲スコトヲ得

第十一條 郡區長ハ調査委員撰擧ノ爲メ稅法第六條ノ届出ニ依リ毎年五月納稅者ノ住所姓名ヲ其管内ニ公告スヘシ

第十二條 調査委員會及調査委員撰擧ニ關スル細則ハ府縣知事之ヲ定ム

第十三條 調査委員ヲ辭スルコトヲ得ル者ハ郡區長ニ於テ已ムヲ得スト思料スル事項アルモノニ限ル

第十四條 調査委員會ノ決議書ハ會長及委員二名以上之ニ署名スヘシ

第十五條 所得稅ノ等級金額ハ別紙第三號書式ニ依リ毎年八月十日マテニ之ヲ達スヘシ

第十六條 區長ニ於テ直ニ戸長ノ事務ヲ行フ區内ニ在テハ府縣知事ノ見込ヲ以テ大藏大臣ノ認可ヲ受ケ一區内ヲ數部ニ劃シ每部ニ五名以下ノ臨時取調掛ヲ置キ區長ノ指揮ニ從ヒ所得稅調査ニ關スル下調ヲ爲サシムルコトヲ得

第十七條 稅法第二十九條但書ノ所得ニ關スル等級金額ハ北海道廳長官東京府知事沖繩縣知事之ヲ査定スヘシ

第十八條 調査委員招集ニ應セサルカ又ハ會員過半數出席セス若クハ其他ノ事故ニ依リ第十五條ノ等級金額達期限マテニ調査ヲ了セサルトキハ郡區長ニ於テ等級金額ノ意見ヲ付シ府縣知事ニ差出シ府縣知事ハ之ヲ大藏大臣ニ具上シテ指揮ヲ請フヘシ

第十九條 第五條ニ違ヒ又ハ第六條第八條ノ届出ヲ怠リタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
(書式略之)

酒造稅則 明治十三年九月

今般酒造稅則別冊ノ通相定メ本年十月一日ヨリ施行シ從前ノ酒類稅則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

酒造稅則

第一章 免許鑑札稅率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨官廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

一類 釀造酒 清酒 濁酒 其他釀造酒
シタルモノヲ云フ

二類 蒸溜酒 燒酎 酒精 再溜酒精 十五年第十七號布告酒精
其他蒸溜シタル者ヲ云 再溜酒精ノ六字加入

三類 再製酒 銘酒 味淋 白酒等 釀造再溜ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタル者ヲ云

收稅

第三條 免許ヲ受ケタルモノハ免許税及造石税ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ
十五年第六十一號布告改正但書

第三條ハ十六年十月一日ヨリ施行ス
酒造免許税

酒造場一箇所ニ付

金三十圓

酒類造石税

一類 一石ニ付

金四圓

二類 一石ニ付

金五圓

三類 一石ニ付

金六圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス酒類製造新規願ノ者
ハ造石高左ノ制限以上ニアラサレハ免許セス
十五年第六十一號布告追加

清酒

百石

濁酒

拾石

一類(清酒濁酒)

五石

二類(清酒濁酒)

新ニ酒造營業ヲナサントスル者ハ其地方同業者五人以上ノ連印ヲ以テ願出ヘシ

第五條 酒造營業人不在又ハ事故アル時ハ代人ヲ置キ此規則ニ關スル諸般ノ事ヲ辨セシ
ムヘシ
十五年第六十一號布告追加

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ双方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシトキハ其旨管廳ニ願出再渡又

ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ
十五年第十七號布告改正

第九條 造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ
號布告改正

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ二月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第二期 七月三十一日限

三月一日ヨリ六月中検査済石數ニ係ル税額ノ半數

第三期 十月三十一日限
十九年十二月勅令
第七十九號改正

七月一日ヨリ皆造検査済石數ニ係ル税額等前納額ノ殘數

第十條 造酒ノ石數ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

廢業ノ際未製成ノ酒類ヲ所持スル者ハ其節管廳ヘ申出検査ヲ受ケ現石數ニ付納税スヘシ

但未製成ノ酒類ヲ營業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上免許ノ者其一箇所以上ヲ廢シ尙存

セル酒造場ヘ其酒類ヲ移ス時ハ管廳ヘ届出且製成ノ上検査ヲ受クヘシ
十五年十二月
第六十一號布告追加

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ

收税

其造石税ヲ納ムヘシ

- 第十三條 検査未済ノ酒類へ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税ハ總石數ヲ以テ之ヲ納ムヘシ
- 第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製スル者第一章第二條中一類ノ酒ヲ二類ノ酒ニ變製シタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ
- 第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石數ニ係ル造石税ヲ納ム更ニ變製ノ石數ニ付テ造石税ヲ納ムヘシ
- 但變製ノ節ハ必ス管廳へ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ
- 第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳へ申出検査ヲ受クヘシ
- 第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石數ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ其製成スルチ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ヲ免除ス
- 第十八條 葡萄酒及麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖トモ造石税ハ之ヲ免除ス
- 第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキコ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒もト其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ
- 第二十條 酒造諸用器械ハ使用以前管廳へ申出検査ヲ受ケ其賣買讓與貸借ハ其時々管廳

へ届出ツヘシ 十六年八月第二十六號布告改正

造酒着手後造石税完納以前ニ於テハ管廳ノ許可ヲ得スシテ諸器械ヲ酒造場外へ移スコトヲ許サス

酒造用諸器械ヲ賣與讓與貸與及所持主へ返却スルトキハ第九條ノ納期ニ拘ハラヌ検査済ニ係ル造石税ヲ完納スヘシ

第三章 禁令 雜令

- 第二十一條 酢及ヒ酒もトヲ販賣スルヲ許サス但事故アリテ酒もトノ不用ニ屬シタル者ヲ同業ノ者ニ限リ賣渡スハ此限ニアラス 但書十五年三月第十七號布告追加
- 第二十二條 他ノ依託ヲ受ケテ酒類ヲ代造シ又ハ酒造營業人ニ非ル者ニ酢及ヒ酒類ヲ製造スル爲メ酒造場ヲ貸スヲ許サス 十五年十二月第六十一號布告改正
- 第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ賣捌キ貸與讓與若クハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス 十五年十二月第六十一號布告改正
- 検査済酒類ノ酒類へ検査未済ノ酒類ヲ混和スルヲ許サス
- 第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス
- 第二十五條 造酒搾り器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フヘシ
- 但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳へ届出再封ヲ請フヘシ
- 第二十六條 免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目石數並ニ其造り方法

共届出ヘシ

但種目變換並見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋並ニ諸器械共豫テ管轄ヘ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載シ之ヲ戸外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケスシテ製造シクル者ハ其酒類及ヒ製造諸器械トモ沒收シ免許額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣捌キタル者ハ其石數ニ相當ナル造石稅三倍ノ金額ヲ併七科スヘシ

但本文酒類并ニ諸器械ヲ己ニ賣捌キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分シ之レヲ貸與ヘタルモノハ其鑑札取揚ケ免許稅相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 酒類石數ノ檢査ヲ受ケスシテ之ヲ賣捌キ又ハ貸與讓與シタル者ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但第二十一條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第三十二條 酒類ヲ隱蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石稅三倍ノ金額ヲ科スヘシ

十五年三月第六十一號布告改正
十五年第十七號布告但書刪除

第三十三條 檢査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石稅ニ相當ナル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 第十四條ノ届出ヲ怠リタル者第五條第七條第二十八條ヲ犯シタル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十五條 第六條第二十五條第二十六條第二十七條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 第十條第二項第廿一條第廿二條第廿三條第二項ヲ犯シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ其製造酒類ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十七條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪併發ノ例ヲ用ヒス

但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第三十八條 酒造營業者ノ家族備人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

酒造稅則附則 十九年七月勅令第六十號改正

第一條 自家用料ノ酒類飲料ニ用ヒ醬油ニ混和シテ製造セント欲スル者ハ其旨管廳ヘ届

收稅

八四七

出免許鑑札ヲ受ケ鑑札料金八拾錢ヲ納ムヘシ

第二條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日マテテ以テ一期トス

第三條 自家用料ノ清酒ヲ製造スルヲ得ス

第四條 左ニ掲クル者ハ自家用料ノ酒類ヲ製造スルヲ得ス

一 酒類受卸小賣營業者

一 飲食店又ハ旅館屋營業者

一 前二項ノ營業者ト同居ノ者

第五條 自家用料ノ酒類ハ一家内ニ於テ一期製造高壹石二匁以上製造スル者ハ其總石數ヲ合算スヲ超ユルヲ

得ス

第六條 自家用料ノ酒類ハ其住居セル一家外ニ於テ之ヲ製造シ又ハ他ノ委託ヲ受ケ之ヲ

製造スルヲ得ス

第七條 自家用料ノ爲メ製造スル酒類ハ之ヲ賣捌シテ得ス

第八條 免許鑑札ハ賣買讓與貸借スルヲ得ス

第九條 自家用料ノ酒類ヲ製造スル者ハ主任官隨時之ヲ検査スヘシ

第十條 第一條第三條第四條第五條第六條第七條ヲ犯シタル者ハ三匁以上三拾匁以下ノ

罰金ニ處シ仍ホ其製造酒類及容器ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徴ス

第十一條 第八條ニ違ヒ鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡シタル者ハ其鑑札ヲ取揚ケ貳匁以上貳拾匁

以下ノ罰金ニ處シ之ヲ借受買受讓受ケテ酒類ヲ製造シタル者ハ第十條ニ依リ處分ス其

未メ酒類ヲ製造セサル者ハ其罰鑑札ヲ貸渡賣渡讓渡シタル者ニ同シ

第十二條 此規則ヲ犯シタル者ニハ本則第三十七條及ヒ第三十八條ヲ適用ス

○酒造免許ヲ受ケ口實ヲ設制限石高ヨリ減却セシモノ翌期營業免許

ヲ與ヘス明治十六年十月大藏省第六十九號達

酒造稅則第四條第二項ニ據リ酒類製造免許ヲ受タル後非常ノ災害ニ罹リ酒類製造元米諸

器械等ヲ減損スルノ類ニシテ實際止ヲ得サルノ事故アルモノヲ除クノ外徒ラニ種々ノ口

實ヲ設ケ制限石高ヨリ減却セシモノハ翌期營業ノ免許ヲ與ヘサル儀モ可有之候條詳細其

事由ヲ具シ見込相立テ稟議スヘシ此旨相達候事

○自家用料酒類製造者心得明治十九年八月大藏省令第二十七號

勅令第六十號ニ基キ自家用料酒類製造者心得左ノ通之ヲ定ム

第一項 酒造稅則附則第一條ノ屆書ニハ該期造酒ノ種目及ヒ製造見込石高ヲ記シテ差出

ヘシ

第二項 前項届出ノ後造酒種目ノ變換及ヒ製造高ヲ増減スルトキハ其時々管廳へ届出ヘ

シ

第三項 免許鑑札ヲ受ケタル者ハ自家用料酒製造ノ標札ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四項 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ改名代替轉居セシトキハ其旨管廳ニ届出再渡又

ハ書換ヲ請フヘシ

第五項 第一項免許届書式第三項標札書式ハ府縣知事ノ定ムル所ニ據ル

收稅

第六項 第二項第三項第四項ヲ犯シタル者ハ壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●**酢元用ニ供スル酒類製造規則** 明治十六年十二月

酢造營業者酢元ニ供スル爲メ酒類ヲ製造スル者ハ酒造稅則中第三條免稅稅第四條第二項

第三項ヲ除クノ外該稅則ニ準據スヘシ

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酒類ヲ販賣シ又ハ檢査未済ノ酒類ヲ以テ酢ヲ製造スルヲ

許サス犯ス者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ現在ノ酒類及ヒ酢ヲ沒收ス其已ニ賣捌

キタル者ハ代價ヲ追徵ス

第一項ニ從ヒ酒類ヲ製造スル者酢製成ノ上ハ管轄廳ニ届出ヘシ違フ者ハ壹圓以上壹圓九

拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●**酒造其他ノ稅則ニ關シ犯則証憑取調處分方** 明治十六年十二月

酒造稅則管轄營業稅則賣藥印紙稅則煙草稅則ニ關シ租稅官吏ニ於テ犯則アリト認知シ若

クハ思料スルトキハ其場所ニ立入り犯則ノ証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但官吏ハ主

任タルノ証票ヲ携帶スヘシ

○**同證憑取調立會方** 明治十六年十二月

本年第四十三號布告ニ依リ人民ノ家宅内ニ立入り証憑取調ノ處分ヲ爲スハ日出後日没前

ニ於テシ其地戶長若クハ同掛隣佑ノ内ヲシテ立會ハシメ候様取計フヘシ此旨相達候事

●**管轄營業稅則** 明治十三年九月

管轄營業稅則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

管轄營業稅則

第一章 免許鑑札 營業稅

第一條 凡ソ管轄 釀造酒類 ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇

所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業稅トシテ左ノ額納ムヘシ

管轄營業稅 金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受ケルモ營業稅ハ直ニ管廳ヘ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ヘ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數並ニ講求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナク帳簿ニ記載シ置キ

翌年十月中管廳ヘ差出シ檢査ヲ受ケヘシ

管轄及ヒ仕込米諸帳簿倉庫納屋等主任官隨時之ヲ檢査スヘシ 第二項ハ十五年十二月

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ双方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ 第六十二號布告追加

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ

請フヘシ

第八條 免許ヲ受ケタル者ハ管轄賣捌所ト書シタル標札ヘ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶外

ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第十條 免許鑑札ヲ受ケテ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵スヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ怠ルカ其他本則ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラズ五拾圓ヨリ多カラサル金額ヲ徵スヘシ

第十二條 醬麴營業場ノ中ニ於テ酒類受賣醬麴受賣酢造營業ヲ爲シ又ハ酒類(醬麴ヲ除ク)ヲ製造スルヲ許サズ 十二條以下ハ十五年十二月第六十二號布告追加

第十三條 第十二條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ犯罪ニ係ル物品及器械ヲ沒收ス之ヲ賣捌キタル者ハ其代價ヲ追徵スヘシ

第十四條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第一項ノ場合ハ此限ニアラス

第十五條 醬麴營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタル時ハ總テ其營業者ヲ處罰ス

●醬油稅則 明治十八年五月第十號布告

醬油稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス 但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣神戶縣札幌縣根室縣ハ當分ノヲ施行セス

醬油稅則 第一條 凡ソ醬油溜リヲ併稱ス製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 免許ヲ受ケタル者ハ左ノ通營業稅及ヒ造石稅ヲ納ムヘシ 營業稅 製造場一箇所ニ付 金五圓

造石稅 製造高壹石ニ付 金壹圓 第三條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第四條 醬油製造人廢業スルトキハ管廳ニ届出免許鑑札ヲ還納スヘシ 第五條 免許鑑札ハ貸借賣買及ヒ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分テ前半年分ハ其年一月三十一日限後半年分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ免許鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第七條 造石稅ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其節之ヲ納ムヘシ 第一期 五月三十一日限

第二期 一月一日ヨリ四月中檢査濟石數ニ係ル稅額 九月三十日限

第三期 五月一日ヨリ八月中檢査濟石數ニ係ル稅額 翌年一月三十一日限

第九月一日ヨリ十二月中檢査濟石數ニ係ル稅額 第八條 醬油ハ製成ノ後五日以内ニ管廳ニ届出檢査ヲ受クヘシ

收稅

第九條 廢業ノ際未製成ノ醬油ヲ所持スル者ハ其節管廳ニ届出検査ヲ受ケ其石數ニ就キ納税スヘシ但之ヲ同業者ニ賣渡シ又ハ二箇所以上ニ於テ製造スル者其一箇所以上ヲ廢シ尙ホ存スル所ノ製造場ニ之ヲ移ス者ハ其旨届出製成ノ上其製成者ニ於テ第八條ニ從ヒ検査ヲ受クヘシ

第十條 検査未済ノ醬油ト検査既済ノ醬油トヲ混和スル者ハ其混和ノ日ヨリ五日以内ニ其旨管廳ニ届出更ニ総石數ヲ以テ検査ヲ受ケ納税スヘシ

第十一條 検査既済ノ醬油其造石税納期内ニ非常ノ損害ニ罹リテ廢棄ニ屬シ若クハ廢敗シタルトキハ直ニ管廳ニ申出検査ヲ受ケ該造石税ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條 外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節税關ニ於テ検査ヲ受ケ置輸入港税關ノ陸揚免狀若クハ其他ノ證據ト爲ルヘキ書類ニ在留領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ當初輸出ノ税關ニ差出シ其造石税ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請フコトヲ得但造石税ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ再輸入シタルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十三條 醬油製造人ハ左ノ帳簿ヲ調製スヘシ
醬油製造原品買入帳
醬油仕込帳

醬油賣上帳

第十四條 醬油製造用ノ容器ハ使用以前管廳ニ届出検査ヲ受クヘシ
第十五條 醬油搾リ器械ニハ主任官ノ封緘ヲ受ケ置使用スルトキハ其旨申出開封ヲ請フ

ヘシ但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳ニ届出更ニ封緘ヲ請フヘシ

第十六條 醬油製造人ハ毎年一月三十一日迄ニ其年製造見込ノ石數並ニ其製造方法ヲ管廳ニ届出ヘシ新ニ開業セシ者ハ免許ヲ受ケタル翌日ヨリ十五日以内ニ之ヲ届出ヘシ但見込石數ノ増減並ニ製造方法ノ變換ハ其時々届出ヘシ

第十七條 醬油製造ニ屬スル倉庫納屋並ニ諸器械ハ營業免許ヲ受ケタルトキ直ニ之ヲ管廳ニ届出ヘシ但増減ハ其時々届出ヘシ

第十八條 醬油製造人ハ他ノ依托ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メ製造場ヲ貸スコトヲ許サス

第十九條 醬油製造人ハ自家用料ニ充ル醬油ト雖モ此規則ニ從ヒ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ

第二十條 醬油卸賣又ハ小賣ヲ以テ營業トスル者ハ自家用料ノ醬油ヲ製造スルトキ得ス
第二十一條 醬油營業人ニ非スシテ自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ同居ノ家族雇人一人ニ付一箇年壹斗五升ノ割合ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十二條 醬油製造人ノ醬油仕込高並ニ仕込ニ屬スル豆麥其他ノ原品及ヒ營業ニ關スル諸帳簿ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第二十三條 主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り証憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但主任官ノ証票ヲ携帯スヘシ

第二十四條 第一條ニ違ヒ免許鑑札ヲ受ケスシテ醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五拾圓

收税

以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ醬油及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ追徴ス

第二十二條ニ違ヒ御賣人小賣人ニ於テ醬油ヲ製造シタル者亦本條ニ據リ處分ス

第二十五條 醬油ヲ隱蔽シタル者ハ製成ト未製成トニ拘ハラズ其石數ニ相當スル造石稅

三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル醬油及ヒ容器ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金

ヲ追徴ス但檢査既濟ノ醬油ト檢査未濟ノ醬油トヲ混和シテ隱蔽シタル者ハ其總石數ニ

就テ論ス

第二十六條 第八條第九條第十條ノ檢査ヲ受ケヌシテ醬油ヲ賣捌貸渡讓渡又ハ自用シタル者ハ其造石稅ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ仍ホ其代金ヲ追徴ス

第二十七條 第十八條ニ違ヒ他ノ依託ヲ受ケテ醬油ヲ代造シ又ハ製造場ヲ貸シタル者又

ハ第二十一條ノ制限ヲ超ヘテ醬油ヲ製造シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ

仍ホ其醬油及ヒ容器ヲ沒收ス

第二十八條 第五條ニ違ヒ免許證札ヲ賣買貸借及ヒ讓受讓渡シタル者第十三條ニ違ヒ帳簿ヲ調製セス若クハ帳簿ノ登記ヲ詐リタル者第十四條ニ違ヒ檢査ヲ受ケヌシテ容器ヲ

使用シタル者又ハ第十五條ニ違ヒ開封ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條 第三條第四條第八條第九條第十條第十五條但書第十六條又ハ第十七條ノ届

出テ怠リタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒ

第三十一條 醬油製造人ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

○外國輸出醬油造石稅下戻手續 明治十八年七月太

本年五月第十號布告醬油稅則第十二條ニ據リ外國ニ輸出スル醬油ニ對シ造石稅金下戻ノ手續左ノ通相定ム

第一項 外國輸出ニ係ル醬油ノ稅金下戻ヲ請ントスルトキハ甲號書式ノ願書二通ヲ輸

出港稅關ニ差出シ其現品ノ檢査ヲ經テ檢査濟ノ證明書ヲ受ケヘシ

第二項 造石稅金ノ下戻ヲ請フニハ乙號書式ノ願書ニ輸入港在留領事ノ檢印ヲ受ケタル陸揚免狀若クハ其他ノ書類領事不在ノ港ニ於テハ該港稅關ノ通關證及當初輸出港

稅關ノ證明書ヲ添ヘ該稅關ニ差出スヘシ

第三項 外國ニ輸出シ造石稅金ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ更ニ輸入スルトキハ丙號書式ノ願書ヲ稅關ニ差出シ現品ノ檢査ヲ受ケ其造石稅ヲ納ムヘシ

(書式略之)

○醬油稅則取扱心得 明治十八年五月大藏省第二十二號達

本年五月第十號ヲ以テ醬油稅則公布相成候ニ付右稅則取扱心得書別冊之通定ム但別冊ハ主務局ヨリ送付スベシ(別冊略之)

取稅

○醬油醱貯藏方 明治十八年九月 大藏省第六十七號達

醬油醱ノミ貯藏場所等ノ件自今左ノ通り相心得ヘシ

一 醬油醱ノミ貯藏スル場所ハ製造場區域外ト雖モ稅則取扱心得書第三號但書ニ準據ス

一 營業中都合ニ依リ醬油醱ヲ營業者ニ賣渡ハ差支ナシ
但本文ノ場合ニ於テハ賣渡人ヨリ其趣届出シメ檢査員ノ證明書ヲ添付シ更ニ買受人ヨリ其地ノ檢査員ニ申出檢査ヲ受ケシムヘシ

●菓子稅則 明治十八年五月 第十一號布告
菓子稅則別紙ノ通制定シ明治十八年七月一日ヨリ施行ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分之ヲ施行セス
菓子稅則

第一條 菓子營業者ヲ分テ左ノ三種トス

菓子製造人 菓子ヲ製造シ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子卸賣人 菓子ヲ買入レ之ヲ菓子營業者ニ賣渡ス者ヲ云フ

菓子小賣人 菓子ヲ需用人ニ賣渡ス者ヲ云フ

第二條 菓子營業ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ届出營業鑑札ヲ受クヘシ但一人ニテ二箇所以上ノ營業場ヲ設クル者又ハ二種以上ノ營業ヲ兼スル者ハ各別ニ營業鑑札ヲ受クヘシ

第三條 菓子營業者自己又ハ家族雇人ヲ以テ仕入又ハ出賣ヲ爲サントスルトキハ管廳ニ届出仕入鑑札又ハ出賣鑑札ヲ受ケ各自之ヲ携帯スヘシ

第四條 鑑札ヲ受クルトキハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢

仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢

出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第五條 鑑札ヲ失却毀損シ又ハ代替改名轉居セシトキハ管廳ニ届出其再渡又ハ書換ヲ請フヘシ但前條ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

第六條 菓子營業者廢業スルトキハ管廳ニ届出鑑札ヲ還納スヘシ

第七條 鑑札ハ貸借賣買又ハ讓受讓渡ヲ爲スコトヲ得ス

第八條 菓子營業者ハ左ノ區別ニ從ヒ營業稅ヲ納ムヘシ但二種以上ノ營業ヲ兼ヌル者ハ其稅額ノ多キモノニ就キ納稅スヘシ

製造營業稅

雇人十人以上アル者 一ケ年 金貳拾圓

雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓

雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓

雇人二人以下アル者 一箇年 金五圓

雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

取稅

卸賣營業稅

雇人十人以上アル者 一箇年 金貳拾圓
 雇人六人以上アル者 一箇年 金拾五圓
 雇人三人以上アル者 一箇年 金拾圓
 雇人二人以下アル者 一箇年 金五圓
 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

小賣營業稅

雇人三人以上アル者 一箇年 金七圓
 雇人二人以下アル者 一箇年 金三圓
 雇人ナキ者 一箇年 金壹圓

二種以上ヲ兼タル營業者ノ雇人ハ各種ヲ別タス之ヲ合算スルモノトス
露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ其營業稅ヲ免除ス

第九條 營業稅ハ一箇年ヲ二期ニ分チ前半分ハ其年一月三十一日限後半分ハ同ク七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ開業スル者ハ營業鑑札ヲ受クルトキ其半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第十條 營業稅前半分ハ其年一月一日後半分ハ同ク七月一日ノ雇人ノ現員又新ニ開業スル者ハ其營業鑑札ヲ受クルトキノ現員ニ據リ定ムヘシ但雇人増加シタルトキハ該期ノ増稅ヲ納ムヘシ

第十一條 菓子製造人ハ製造稅トシテ菓子賣上金高百分ノ五ヲ左ノ期限ニ從ヒ納ムヘシ

第一期 一月一日ヨリ六月三十日 其年八月三十一日限

第二期 七月一日ヨリ十二月三十一日 翌年二月二十八日限

第十二條 菓子營業者ハ毎年一月一日七月一日現在雇人ノ員數氏名ヲ取調其月十五日限又新ニ開業スル者ハ出願ノトキ管廳ニ届出ヘシ但増員アルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ

第十三條 菓子製造人ハ毎年其製造高及ヒ賣上金高ヲ左ノ通管廳ニ届出ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業ト爲ス者ハ此限ニアラス

一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分 其年七月十五日限

七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分 翌年一月十五日限

第十四條 菓子製造人ハ菓子並ニ其製造原品ノ賣買ヲ帳簿ニ記載シ置ヘシ但露店又ハ呼賣ヲ業トナス者ハ此限ニアラス

第十五條 菓子營業者ノ帳簿倉庫營業場及ヒ營業物品ハ主任官隨時之ヲ検査スルコトアルヘシ

第十六條 主任官ニ於テ此規則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入り證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但其主任タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第十七條 第二條ニ從ヒ營業鑑札ヲ受ケスシテ菓子營業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ現在ノ菓子及ヒ製造器械ヲ沒收ス既ニ賣捌キタル者ハ其代金ヲ

收稅

追徴ス

第十八條 第十二條第十三條ノ届書又ハ第十四條ノ帳簿ニ詐偽ノ記載ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第三條ニ違ヒ鑑札ヲ携帯セズシテ仕入又ハ出賣ヲ爲シタル者及ヒ第七條ニ違ヒ鑑札ヲ貸借賣買又ハ譲受讓渡シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第五條第六條第十二條第十三條ノ届出ヲ怠リタル者及ヒ第十四條ノ帳簿ニ記載ヲ怠リタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十一條 此規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不諭罪及ヒ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十二條 菓子營業者ノ家族雇人ニシテ其營業ニ係リ此規則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

●煙草稅則 明治二十一年四月 勅令第二十號

煙草稅則 第一條 煙草營業者ヲ分テ左ノ三種トス

煙草製造人 葉煙草ヲ買受ケ刻煙草又ハ卷煙草ヲ製造スル者

煙草仲買人 葉煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草製造人又ハ同業者ニ賣渡ス者

煙草小賣人 製造煙草ヲ買受ケ又ハ人ノ依頼ニ由リ之ヲ煙草小賣人又ハ同業者ニ賣渡ス者

製造煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ヨリ買受ケ之ヲ自用者ニ賣捌ク者

第二條 煙草營業者ヲ爲サントスル者ハ管廳ニ願出營業場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ但營業者未丁年癩癩白癩又ハ瘡啞ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第三條 煙草製造營業ノ免許ヲ受クル者ハ正實ニ營業者ヲ爲シ此稅則ヲ遵守スヘキヲ證約スル爲メ証約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

證約狀ニハ左ノ定限内ニ於テ大藏大臣定ムル所ノ証約金額ヲ記入スルモノトス 證約金 營業場一箇所毎ニ五拾圓以上五百圓以下

煙草製造人此規則ヲ犯シ証約ニ背キタルトキハ其犯罪ノ輕重ニ依リ管廳ニ於テ證約金ノ一部若クハ全部ヲ徵收スヘシ

第四條 煙草營業者煙草ノ仕入出賣ヲ爲シ又ハ家屬雇人ヲシテ之ヲ爲サシムルトキハ管廳ニ申出鑑札ヲ受置キ之ヲ携帯シ又ハ携帶セシムヘシ

第五條 鑑札ヲ受ル者ハ左ノ鑑札料ヲ納ムヘシ

煙草營業鑑札料 一枚ニ付金貳拾錢

煙草仕入鑑札料 一枚ニ付金拾錢

煙草出賣鑑札料 一枚ニ付金拾錢

第六條 煙草營業者ハ各左ノ營業稅ヲ納ムヘシ

煙草製造營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金拾五圓

煙草仲買營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金拾五圓

煙草小賣營業稅 營業場一箇所ニ付一箇年金五圓

取稅

第七條 煙草營業稅ハ毎年兩度ニ區分シ前半年分ハ一月三十一日限後半年分ハ七月三十一日限之ヲ納ムヘシ但新ニ營業鑑札ヲ受クルトキハ其節該半年分ノ營業稅ヲ納ムヘシ

第八條 煙草製造ハ煙草ヲ製造シタルトキハ其定價十分ノ二ノ割合ヲ以テ煙草印紙ヲ貼用スヘシ

第九條 製造煙草ハ一定ノ包裹ヲ施シテ之ヲ密封シ自己ノ印章ヲ以テ其貼用印紙ニ消印スヘシ

第十條 煙草營業者ハ帳簿ヲ調製シ營業ニ係ル要領ヲ記載スヘシ

第十一條 外國ニ輸出スル製造煙草ハ輸出ノ節稅關ノ檢査ヲ受置キ輸入港稅關ノ陸揚免狀若クハ其他証憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ稅關ニ差出シ其印紙稅ニ相當スル金額ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル煙草ヲ本邦ニ輸入スルトキハ更ニ其金額ヲ納ムヘシ

第十二條 煙草耕作人煙草仲買人ハ其所持スル葉煙草ヲ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡貸渡讓渡スルコトヲ得ス

第十三條 煙草製造人煙草仲買人ハ煙草耕作人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ葉煙草ヲ買受貸受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ葉煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十四條 煙草仲買人ハ煙草製造人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス但質流又ハ抵當流ノ製造煙草ヲ買受クルハ此限ニアラス

第十五條 何人ニテモ製造人ニ雇使セラル、ノ外人ノ依頼ヲ受ケテ煙草ヲ製造スルコト

ヲ得ス

第十六條 煙草耕作人ニアラサル者ハ自用ノ爲メタリトモ煙草ヲ製造スルコトヲ得ス煙草耕作人ニ限リ自用ノ爲メニ煙草ヲ製造スルコトヲ得ト雖モ之ヲ賣渡貸渡讓渡スルコトヲ得ス

第十七條 煙草小賣人ハ煙草製造人又ハ煙草仲買人ニアラサル者ヨリ製造煙草ヲ買受借受讓受クルコトヲ得ス

第十八條 煙草營業者ハ無印紙不足印紙ノ製造煙草若クハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ所持シ又ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 何人ニテモ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ煙草營業者ヨリ買受クルコトヲ得ス

第二十條 鑑札ハ賣買貸借及讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 煙草印紙ハ管廳ノ許可ヲ得タル賣捌所ノ外ニ於テ買買スルコトヲ得ス

第二十二條 煙草營業者ノ營業場倉庫其他ノ場所及營業ニ關スル帳簿物品ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其証票ヲ携帯スヘシ

第二十三條 營業免許ヲ受ケスシテ煙草營業ヲ爲シタル者ハ遁脫ニ係ル營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス第十五條又ハ第十六條第二項ヲ犯シタル者ハ製造營業稅三倍ノ罰金ニ處シ仍ホ其煙草及器械ヲ沒收ス

第二十四條 第九條第十八條ヲ犯シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯

罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十五條 帳簿ノ記載ヲ偽リ若クハ故ラニ記載ヲ爲サスシテ脱稅ヲ謀リ又ハ脱稅シタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十六條 第四條第二十一條ヲ犯シタル者又ハ帳簿ノ調製記載ヲ怠リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第二十一條ヲ犯シタル者ハ仍ホ其印紙ヲ沒收ス

第二十七條 第十二條第十三條第十四條第十七條ヲ犯シタル者又ハ質流抵當流ノ葉煙草ヲ煙草製造人煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シ又ハ質流抵當流ノ製造煙草ヲ煙草仲買人ニアラサル者ニ賣渡シタル者ハ三圓以上三拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草ヲ沒收ス

第二十八條 第十六條第一項第二十條ヲ犯シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其犯罪ニ係ル煙草及物品ヲ沒收シ第十六條第一項ヲ犯シタル者ハ仍ホ其器械ヲ沒收ス

第二十九條 煙草自用者ニシテ葉煙草若クハ無印紙ノ製造煙草又ハ包裹ノ解綻毀損シタル製造煙草ヲ買受ケタル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 此稅則ヲ犯シ沒收スヘキ物品ニシテ既ニ之ヲ賣渡シ又ハ消糜シタルトキハ其代金ヲ沒收ス

第三十一條 此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減刑再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第三十二條 煙草營業者ノ家屬雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其營業者ヲ處罰ス

煙草營業者未丁年癩癩白痴又ハ瘡啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第三十三條 煙草印紙ノ種類及此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第三十四條 此稅則ハ明治二十一年七月一日ヨリ施行ス

附則

第三十五條 沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セズ但此稅則施行ノ地ニ煙草ヲ輸送スルトキハ此稅則ニ從フヘシ

第三十六條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草營業者ニシテ第二條但書ニ該當スル者ハ後見人ヲ立テ三月以内ニ管廳ニ届出ヘシ

第三十七條 此稅則發布以前ニ免許ヲ受ケタル煙草製造人ハ三月以内ニ第三條ニ依リ証約狀ヲ管廳ニ差出スヘシ

第三十八條 此稅則施行以前ヨリ煙草仲買人煙草小賣人ノ所持スル卷煙草ハ煙草製造人ニ依リシ又ハ自ラ包裹ヲ施シ印紙ヲ貼用スヘシ

第三十九條 此稅則發布以前ニ裝置シタル刻煙草ハ此稅則施行ノ日ヨリ三月以内ハ之ヲ賣捌クコトヲ得

前項ノ期限ヲ過キ賣捌ニ至ラサル刻煙草ハ其所持人ニ於テ煙草製造人ニ依リシ又ハ自ラ此稅則ニ從ヒ包裹ヲ施シ更ニ印紙ヲ貼用スヘシ

○煙草稅則施行細則 明治二十一年四月 大藏省第三号

今般勅令第二十號ヲ以テ煙草稅則改正ニ就キ右施行細則左ノ通相定ム

取稅

烟草稅則施行細則

- 第一條 稅則第二條ニ依リ烟草製造又ハ烟草仲買營業ノ免許ヲ願出ル者ハ其營業ニ關スル地所建物ノ位置構造圖面ヲ其願書ニ添テ管廳ニ差出ヘシ但免許ヲ受タル後異動ヲ生シタルトキハ其時々管廳ニ届出ヘシ
- 第二條 稅則第三條ノ證約金額ハ證約者ノ雇人、器械ノ員數及其建物ノ坪數ニ應シ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム
- 第三條 烟草製造營業免許ヲ受ケタル者ハ其營業ニ關スル家屋倉庫ノ圖面製造器械ノ種類筒數及ヒ雇人、弟子、職工ノ數(職工ハ其住所ニ)ヲ其府縣ノ租稅檢査委員派出所ニ届出ヘシ但異動ヲ生シタルトキハ其時々之ヲ届出ヘシ
- 第四條 稅則第二條但書及第三十六條ノ場合ニ於テ左ニ掲クル者ハ發見人ト爲ルコトヲ得ス
 一 公權ヲ剝奪又ハ停止セラレタル者
 一 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 第五條 稅則第三十六條第三十七條ノ手續ヲ履行セサルトキハ營業免許ノ効ヲ失フモノトス
- 第六條 烟草營業者營業場外ニ住居スルトキハ其家屬又ハ雇人中ニ於テ營業人自己ノ代

理人タルヘキ者ヲ豫メ定メ置キ之ヲシテ其營業場内ニ常住セシムヘシ但代理人ノ氏名ハ租稅檢査員派出所ニ届出ヘシ

第七條 稅則第四條ノ仕人出賣ヲ爲スコトヲ得ル家屬雇人ハ其營業者ト同居常住ヲ爲ス者ニ限ル

第八條 烟草印紙ノ種目ハ左ノ如シ

黑色	一枚	二厘
淡赭色	一枚	三厘
黃色	一枚	四厘
赭色	一枚	六厘
萌黃色	一枚	八厘
淡青色	一枚	一錢
茶褐色	一枚	壹錢貳厘
淡紅色	一枚	壹錢六厘
桔梗色	一枚	壹錢八厘
橙黃色	一枚	貳錢
老綠色	一枚	貳錢四厘
濃青色	一枚	三錢
淡黑色	一枚	三錢貳厘

取稅

黃綠色	一枚	四錢
嬌栗色	一枚	四錢八厘
紫色	一枚	六錢
朱色	一枚	六錢四厘
赤色	一枚	八錢

第九條 製造煙草ノ包裹每一箇ノ定量種々ハ左ノ制限ニ從フヘシ

刻煙草每一包(函)ニ付 百匁入、八十匁入、六十匁入、五十匁入、四十匁入、三十匁入、二十匁入、十五匁入、十匁入、五匁入

卷煙草每一包(函)ニ付 二百本入、百本入、五十本入、二十本入、十本入、六本入

第十條 稅則第八條第九條ノ場合ニ於テ製造者ハ各種煙草一束毎ニ各之ヲ紙袋入り又ハ紙包入りトシ其包裹ノ接キ目、合セ目等ハ糊類ヲ以テ之ヲ完全ニ固着シテ貼用印紙ヲ毀損セザレハ煙草ヲ取出スヲ得サル様ニ密封スヘシ

製造煙草ノ量日本數定價氏名住所及ヒ製造ノ年月日ハ普通ノ文字ヲ以テ鮮明ニ之ヲ其包裹ノ表面ニ記入スヘシ

第十一條 煙草印紙ハ數枚連貼スルコトヲ得

第十二條 製造煙草每一箇ノ定價錢位ニ滿タサル端數ナルトキハ四捨五入ノ例ニ依リ貳厘印紙ヲ貼用スヘキモノトス

第十三條 毀損又ハ汚染セル印紙ハ其効ナキモノトス

第十四條 烟草營業者ハ既ニ用ヒタル烟草印紙又ハ其包裹ヲ所持スルコトヲ得ヌ又何人ニテモ之ヲ賣買若シクハ讓渡讓受ヲ爲スコトヲ得ヌ

第十五條 烟草營業者ハ商品見本トシテ各種刻煙草五匁紙卷煙草十本葉卷煙草五十本ニ超ヘサル包裹ヲ切抜キ之ヲ店頭ニ陳列スルコトヲ得

第十六條 稅則第九條貼用印紙ノ消印ハ曲尺經七分以上ノモノヲ用ヒ黒肉ヲ以テ其包裹封緘ノ要部ト印紙ノ彩紋トニ掛テ之ヲ押捺スヘシ

第十七條 煙草製造人製造スル煙草ハ其自用ニ供スル者ト雖トモ總テ煙草稅則ニ從フヘシ

第十八條 煙草製造人、仲買人ニシテ葉煙草ヲ買入レ又ハ預リタルキハ一俵、一「カマス」又ハ一束毎ニ其葉ノ種類量目及ヒ(買入レ預リ)タル番號年月日(賣リ預ケ)主ノ住所、資格、氏名ヲ記シタル標札ヲ附ケ置クヘシ

第十九條 煙草營業者ハ第三條ニ依リ租稅檢査委員派出所ニ届出タル家屋倉庫ノ外ニ煙草ヲ藏置スルコトヲ得ヌ但葉取葉拵又ハ賃卷ノ爲ニ煙草ヲ職工ニ渡ス場合ハ此限ニアラス

第二十條 煙草營業者又ハ煙草耕作人葉煙草又ハ製造煙草ヲ運送スルトキハ送狀ヲ其荷物ニ添付スヘシ

第二十一條 煙草送狀ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 葉煙草ノ種類、番號、荷造ノ區別、箇數量目、荷數、荷(送受)主ノ氏名、住所

收稅

一 製造煙艸ノ種類、包裹ノ區別、箇數、荷(送受)主ノ氏名、住所

第三十二條 煙艸製造人ハ煙艸印紙買入帳ヲ調製シ印紙買入ヲ爲ス毎ニ之ヲ携帯シ印紙賣捌人ヲシテ左ノ事項ヲ記載シ其名下ニ押印セシメ置クヘシ

一 印紙賣渡ノ年月日

一 印紙ノ種類枚數

一 賣捌人ノ氏名住所

第二十三條 輸出製造煙艸ノ檢査ヲ受ケントスルモノハ種類、箇數、定價、印紙稅額ノ仕譯書ヲ添ヘ輸出稅關ニ願出ヘシ但印紙稅ノ下戻ヲ受ケタル製造煙艸ヲ本邦ニ輸入シ其金額ヲ納ムルトキモ亦同シ

第二十四條 稅則第十條ノ帳簿ノ調製記載ノ方式ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ム

第二十五條 送狀ヲ添付セサル煙草荷物ハ租稅檢査員其荷物ノ運送ヲ差留ムルコトアルヘシ

第二十六條 代替ノトキ若クハ鑑札ヲ遺失毀損シ又ハ氏名住所營業場ヲ改易シタルトキハ管廳ニ届出左ノ期日以内ニ鑑札ノ書換又ハ再渡ヲ請フヘシ但稅則第五條ニ從ヒ鑑札料ヲ納ムヘシ

一 代替書換ハ六十日間

一 其他ノ書換再渡ハ十日間

第二十七條 煙草稅則及此規則ニ掲ケル帳簿書類ハ三箇年間保存スヘシ

第二十八條 煙草營業者廢業ノ節ハ租稅檢査員派出所ニ届出其製造器械ニハ當該官吏ノ封印ヲ受クヘシ

第二十九條 第九條第十條第十四條第十九條第二十條第三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第一條第三條第六條第十六條第十八條第二十一條第二十二條第二十六條第二十七條第二十八條第三十一條ニ違犯シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第三十條 稅則第三十八條及第三十九條第二項ノ場合ニ於テ煙草營業者包裹ヲ施シ又ハ印紙ヲ貼用スルトキハ稅則第八條第九條ノ手續ニ從フヘシ

第三十一條 從來免許ヲ受ケテ煙草營業ヲ爲ス者ハ本年七月三十一日マテニ第一條及第三條ノ届出ヲ爲スヘシ

船稅規則 明治十六年四月
第十三號布告

船稅規則別冊ノ通制定シ明治十六年七月一日ヨリ施行ス

但船稅ニ關スル從前ノ布告府達ハ廢止ス

船稅規則

第一章 鑑札 稅率 免稅

第一條 凡ソ船舶ハ此規則ニ依リ課稅スル者トス

第二條 船舶所有主ハ其船舶定繫場ヲ定メ定繫場所在ノ地方廳ニ願出檢査ヲ受ケ鑑札ヲ乞フヘシ

取稅

第三條 新規造船シタル者其造船場所在ノ府縣管内ニ定繋場ヲ定メサル時ハ該廳ニ願出
 檢査ヲ受ケ假鑑札ヲ乞ヒ定繋場ニ回漕ノ上其地方廳ニ願出本鑑札ト引換ヲ乞フヘシ
 第四條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生スル時ハ其定繋場所在ノ地方廳ニ願出
 檢査ヲ受ケ鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ
 第五條 船舶ヲ買賣讓與シタル者ハ双方連署ノ上買賣讓受主ノ定ムル定繋場所在ノ地方
 廳ニ願出鑑札ノ引換ヲ乞フヘシ
 第六條 船舶ノ稅率ハ左ノ如シ
 西洋形蒸氣船 百噸ニ付一年金拾五圓
 同風帆船 同 同 金拾圓
 日本形船積石五拾石以上 百石ニ付同金貳圓
 同積石五拾石未滿 同積石未滿
 舢舨船小廻船 積石ニ 長 自舢舨 三間迄ハ一年金三拾錢
 舢舨船小廻船 積石ニ 長 自舢舨 三間迄ハ一年金五拾錢
 但三間以上壹間ヲ加フル每ニ金拾五錢ヲ增加ス
 遊 船 長 自舢舨 三間迄ハ一年金五拾錢
 但三間以上壹間ヲ加フル每ニ金貳拾五錢ヲ增加ス
 第七條 本鑑札又ハ假鑑札ハ航行若クハ回漕ノ時之ヲ本船ニ所持スヘシ
 但日本形積石五拾石未滿ノ船並舢舨船小廻船遊船ノ本鑑札ハ其船ニ釘付スヘシ
 第八條 解船破船又ハ水火盜難等ニ因リ船舶ヲ失ヒタル者ハ其旨定繋場所在ノ地方廳ニ

届出鑑札ヲ還納スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル時或ハ改名代替ノ時或ハ船號ヲ改メ若クハ定繋場ヲ變換
 シタル時ハ其旨定繋場所在ノ地方廳ニ願出鑑札ノ再渡若クハ引換ヲ乞フヘシ
 第十條 左ニ掲クル船舶ハ其稅ヲ免除ス其所有主ハ地方廳ニ届出免稅ノ烙印ヲ乞フヘシ
 倉庫船 水田ノ耕作ニ用フル船 水災ノ爲メ陸地ニ備ヘ置ク船 橋梁ニ換ヘ渡場ノ
 ミニ用フル船 船橋ノ組成ニ用フル船 航海中本船ニ掲ケ置ク傳馬船「ハツテラ」
 船ノ類

第二章 納稅

第十一條 稅金ハ一年ヲ二期ニ分チ一月一日七月一日現在ノ船舶ヨリ徵收スルモノトス
 其前半半分ハ一月三十一日限り後半半分ハ七月三十一日限り定繋場所在ノ地方廳ニ上
 納スヘシ
 第十二條 新規造船シタルモノハ鑑札ヲ受クル時該期ニ係ル稅金ヲ上納スヘシ
 第十三條 船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタル時ハ次期ヨリ其積量又ハ間數
 ニ隨ヒ稅金ヲ納ムヘシ
 第十四條 他管下ニ定繋場ヲ定ムルモノハ該地ニ代人ヲ定メ連署ノ上其定繋場所在ノ地
 方廳ニ届出納稅ヲ辨セシムヘシ
 第十五條 本籍管内ニ定繋場ヲ定メタル者不在ノ時ハ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納稅ヲ
 辨セシムヘシ

收稅

第十六條 假鑑札ヲ受ケタル船舶定繫場ニ回漕納税期限ニ係ル時ハ豫メ定繫場所在ノ地ニ代人ヲ定メ其地方廳ニ届出納税ヲ辨セシムヘシ

第十七條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ル者ハ處罰ノ後其税金ヲ追徴ス

第三章 罰則

第十八條 此規則ヲ犯シ脱税ニ係ル者ハ其脱税高五倍ノ科料若クハ罰金ニ處ス

第十九條 免税船舶有税船ノ用ニ充テタルモノハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條 第三條第五條第七條第九條第十四條第十五條第十六條ヲ犯シタル者及第十條ノ免税船ニ烙印ヲ受ケサル者ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第二十二條 此規則ニ依リ罰金若クハ科料ニ處スル者ハ刑法ノ不諭罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス但刑法第七十五條第七十六條ノ場合ハ此限ニアラス

●車税規則 明治八年二月第二十七號布告

明治六年一月第三十一號布告僕婢馬車人力車駕籠乘馬遊船諸税規則昨七年十二月卅一日限リ相廢シ尤遊船ノ儀ハ本年一月一日ヨリ昨七年二月第二十一号布告解漁船並ニ海川小廻船等船税規則ニ照準收税シ車税ノ儀ハ改テ車税規則左ノ通相定メ同月同日ヨリ施行候條此旨布告候事

第一則

- 一 馬車二匹以上 一箇年税金三圓

- 一 馬車一匹立 一箇年税金貳圓

- 一 荷積馬車 一箇年税金壹圓

- 一 人力車二人乘 一箇年税金貳圓

- 一 同 一人乘 一箇年税金壹圓

- 一 牛車 一箇年税金壹圓

- 一 荷積大七六八車 一箇年税金壹圓

- 一 荷積中小車但大六以下 一箇年税金五拾錢

第二則

一新調ノ車ハ總テ其都度區戶長ヘ届出檢印可申受事

但從前所持ノ分ニテ檢印無之牛車荷積車等ハ更ニ檢印可申受事

第三則

一新調ノモノハ六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納税シ破解ノ者ハ七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納税候儀ト可相心得事

第四則

一 右税金上納ハ年々兩度ニ區別シ半箇年分宛區戶長ヘ取集メ其管轄廳ヘ可相納事但昔但前年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ其管轄廳ヘ可相納事十一月第四號布告改正

第五則

收税

一 荷積車等之内耕作一途ニ相用候分ハ免税タルヘキ事

第六則

一 諸車類無届ニテ營業スル歟又ハ使用スル者ハ脱税高ノ五倍科料タルヘキ事

○ 免税車取締方明治八年三月大藏省乙第四十號達

本年第二十七號公布車稅規則中第五則荷積車ノ内耕作一途ニ相用候車類ハ車稅免除ノ檢

印[免税]ヲ爲取締一車毎ニ燒記候上免税致シ候儀ト可相心得此旨相達候事

○ 車稅徵收區分明治十四年九月大藏省乙第三十二號

八年第二十七號公布車稅規則中人力車ノ儀横巾内法曲尺二尺未滿ヲ以テ一人乗トシ右以

上ヲ以テ二人乗ト相定メ區別可致此旨相達候事

○ 明治十一年七月大藏省乙第三十五號達

車稅規則中荷積車ノ儀ハ荷臺全ク荷物ヲ積ノ縱横相乘尺積十四坪以上ヲ以テ大七車以上

トシ右未滿ヲ以テ中小車大六載スル場所以下ト相心得更ニ區別可致此旨相達候事

● 牛馬賣買免許稅規則明治五年十一月第

牛馬賣買渡世ノ者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相

定候條各管内共區々ノ取計無之様可致候事

牛馬賣買渡世ノ者免許稅ノ儀昨辛未十二月中大藏省ヨリ相達候處今般別紙規則書ノ通相

則相定候條是迄相渡候免許鑑札ハ引換相渡シ引上候分ハ各府縣廳ニ於テ取纏メ燒捨其段

可申立候其餘ハ規則ニ隨ヒ處置可致事

壬申十月

規則

大藏省

第一條 各管轄所ニ於テ其管下牛馬賣買渡世ノ者取調牛馬一鼻綱ニ付免許鑑札壹枚相渡可申事

但一鼻綱ハ牛馬共七匹ニ限鑑札壹枚ヲ所持スル者旅行ノ時ハ七匹以内二枚ヲ所持スル者ハ十四匹ニ限ルヘシ其餘准之可申事

第二條 免許鑑札新裁願受候者六月以前ハ全年分七月以後ハ半年分納稅シ廢業ノ者七月以後ハ全年分六月以前ハ半年分納稅可致事七年第四十五號

第三條 免許鑑札萬一燒失流盜難等ニテ失ヒ候モノ有之其段申出候ハ、事實取調鑑札相渡可申事

第四條 免許鑑札一枚ニ付一ヶ年稅金壹圓上納可致事

但右稅金前半年分ハ一月三十一日限リ後半年分ハ七月三十一日限リ其管轄廳ヘ可相納事十一年第四號

第五條 免許鑑札燒印並押切判ハ雜形ノ通其管轄所ニテ製造致シ各稼人共ヘ相渡可申事

但鑑札相渡次第稼人共國郡町村名及ヒ名面等詳細取調右鑑札印鑑相添ヘ當省ヘ可差出事

第六條 右様取締相立候上ハ向後無鑑札ニテ賣買不相成萬一無鑑札ニテ密々賣買候者有之相顯ルニ於テハ牛馬共取上ケ免許稅十倍ノ科料可申付事

取稅

但密賣買候者他ヨリ見出シ訴出ルニ於テハ其訴主へ取上ケ牛馬拂代金ノ十分ノ二稜美トシテ被下候事

第七條 取上牛馬拂代並科料金等ノ儀ハ第四條但書ニ照準上納可致事

第八條 此規則施行ニ付諸入費ハ一ケ年試驗ノ上可申立事

第九條 免許鑑札ハ貸借決テ不相成候事七年第百三十號布告追加

但免許鑑札借受賣買スルモノハ規則第六條密賣買ノ廉ニ照シ處分可致貸渡候者ハ免許稅五倍ノ科料可申付事

(雜形零之)

賣藥印紙稅規則 明治十五年十月五十一號布告

賣藥印紙稅規則左ノ通相定來明治十六年一月一日ヨリ施行ス

賣藥印紙稅規則

第一條 賣藥ニハ必ス定價ヲ附記シ其定價ニ從ヒ營業者ニ於テ左ノ割合相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

一定價壹錢迄	印稅壹厘
一同 貳錢迄	同 貳厘
一同 三錢迄	同 三厘
一同 五錢迄	同 五厘

一同 拾錢迄 同 一錢

以上總テ五錢迄毎ニ五厘ヲ增加ス

第二條 印紙種目ハ左ノ如シ

壹厘	淡黑色
貳厘	青色
三厘	黃色
五厘	茶褐色
壹錢	赭色
貳錢	綠色
三錢	濃青色
四錢	橙黃色
五錢	紫色
拾錢	深紅色

第三條 印紙ハ藥品ノ容器又ハ包紙等ニ貼用シ營業者ニ於テ之ヲ消印スヘシ

但印紙面ノ中心ヨリ他所ヘ掛ケ消印スヘシ

第四條 賣藥印紙ハ官ノ許可シタル賣捌所ニ限リ賣捌クモノトス

第五條 營業者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ

印紙不足ノ藥品ヲ發賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

取稅

第六條 請賣者行商者ニシテ無印紙ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上百圓以下ノ罰金ニ處シ印紙不足ノ藥品ヲ所持シ若クハ之ヲ販賣シタル者ハ貳圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 貼用印紙ニ消印セサル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 印紙賣捌所ノ外ニ於テ印紙ヲ賣捌ク者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス其情ヲ知リテ之ヲ買受ケタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其品ヲ沒收ス(雛形略之)

○賣藥印紙交換規則 明治十九年七月大藏省令第二十三號

第一條 賣藥營業人所持ノ賣藥中性効ヲ失シタルモノヲ廢棄センカダメ既貼ノ印紙不用ニ屬スル場合ニ於テ一人分既貼印紙額一ト口十圓以上ハ其願出テニ由リ左ノ割合ヲ以テ新印紙ト交換スヘシ

一 既貼印紙拾圓以上壹圓ニ付 交換新印紙八拾錢

一 貳拾圓以上壹圓ニ付 同 八拾五錢

第二條 賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用方完全ナラサルモノ反ヒ印紙ノ汚染毀傷シタルモノハ交換スルヲ得ス

第三條 賣藥印紙ノ交換ヲ願出ツル者ハ賣藥ノ筒數及印紙各種枚數ノ仕譯ヲ爲シタル書面ヲ添ヘ其賣藥ヲ所在府縣廳ニ差出シ検査ヲ受クヘシ

第四條 府縣廳ハ其賣藥ヲ検査シ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷スルヲ以テ受取濟ノ

證ト爲シ其賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ下付スヘシ

第五條 北海道廳長官府縣知事ハ臺帳ニ記載シタル納稅者他管ヘ移住送籍スルトキハ不納ニ係ル書類ヲ取纏メ其管廳ヘ引繼チナシ同時ニ大藏省ニ報告スヘシ

第六條 前條中繼チ受ケタル管廳ニ於テハ之ヲ臺帳ニ記入シ追徵ノ手續ヲ爲スヘシ ○無印紙ノ賣藥買受ケ預置又ハ所持ヲ禁ス 明治十九年十月大藏省令第三十一號

賣藥自用者ニ於テ無印紙ノ賣藥ヲ買受ケ預置キ又ハ所持スルヲ得ス犯ス者ハ金會圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス

●證券印稅規則 明治七年五月第十一號布告

明治七年 月 第八十一號布告證券印稅規則別冊ノ通改正シ明治十七年七月一日ヨリ施行ス 但明治八年 月 第七百貳拾號布告ハ同日ヨリ廢止ス

證券印稅規則

第一條 凡ソ財産ノ授受及ヒ契約ノ證明ニ用フル證書帳簿ハ此規則ニ循ヒ印紙ヲ貼用スヘシ

第二條 證書帳簿ヲ分チテ二類トス其稅率ハ左ノ如シ 第一類

左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ金高ノ有無多寡ニ拘ハラヌ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ但當座預リ金引出小切手ハ大藏省ニ稅印ノ押捺ヲ請フコトヲ得 一當座預リ金引出小切手 印稅五厘

取稅

- 一 委任狀 同 五厘
- 一 金高記載ナキ約定証文 同 壹錢
- 一 遺物証文 同 壹錢
- 一 跡式讓証文 同 壹錢
- 一 讓與証文 同 壹錢
- 一 期限ヲ定メサル預リ金証文 同 壹錢
- 一 耕地小作証文 同 壹錢
- 一 雇人請合狀 同 壹錢
- 一 金高記載ナキ諸物品預リ証文 同 壹錢
- 一 金高記載ナキ諸物品借用証文 同 壹錢
- 一 地所預リ証文 同 壹錢
- 一 家屋預リ証文 同 壹錢
- 一 諸物品切手 同 壹錢
- 一 借地証文 同 壹錢
- 一 借家証文 同 壹錢
- 一 質買仕切書 同 壹錢
- 一 保險証文 同 壹錢
- 一 諸會社株券 同 壹錢
- 一 送金手形 同 壹錢
- 一 金錢判取帳同 同 壹錢
- 一 諸物品判取帳同 同 壹錢

一 金 錢 同貳拾錢
 一 諸物品判取帳同 同 壹錢
 一 結社約定書 同 壹錢
 但結社約定書ニ金圓授受貸借ニ係ル條項アリテ之カ効力ヲ確定スル證書帳簿ハ金高記載ナシト雖モ第二類金高記載アル諸般ノ契約證書ニ準シ印紙ヲ貼用スヘシ
 左ニ掲クル所ノ證書ハ金高五圓以上ノモノニ限り下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ
 一 營業ニ關スル送狀 印稅壹錢
 一 營業ニ關スル請取書 同 壹錢
 右諸証書ヲ通帳ト爲ストキハ都テ一年以内一冊ニ付壹錢ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第二類

左ニ掲クル所ノ證書ハ金高ノ多寡ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ割合ヲ以テ印紙ヲ貼用スヘシ
 但爲替手形約束手形ハ手形用紙ヲ用フヘシ
 一 金錢借用証文
 一 地所賣買証文
 一 家屋賣買証文
 一 金高記載アル諸物品預リ証文
 一 金高記載アル諸物品借用証文
 一 諸物品賣買証文
 一 金錢定期預リ証文
 一 金高記載アル諸般ノ契約證書

取稅

金高壹圓以上貳拾圓未滿	印稅壹錢
金高貳拾圓以上五拾圓未滿	同貳錢
金高五拾圓以上百圓未滿	同四錢
金高百圓以上百五拾圓未滿	同六錢
金高百五拾圓以上貳百圓未滿	同八錢
金高貳百圓以上三百圓未滿	同拾壹錢
金高三百圓以上四百圓未滿	同拾四錢
金高四百圓以上六百圓未滿	同貳拾錢
金高六百圓以上八百圓未滿	同貳拾六錢
金高八百圓以上千圓未滿	同三拾貳錢
金高千圓以上千四百圓未滿	同三拾八錢
金高千四百圓以上千七百圓未滿	同四拾四錢
金高千七百圓以上貳千圓未滿	同五拾錢
金高貳千圓以上貳千五百圓未滿	同六拾錢
金高貳千五百圓以上三千圓未滿	同七拾錢
金高三千圓以上三千五百圓未滿	同八拾錢
金高三千五百圓以上四千圓未滿	同九拾錢
金高四千圓以上	同壹圓

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿

印稅四錢

金高百圓以上總テ諸證書稅率ニ據ルヘシ

一金錢當座預リ証文

一質物預リ書

金高壹圓以上貳拾圓未滿

印稅壹錢

金高貳拾圓以上

同貳錢

右諸證書ヲ通帳ト爲ストキハ其附込見積金高ニ隨ヒ下ニ定ムル所ノ印紙ヲ貼用スヘシ

金高百圓未滿

印稅貳錢

金高百圓以上

同四錢

一爲替手形

一荷爲替手形

一約束手形

金高五拾圓未滿

印稅壹錢

金高五拾圓以上百圓未滿

同貳錢

金高百圓以上貳百圓未滿

同四錢

金高貳百圓以上五百圓未滿

同八錢

金高五百圓以上千圓未滿

同拾五錢

收稅

金高千圓以上貳千圓未満

同貳拾五錢
同五拾錢

第三條 前條ニ掲クル所ノ證書帳簿ト効用ヲ同フスルモノハ其名稱ニ拘ハラズ稅率ニ照シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第四條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ヲ第五條ノ手續ニ循ヒ印紙ヲ貼用セサルモノ民事裁判上之ヲ受理セス但處罰ヲ受クル後印紙ヲ貼用シタルモノハ此限ニアラス

第五條 印紙ハ證書ノ差出人又ハ帳簿主ニ於テ證書ハ授受前帳簿ハ使用ノ前ニ貼用シ證書帳簿記名ノ下ニ押捺スル印紙ヲ以テ證書帳簿ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ清印スヘシ

第六條 印紙及手形用紙ノ種類定價ハ布達ヲ以テ之レヲ定ム

第七條 印紙及手形用紙ハ官ノ許可ヲ得タル賣捌所ニ非サレハ之ヲ賣捌クコトヲ得ズ

第八條 印紙ヲ貼用スヘキ帳簿仕切書送狀ハ主任官之レヲ檢査スルコトアルヘシ

第九條 左ニ掲クル所ノ證書帳簿ハ印紙ヲ貼用スルコトヲ要セス
一 官廳ヨリ差出ヌ證書帳簿
一 官廳準官吏若クハ布告布達又ハ達ヲ以テ定メタル職員若クハ公立學校病院ニ從事スレモノ各其職務ニ依テ用フル證書

一 國庫金取扱所又ハ爲替方ヨリ官廳ニ對シタル諸上納金ノ預リ證書帳簿
一 金員記載アル官廳ヨリノ命令書ニ對シ國庫金取扱所又ハ爲替方ヨリ差出ヌ證書

一 諸上納金ニ付國庫金取扱所又ハ爲替方ヨリ納人へ差出ヌ請取證書

一 罹災救助金獻金寄附金ニ關シ人民ヨリ官廳ニ差出ヌ證書
第十條 第二類ノ帳簿ハ初丁へ附込見積金高及ヒ使用期限紙數ヲ記載スヘシ但物品ノ授受ニ關スル者ハ其代價ヲ記載スヘシ

第十一條 證書帳簿ニ稅率ノ異ナルモノヲ雜記スルトキハ各相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十二條 印紙貼用濟第二類ノ帳簿見積金高又ハ使用期限ノ滿チタルトキハ其旨該帳簿ニ記載シ置キ主任官檢査ノ節之レニ檢印ヲ受クヘシ

第十三條 前條ノ帳簿餘白アリテ尙之レヲ使用セントスルトキハ第十條ノ手續ヲ以テ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十四條 第二類ノ帳簿見積金高未ダ滿タサルカ又ハ使用期限未ダ盡キサルニ紙數盡キタルトキハ更ニ紙數ヲ增加スルコトヲ得此場合ニ於テハ其帳簿初丁見積金高又ハ期限ノ側ニ其事由及ヒ増加シタル紙數ヲ記載スヘシ

第十五條 證書帳簿ニ外國貨幣ヲ以テ員數ヲ記載スルトキハ內國ノ貨幣ニ改算シタル金高ヲ附記シ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十六條 取換セ證書ハ雙方トモ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十七條 證書ニ副證書ヲ附シ又ハ裏書等ヲ爲シ本證書ト効用ヲ異ニスルモノ若クハ金高ニ増減ヲ生スルモノハ其副書又ハ其裏書ニ就キ更ニ相當ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第十八條 此規則ヲ犯シ脫稅ニ係ル者ハ處罰ヲ受クル後證書帳簿ノ受取人ニ於テ相當ノ

印紙ヲ貼用スルコトヲ得

- 第十九條 印紙ヲ貼用スヘキ證書帳簿ニ之レヲ貼用セス若クハ貼用不用スルモノ及ヒ手形用紙ヲ用ヒス若クハ不足税ノ手形用紙ヲ用ヒタルモノハ脱税高二十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ
- 第二十條 第十八條ノ場合ヲ除ク外第五條ノ手續ニ據リテ消印ヲ爲シ又ハ他ノ印ヲ以テ消印シタルモノハ印税高十倍ノ科料又ハ罰金ニ處ス其證書帳簿ヲ受取タルモノ亦同シ
- 第二十一條 此規則ヲ犯シタル證書帳簿ニ請人証人トシテ加印シタルモノハ各正犯ニ係ル科料罰金ノ半額ニ相當スル科料又ハ罰金ニ處ス
- 第二十二條 第八條ノ證書帳簿ノ檢査ヲ拒ミタルモノハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十三條 第十條及ヒ第十三條ヲ犯シタルモノハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十四條 第十二條及ヒ第十四條ヲ犯シタルモノハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス
- 第二十五條 第七條ヲ犯シタルモノハ所持ノ印紙及ヒ賣得金ヲ沒收シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス
- 第二十六條 前數條ノ罪ヲ犯シタルモノハ刑法ノ不論罪及減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

○證券印紙及手形用紙種類定價 明治十七年五月太政官第十二號布達

今般第十一號布告ヲ以テ証券印紙規則改正候ニ付テハ印紙及手形用紙ノ種類定價左ノ通り相定ム

但印紙ハ當分ノ内新舊取交貼用スルコトヲ得

印紙	定價五厘
赭色	同 壹錢
橙黃色	同 貳錢
黃綠色	同 五錢
萌黃色	同 拾錢
桔梗色	同 廿五錢
青色	同 五拾錢
淡黑色	同 壹圓
赤色	定價壹錢
手形用紙	同 貳錢
老綠色	同 四錢
桔梗色	同 八錢
淡黑色	同 拾五錢
橙黃色	
淡赭色	

收稅

淡紅色
淡青色
淡黃色

同廿五錢
同五拾錢
同壹圓

○証券印紙貼用様式 明治十七年五月大藏省第九十六號告示
本年五月第十一號布告証券印稅規前改正相成候ニ付證書帳簿へ印紙貼用ノ様式左ノ通相定候條此旨告示候事

離形零之 十七年六月第八十一號告示ヲ以テ印紙様式中
(本年限)トアルチ (何年何月ヨリ) (何年何月マテ) (何年)ト更ム

○証券印稅檢査規程 明治十七年八月大藏省第六十號
本年五月第十一號布告ヲ以テ証券印稅規則改正相成候ニ付右檢査規程左ノ通相定ム

証券印稅檢査規程

- 第一項 府縣收稅官吏ハ明治十七年第十一號布告証券印稅規則第八條ニ記載セル證書帳簿ノ檢査ヲ行フヘシ
- 第二項 檢査チ分テ二ト爲シ一チ定期檢査トシ一チ臨時檢査トス
- 第三項 定期檢査ハ毎年四五六ノ三ヶ月間ニ於テ之ヲ行ヒ臨時檢査ハ該檢査チ必要トスル場合ニ於テ之ヲ行フヘシ
- 第四項 檢査員ヲ派遣スルニハ府縣管内チ數部ニ區畫シ每部其擔當員二名以上ヲ定ムヘシ

- 第五項 檢査員ハ其擔當部内ノ商況戶數及路程ノ遠近ニ應シ一町村若クハ數町村ヲ以テ一區トシ區内ノ便宜ヲ量リ檢査場ヲ設クヘシ
- 第六項 檢査員ハ該シメ檢査日割ヲ定メ其日割及前條檢査場チ其區内ノ町村ニ告知スヘシ
- 第七項 臨時檢査ノ節ハ時宜ニヨリ前第五項第六項ノ手續ヲ履行セザルヲアルヘシ
- 第八項 檢査ヘ力メテ便捷ヲ要シ人民ノ營業ニ障害ナキチ圖ルヘシ
- 第九項 檢査員檢査ノ要領左ノ如シ
 - 一 証券帳簿上印紙貼用ノ有無當否
 - 一 帳簿見積金高及使用期限紙數記載方ノ有無當否
 - 一 貼用印紙消印ノ有無當否
 - 一 印紙再貼用又ハ印紙偽造變造ノ有無
 - 一 帳簿調製上詐偽ノ有無
- 第十項 檢査員ハ豫メ帳簿ヲ備ヘ受檢査人ノ宿所職業姓名及証券帳簿ノ種類員數チ記載スヘシ
- 第十一項 証券帳簿ノ檢査チ受ケサルモノ又ハ之ヲ受クルモ尙疑訝ニ涉ルモノアルトキハ直チニ本人家宅ニ就テ檢査チ爲スヘシ
- 第十二項 檢査員ハ檢査セシ証券帳簿ニ檢印スヘシ

收稅

第十三項 十八年四月大藏省第十七號

達ヲ以テ删除セラレ

●民事訴訟用印紙規則 明治十七年二月

民事訴訟用印紙規則別紙ノ通制定シ明治十七年四月一日ヨリ施行ス

但明治八年 十二月 第九十六號布告訴訟用印紙規則ハ右施行ノ日ヨリ廢止ス

民事訴訟用印紙規則

第一條 凡ソ民事訴訟ノ書類ニハ此規則ニ從ヒ印紙ヲ貼用スルモノトス

第二條 訴狀ニハ正本一通ニ付請求ノ金額ニ應シ左ノ區別ニ隨ヒ其受付ノ時ニ於テ印紙

ヲ貼用スヘシ

金額	五圓マテ	貳拾二錢
價額	拾圓マテ	三拾錢
同	貳拾圓マテ	六拾錢
同	五拾圓マテ	壹圓五拾錢
同	七拾五圓マテ	貳圓貳拾錢
同	百圓マテ	三圓
同	貳百五拾圓マテ	六圓五拾錢
同	五百圓マテ	拾圓
同	七百五拾圓マテ	拾三圓

同 千圓マテ 拾五圓
 同 貳千五百圓マテ 貳拾圓
 同 五千圓マテ 貳拾五圓

同五千圓以上ハ千圓マテ毎ニ貳圓ヲ加フ

控訴ニ於テハ右半額上告ニ於テハ全額ノ印紙ヲ貼用スヘシ

第三條 人事其他金額ニ見積ル可ラサルモノハ三圓ノ印紙ヲ貼用ス可シ其控訴上告ニ於テ加貼スルハ前條ニ同シ

但人事ニ於テハ極貧ノ者ニシテ戶長ノ證書ヲ所持スル者ハ裁判官ニ於テ印紙ノ貼用ヲ免スルコトアル可シ

第四條 左ノ書類ニハ正本一通ニ付貳拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

答辨書證據物寫辨駁書辨論書上申書陳述書等

証人鑑定人評價人引台人等ノ呼出ヲ請求スル願書

審判ノ延滞ヲ請求スル願書

第五條 左ノ書類ニハ正本一通ニ付五拾錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

官吏ノ臨檢ヲ請求スル願書

財産差押又ハ物品公賣ヲ請求スル願書

執行命令書ヲ請求スル願書

身代限ノ處分ヲ請求スル願書

收稅